OPEN FACTORY

REPORT 1.0

はじめに

＜本紙の位置づけ＞

関西（本事業においては、「関西」を福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の２府５県と定義する）では、中小企業が主役となる地域一体型のオープンファクトリーが各地で誕生している。これらオープンファクトリーを地域で一体となって取り組む中で様々なイノベーションが生まれ、それらを創出する鍵となるキーパーソンが存在する。

近畿経済産業局による令和３年度調査（※1）においては、オープンファクトリーがイノベーションを生み出すための今後のアクセルポイントとして、「交流」を起点とした「産地の顔」×「産地の顔」や、「産地の顔」×「大企業等」がフラットに出会える「ナレッジシェア・ポート（知識移転の場）」の創出と、「日本全国に広がる各地の取組の可視化」を示唆したことから、今年度、どの地域にどのような取組が広がっているかを各地の地方経済産業局と連携しながら調査を進めてきた。

そこで、本紙においては、今年度調査から明らかとなった各地の取組内容やその特徴、キーパーソンを紹介するほか、共に取組を支える CO-LEADERS や事務局も紹介する。また、今年度実施してきた「ナレッジシェア・ポート」や「知見融合会議」の開催結果、今年度調査のまとめについても紹介する。

(※1) 令和３年度関西の地域一体型オープンファクトリーを発展させるテクニカル・ビジット及びグッド・イミテーション実証調査

＜本紙で取り扱うオープンファクトリーとは＞

地域一体型オープンファクトリーとは、ものづくりに関わる中小企業や工芸品産地など、一定の産業集積がみられる地域を中心に、企業単独ではなく、地域内の企業等が面として集まり、生産現場を外部に公開したり、来場者にものづくりを体験してもらう取組を示す。

なお、本紙において紹介する事例については、以下の要件を満たすものを前提とする。

①業種や従来の商習慣の枠組みを超えた、「多様なプレイヤー」が「主体的」に取り組むもの。
②取組において、共通として共有される目的や理念（コアバリュー）が存在すること。
③リアルの現場（工場 / 工房や付加価値を生み出す現場）(※2) を実際に五感で体感する仕組みとなっていること。

(※2) 特定の場所に企業が集合して実施するポップアップ型オープンファクトリーにおいても、近隣に他の地域一体型オープンファクトリーが存在し、当該イベントとの相乗効果が想定されるものは満たすものとする。

＜地域区分について＞

本紙で掲載する地域一体型オープンファクトリーの地域区分は、経済産業省各経済産業局の管轄区域で区分している。
各経済産業局と管轄区域は以下のとおり。

経済産業局名	管轄地域
北海道経済産業局	北海道
東北経済産業局	青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
関東経済産業局	東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県
中部経済産業局	富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県
近畿経済産業局	福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国経済産業局	岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県
四国経済産業局	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州経済産業局	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
内閣府沖縄総合事務局経済産業部	沖縄県

※地域内の都道府県名は順不同

INDEX

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー

MAP 4

TIMELINE 6

Meet up Furniture Asahikawa（あさひかわデザインウィーク） 8

OPEN FACTORY KORIYAMA 10

かぬまオープンファクトリー 12

彩の国オープンファクトリー 14

浅草エーラウンド 16

台東モノマチ 18

スミファ すみだファクトリーめぐり 20

おおたオープンファクトリー 22

かつしかライブファクトリー 24

あやせ工場オープンファクトリー 26

燕三条 工場の祭典 28

五泉ニットフェス 30

ハタオリマチのハタ印 32

共生 Shizuoka Craft Week 34

ニラサキオープンファクトリー 36

市場街（高岡クラフト市場街） 38

around 40

GEMBA モノヅクリエキスポ 42

関の工場参観日 44

ひつじサミット尾州 46

こもガク 48

RENEW 50
千年未来工藝祭 52
DESIGN WEEK KYOTO 54
大正・港・西淀川オープンファクトリー 56
FactorISM 58
泉州オープンファクトリー 60
みせるばやお 62
ワークワクワク河内長野 64
こーばへ行こう！ 66
開工神戸 -KOBE OPEN FACTORY- 68
CRAFT VILLAGE 70
SG ストリート NARA 72
和歌山ものづくり文化祭 74
黒江るるる 76
つやまエリアオープンファクトリー 78
瀬戸内ファクトリービュー 80
えひめさんさん物語 82
NEXTRAD 84

Ⅱ . その他 各地の取組について 86

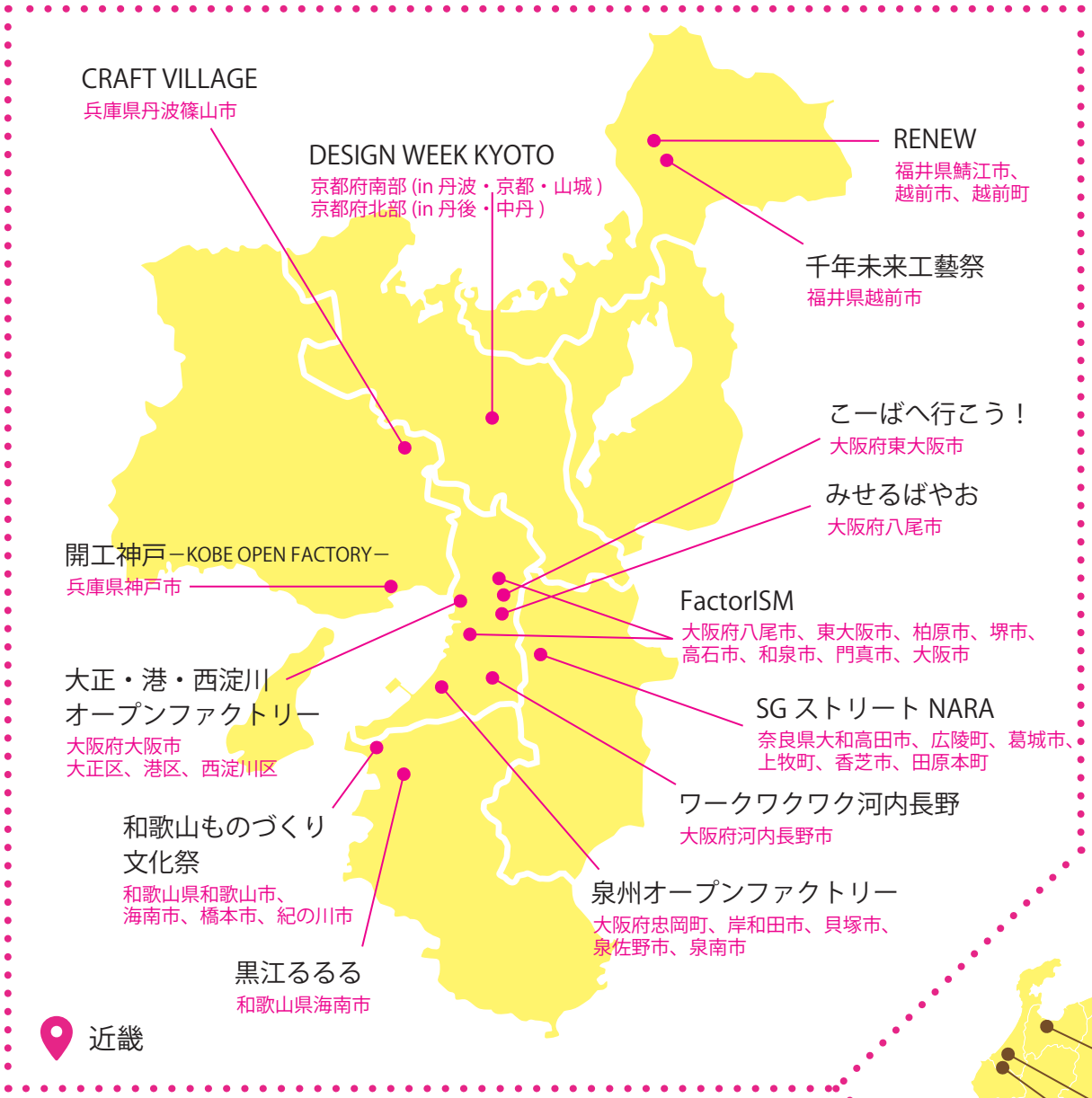
遠野しごと展、〜職人探訪〜十日町きもの GOTTAKU、OSAKA 町工場 EXPO

Ⅲ .「ナレッジシェア・ポート」開催結果 90

Ⅳ .「知見融合会議」開催結果 92

Ⅴ . 今年度調査のまとめ 94

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー MAP - 全国の地域一体型オープンファクトリー MAP-



北海道
Meet up Furniture Asahikawa (あさひかわデザインウィーク)
北海道旭川市、東川町、東神楽町、当麻町、美瑛町
五泉ニットフェス
新潟県五泉市
燕三条 工場の祭典
新潟県三条市、燕市
かぬまオープンファクトリー
栃木県鹿沼市
彩の国オープンファクトリー
埼玉県さいたま市、入間市、久喜市、
加須市、川越市、狭山市、草加市、
秩父市、坂戸市、本庄市
ニラサキ
オープンファクトリー
山梨県韮崎市
東北
OPEN FACTORY
KORIYAMA
福島県郡山市
共生 Shizuoka Craft Week
静岡県内
市場街（高岡クラフト市場街）
富山県高岡市
GEMBA モノヅクリエキスポ
石川県小松市
around
石川県加賀市
ハタオリマチのハタ印
山梨県富士吉田市、西桂町
あやせ工場オープンファクトリー
神奈川県綾瀬市
中部
おおたオープンファクトリー
東京都大田区
スミファ すみだファクトリーめぐり
東京都墨田区
台東モノマチ
東京都台東区
浅草エーラウンド
東京都台東区
かつしかライブファクトリー
東京都葛飾区
関東

TIMELINE - 全国の地域一体型オープンファクトリータイムライン表 -

本タイムラインは、2022 年度の開催日に基づいて作成（2022 年度に開催していない場合は、直近の開催日を記載）。年により開催時期が変更となる可能性がある。

2022

開催月	都道府県	イベント名	2022 年度開催日
4 月	愛　媛	えひめさんさん物語	4/20-11/24 (※2019 年開催)
5 月	東　京	台東モノマチ	5/27-29
	東　京	浅草エーラウンド（春）	5/26-29
	栃　木	かぬまオープンファクトリー	5/30-6/1 (※2019 年開催)
6 月	奈　良	SG ストリート NARA	6/12 (※2021 年開催)
	北海道	Meet up Furniture Asahikawa (あさひかわデザインウィーク)	6/22-26 (ADW：6/18-26)
7 月	岡　山	つやまエリアオープンファクトリー	7/22-23
8 月	福　井	千年未来工藝祭	8/27-28
9 月	神奈川	あやせ工場オープンファクトリー	9/3, 10, 10/1,15
	富　山	市場街（高岡クラフト市場街）	9/23-25
10 月	福　島	OPEN FACTORY KORIYAMA	10/28-10/29
	新　潟	燕三条 工場の祭典	10/7-9
	福　井	RENEW	10/7-9
	東　京	浅草エーラウンド（秋）	10/14-16
	山　梨	ハタオリマチのハタ印	10/22-23
	大　阪	FactorISM	10/27-30
	東　京	かつしかライブファクトリー	10/29
	愛知・岐阜	ひつじサミット尾州	10/29-30
	三　重	こもガク	10/29-30
	兵　庫	CRAFT VILLAGE	10/29-11/3

2023

11月

広　島	瀬戸内ファクトリービュー	11/2-3 (※2019 年開催)
佐　賀	NEXTRAD	11/3-5
石　川	GEMBA モノヅクリエキスポ	11/3-6
和歌山	和歌山ものづくり文化祭	11/5-6
和歌山	黒江るるる	11/6
京　都	DESIGN WEEK KYOTO（in 丹後・中丹）	11/10-13
埼　玉	彩の国オープンファクトリー	11/1- 12/4
静　岡	共生 Shizuoka Craft Week	11/12-13
岐　阜	関の工場参観日	11/17-19
東　京	スミファ すみだファクトリーめぐり	11/18-19
大　阪	こーばへ行こう！	11/18-19
新　潟	五泉ニットフェス	11/19-20
大　阪	ワークワクワク河内長野	11/22-24
東　京	おおたオープンファクトリー	11/26

12月

大　阪	泉州オープンファクトリー	12/1-3
東　京	浅草エーラウンド（冬）	12/8-9

1月

山　梨	ニラサキオープンファクトリー	1/20-21

2月

京　都	DESIGN WEEK KYOTO（in 丹波・京都・山城）	2/16-19
大　阪	大正・港・西淀川オープンファクトリー	2/17-18
石　川	around	2/26

3月

兵　庫	開工神戸ーKOBE OPEN FACTORYー	3/4

大　阪	みせるばやお	常設

2015 年〜

北海道旭川市、東川町、東神楽町、当麻町、美瑛町

Meet up Furniture Asahikawa / 2022

ASAHIKAWA DESIGN WEEK

Meet up Furniture Asahikawa（あさひかわデザインウィーク）

CORE VALUE

家具に出会う。
産地で、会う。

- EVENT DATA -

開始年　：2015 年
開催回数：7 回
開催期間：例年 6 月中下旬
参加企業：18 社（2022 年）
来訪者数：約 7,400 人（2022 年）
主催　　：旭川家具工業協同組合

FEATURES

新時代の産地展

2015 年に「旭川家具産地展」から名称を変更し「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」としてリニューアル。「Meet up Furniture Asahikawa」は、2022 年から旭川市民へ向けて家具以外の地域の団体も参加するイベントへと発展をした「あさひかわデザインウィーク」とともに開催されるプログラムである。世界に誇る木製家具産地としての総合インフラをフル活用した「ものづくりの現場」を舞台に開催。家具やインテリアをキーワードに集う多くの方々と木製家具の未来を共創することを目的とした新時代の産地展である。2022 年は、オープンファクトリーや産地バスツアー等 7 つのコンテンツが実施された。

FUTURE

さらに満足度を高めるための企画へ

参加者のオープンファクトリーの満足度は高いものの、課題として、各社の見どころを見せることと、所要時間が長い点の 2 点がある。前者については、参加企業が同じ木工機械を使用しているので、見学の際に似たような印象を受けるという声も聞く。各社の見どころや特徴をうまく監修し、変化をつけながらコース作成等の企画をしていきたい。後者については、道外からの訪問者は 1 泊 2 日で来られることも多い。ショートコース等、短時間で満足度の高い内容を提供できるように企画していきたい。

INNOVATION

デザイナーとのネットワークから生まれる新たな繋がり

Meet up Furniture Asahikawa には、異業種が協働する「大雪の大切プロジェクト」が参加する。「大雪の大切プロジェクト」は、参加企業である（株）大雪木工が家具デザイナーである小泉誠氏やグラフィックデザイナー等と立ち上げた、モノづくりを続けるために大切なコトを探求し続けるプロジェクト（2015 年スタート）である。

こうしたプロジェクトの活動を続けながら、（株）大雪木工と小泉氏はゆるやかに連携してきており、他産地の異業種事業者との繋がりもできた。

実際、小泉氏のもとカキモリ（東京・蔵前の文具店）や、坂爪スプリング製作所（新潟・三条の金属）と（株）大雪木工のコラボ商品が生まれている（今後販売予定）。また、Meet up Furniture Asahikawa 開催期間中は、小泉氏とコラボ商品を生み出した 3 社でライブセッションも実施した。（一部オンライン）

元々、旭川家具では、デザイナーを始めとする外部パートナーとの連携が多く、他地域との連携にもつながっている。その背景には、もともと 1990 年から旭川独自のデザインコンペを行っていたことがある。コンペに向けてコラボ製品をつくるなど、長年培われたデザイナーとのネットワークがあり、これは旭川家具の大きな強みでもある。「東京では会えない（会わない）人に、旭川では会える」という声も聞く。デザイナー同士でも互いに時間がなくて東京ではなかなか会えないが、旭川 (Meet up Furniture Asahikawa) に参加することで、ゆっくり話す時間を設けられる等、交流を深める機会になっている。

●事務局連絡先
旭川家具工業協同組合　事務局
〒 079-8412　北海道旭川市永山 2 条 10 丁目 1 − 35
TEL 0166-48-4135

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

SOMEYA NORIYOSHI

染谷 哲義 氏

株式会社カンディハウス
代表取締役社長
ADW（ASAHIKAWA DESIGN WEEK）
初代プロジェクトリーダー

1996 年 株式会社インテリアセンター（現 株式会社カンディハウス）に入社し、企画部長を経た後、2013 年に同社の取締役マーケティング本部長に就任。2016 年に取締役 企画本部長、2020 年 専務取締役 営業本部／企画本部 統括、2021 年 3 月に代表取締役社長に就任。2015 年にリニューアルを行なった「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」プロジェクトチームの初代リーダーに就任し、積極的にイベントを推進した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

藤田 哲也 氏

株式会社カンディハウス　代表取締役会長
旭川家具工業協同組合　理事長
あさひかわデザインウィーク実行委員会　副会長

1982 年に株式会社インテリアセンター入社。営業・販売業務を経験した後、1998 年株式会社カンディハウス横浜を起業。2007 年取締役営業本部長として同社復帰後、2013 年に代表取締役社長、2021 年に代表取締役会長に就任。旭川家具産地の成長と発展を目指し、ASAHIKAWA DESIGN WEEK 等を推進。旭川家具を通して地域の活性化に貢献している。

旭川家具工業協同組合

次の森を育てながら家具をつくるという想いのもと、41 社の組合員で活動する。活動内容は、共同展示場事業・共同購買事業・共同受注事業・共同物流事業等。

旭川家具
ASAHIKAWA DESIGN

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

2代目プロジェクトリーダー
佐々木 雄二郎 氏

Meet up Furniture Asahikawa リーダー
小助川 泰介 氏

あさひかわデザインウィーク担当
茂木 雅人 氏
旭川市

ともにあゆむ

OTHERS

北日本木材株式会社
高原 昌央 氏

旭川市にある木材会社として積極的にオープンファクトリーを実施。イベント期間中には業界関係者や市民向けに木材の製造過程を公開しており運営に協力。

合同会社ココ企画
（産地バスツアー企画）

以前から、木工への理解を深めながらキャンプを行うツアーを企画・開催。2022 年の産地バスツアー企画・運営に協力。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2014 年までは「旭川家具産地展」として長年、プロユーザー向けに家具展を開催していた。旭川家具産地の価値をもっと高めていきたいという思いから生まれたのが「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」である。イベント活性化の為、プロジェクトチームを発足させ、経営者以外の若い人もメンバーに入れるとともに、今まであったイベントを再編成した。こうして新しい視点や若い世代の意見を取り入れることにより、これまでの「旭川家具産地展」が進化した経緯がある。 また、2019 年にユネスコ創造都市ネットワークのデザイン部門に旭川市が加盟してから 2021 年に「あさひかわデザインウィーク」としてイベントが発展をしている。

TOPICS

初開催！旭川木工技能競技大会

新しい核となるコンテンツをつくろうという考えから生まれたのが「旭川木工技能競技大会」。最終形態の家具製品にスポットが当たりがちだが、技術力が旭川家具の強みでもある。これまで製品のコンテストはあったが技術に注目する場がなかったため、技術者にもスポットを当てたいという想いから企画が生まれた。企画内容は限られた時間（1 時間）で課題に取り組み、木工技能を競うもの。予選から 30 名近くが参加、10 名が決勝戦進出。決勝戦は家族含め参加できるよう、Meet up Furniture の最終日である日曜日に開催した。今年初の取り組みであるが、とても盛り上がり、現場のモチベーションに繋がるなど可能性を感じている。

（写真）Meet up Furniture Asahikawa 当日の様子、旭川木工技能競技大会の様子等

2022 年〜

福島県郡山市

OPEN FACTORY KORIYAMA

CORE VALUE

キテミテ

- EVENT DATA -

開始年　：2022 年
開催回数：1 回
開催期間：10 月頃
参加企業：10 社
来訪者数：1 日目：市内高校生 53 名
2 日目：一般来場者 314 名（延べ）
主催　　：オープンファクトリー KORIYAMA 実行委員会

FEATURES

福島県内初のオープンファクトリーイベント

福島県郡山地域の町工場が集まり、普段は見せることのできない工場を公開する「工場見学」や、各社ならではの「ものづくり体験」を提供する、県内初のオープンファクトリーイベント。初日は地元高校生向け、2 日目は一般来場者向けに開催。地元専門学校の学校法人国際総合学園 FSG カレッジリーグと連携するなど、若いエネルギーが溢れるイベントとなっている。

FUTURE

翌年開催に向けた動き・反省点

2022 年は初開催であったが、「1 人でも、ものづくりの楽しさに気付いてもらう」という目標は達成できた。実行委員を始め、企画に参画した学生や従業員やその家族等、関わった人々が「来年はああしたい、こうしたい」と、翌年も開催する前提で話していて、主体的な行動が生まれつつある。参加する各企業がそれぞれに自社のビジョンを持ち、オープンファクトリーを通してそのビジョンを実現していけたら良い。

一方で反省点としては、メイン会場だけを見て満足される来場者も多かったため、次年以降はメイン会場から各工場へ誘導する仕組みをつくりたい。

●事務局連絡先

オープンファクトリー KORIYAMA 実行委員会　事務局
〒 963-0115
福島県郡山市南二丁目 52 番地（公益財団法人郡山テクノポリス推進機構内）

●問い合わせ先　郡山市産業創出課（TEL 024-924-2271）

INNOVATION

地域内での一体感の醸成・未来への種まき

郡山市が 2020 年〜 2021 年に開催した、デザイン思考を取り入れた自社製品の開発支援事業「郡山テックブートキャンプ」に参加した企業が中心となりオープンファクトリーに参加した。これまで BtoB をメインとしてきた企業が多かった中、次は自社製品を掲げ、「地域の方々との交流」という目標に向かい、異業種の枠を超え更に一体感が生まれていった。

また、本オープンファクトリーは、地域の学生との連携が大きな特色である。学校法人国際総合学園 FSG カレッジリーグ内の国際アート＆デザイン大学校では、2022 年キャッチコピーである「キテミテ」のロゴデザインの校内コンペを開催し、選ばれたロゴを参加企業がブラッシュアップして活用した。また、国際ビジネス公務員大学校では、学生が工場を訪問し、SNS 発信に使用するユニークなハッシュタグの提案や、運営メンバーとして参画するなどした。その他、FSG カレッジリーグ各校からはメイン会場に特設ブースを出展した。

「一緒に企画・開催に関わった学生や、オープンファクトリーに来てくれた子どもたちが、将来ものづくりに関わりたいと思ってくれるかもしれない。そのきっかけ作りを続けていきたい。」そんな期待を込めながら、次年度以降も継続して開催する予定である。

「郡山テックブートキャンプ」展示会出展・ワークショップの様子

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

WATANABE TAKUMI

渡辺 拓美 氏

日ノ出工機株式会社　取締役総務部長
OPEN FACTORY KORIYAMA
実行委員長

2019 年日ノ出工機入社。それまで自身が持っていた町工場へのイメージが変わる機会・人・仲間に出会い、そのすべてを多くのひとに伝える場所を作るため、2022 年に「OPEN FACTORY KORIYAMA」を立ち上げる。これからも郡山を中心に、ものづくりのおもしろさや町工場の力を広く発信し、郡山産業の新しい時代を共創することに尽力する。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
石井 祐一 氏
石井電算印刷株式会社　代表取締役

事務局長
横山 竣平 氏
株式会社横山鋼業　営業部

プロデューサー
高橋 学 氏
マナブデザイン株式会社
代表取締役 / プロデューサー / デザイナー

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

参加企業

参加企業全社が実行委員として企画・運営を行った。

パートナー

- 郡山市産業創出課
- 郡山地域テクノポリス推進機構

実行委員会の様子

ともにあゆむ

OTHERS

学校法人国際総合学園 FSG カレッジリーグ（専門学校グループ）

当日の特設ブース出展や、ロゴデザインのコンペティション開催、運営メンバーとしての学生参加、SNS 面でアドバイス等、FSG カレッジリーグ全体として様々な面で協力していただいた。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

実行委員長である渡辺氏は、日ノ出工機株式会社に入社前は、製造業に対してややマイナスイメージを持っていた。同社に入社し、「郡山テックブートキャンプ」で自社製品を作ったことをきっかけに、自分が欲しいモノを形に出来る技術が自社にあることを実感し、仕事への熱量が高まりつつあった。ちょうどその頃、テックブートキャンプに参加した数社で燕三条工場の祭典を視察することとなった。工場の祭典に参加する企業が純粋にかっこよく、大きく感化され、社内外で PR する機会がほしいと考えた。共に視察したメンバーも同様に皆大きく感化され、企画が立ち上がった。

TOPICS

キリンの形をした巨大なガチャガチャ企画

本オープンファクトリーの目玉企画の一つとして、各社製品が当たるガチャガチャを会場内に設けた。参加企業である（株）ケイ・エス・エムが製作したキリンの形をした巨大なガチャガチャである。

ガチャガチャの中には、オープンファクトリー公式ロゴ缶バッジの他、参加企業が提供する自社製品が当たる。会場や各工場のフォトスポットを回ると、ガチャガチャに参加できる仕掛けであり、子どもだけではなく大人にも好評な企画であった。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子等

2018 年〜

栃木県鹿沼市

かぬまオープンファクトリー

CORE VALUE

来て見て感動！
技術と伝統 新発見！

- EVENT DATA -

開始年　：2018 年
開催回数：2 回（2020 年以降コロナ禍により中断）
開催期間：例年 5 〜 6 月頃
参加企業：35 社（2019 年）
来訪者数：約 500 〜 600 人
主催　　：鹿沼オープンファクトリー実行委員会
　　鹿沼商工会議所

FEATURES

日光の歴史深い職人の技に触れる

江戸時代、徳川家康を祀る東照宮の造営にあたり、良質な木材資材のある鹿沼に、全国の腕利き宮大工が集まり宿場町として栄え、今なお家具や製材など「木工の町」と知られる。その特性を活かし、工場をはじめとする製造業の現場を開放するイベントを実施。普段見ることのできない職人技やクラフトマンシップに触れられる他、製作体験やワークショップを行い、地元の子どもたちを中心に、優れた職人技やものづくりの楽しさを体感しながら知ることができ、鹿沼のモノづくりへの愛着と誇りを育むことが狙いとなっている。

FUTURE

オープンファクトリーの魅力のさらなる共有

新型コロナウィルス感染症の影響が長引くなか、かぬまオープンファクトリーは 2020 年以降、開催できていないが、長く続ける覚悟でスタートした。かぬまオープンファクトリーを定着させ、その価値を共有していくプロセスはまさにこれから。オープンファクトリーの表に出てこない効果を一つひとつ丁寧に拾いながら、今後参加する企業、継続参加する企業に届けながら、参加企業を増やし、人があふれるオープンファクトリーとしていきたい。

INNOVATION

作り手たちの意識が変わる

オープンファクトリーを進める側が楽しみながら取り組むこと、そのことを大切に、かぬまオープンファクトリーは展開されている。工場にお客さんが来ることで高まる従業員のモチベーション。従業員もより深く考えるようになり、日頃から 5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を心がけ、工場が綺麗になったという声も多く聞かれるようになった。

木工、金属加工、園芸の協業が生んだ新ブランド

オープンファクトリーを通じて知り合った会社同士での新たな受発注も拡がるとともに、鹿沼独自の産業の技術力を結集し、鹿沼らしさを伝える新ブランドとして世にでる商品も生まれている。

鹿沼市の基幹産業である木工、金属加工、園芸がコラボレーションしたリラクゼーションブランド「KINOMA」。KINOMA プロジェクトチームを構成するのは、木製品製造メーカーの星野工業株式会社と有限会社前田額縁店、機械製造金属加工の株式会社マルイテクノ、皐月盆栽を扱う楽樹園。プロデュースを担う有限会社セメントプロデュースデザインが加わり、新たなライフスタイルを提案する商品として、2022 年 10 月にお披露目された。

受賞アワード

2019 年度「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」奨励賞　受賞

●事務局連絡先
かぬまオープンファクトリー実行委員会（鹿沼商工会議所内）

〒 322-0027 栃木県鹿沼市睦町 287-16
TEL 0289-65-1111

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

かぬまオープンファクトリー実行委員長
HOSHINO EIICHI
星野 詠一 氏
星野工業株式会社 代表取締役

1945 年に桶屋として創業以来、日本古来より親しまれ愛され続ける木製品を一筋に作る木工メーカーの３代目。かぬまオープンファクトリーのネットワークの中心。

MIZUKOSHI KEIGO
水越 啓悟 氏
鹿沼商工会議所 経営支援課 課長

携わる地元の皆様を第一に考えたうえで、東京から 100㎞圏にある恵まれた立地を活かして、ものづくりの面白さ、楽しさを核とした鹿沼ならではのブランディングを進めます。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

ミツワ精機有限会社
吉田 純二 氏

株式会社山口製作所
山口 典孝 氏

有限会社前田額縁店
前田 裕之 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

鈴木 陽介 氏
星野工業株式会社

板山 健 氏
ミツワ精機有限会社

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

鹿沼木工団地協同組合、栃木県木材業協同組合連合会鹿沼支部、鹿沼機械金属工業協同組合などの支援も得ており、オール鹿沼でものづくりのまちを PR します。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

きっかけは、鹿沼商工会議所による「産業観光」プロジェクトの検討。当初は工場を巡るモニターツアーが考えられたが、先進地である「おおたオープンファクトリー」を視察し、子どもたちが目を輝かせて参加する姿に感銘を受け、その可能性を感じた。オープンファクトリーや産業観光自体の理解を得るところからの準備期間は 4 ヶ月という短期間。商工会議所の事務局と連携し、星野氏を中心としたモノづくり企業の仲間の熱意が一気に昇華して実現した。

目的は各社それぞれである点も、かぬまスタイル。目的を一つに絞らず、幅をもたせたオープンファクトリーの狙いを説明し、初回から多くの企業の参加を得た。いわば、各社が描く夢のための土俵を提供しているのが「かぬまオープンファクトリー」である。

TOPICS

サイクルツーリズムなど、まちづくりとの連携

鹿沼商工会議所では、様々なまちづくり活動に取り組んでおり、オープンファクトリーとも組み合わされながら展開されている。地場産業を担う企業との連携によるサイクルスタンドの設置や、地元店の食べ歩きも楽しめる本格的なサイクリングマップの制作、また技能実習生向けにベトナム語版・英語版も発行した。オープンファクトリーとの連携が効果を発揮し、魅力向上や滞在時間の延長につながっている。

（写真）上段：異業種のコラボによって生まれた新ブランド「KINOMA」。
左・右中段：工場見学の様子。下段右：サイクリングツアーも企画に盛り込んだ。

2018 年〜

埼玉県さいたま市、入間市、久喜市、加須市、川越市、狭山市、草加市、秩父市、坂戸市、本庄市

彩の国オープンファクトリー

CORE VALUE

彩りいろいろ

- EVENT DATA -

開始年　：2018 年
開催回数：計 5 回（2022 年）
開催期間：例年 11 月頃
参加企業：計 27 社（2021 年）※入間 5・岩槻 22
来訪者数：約 1,000 名
主催　　：彩の国工業団地連携協議会

FEATURES

工業団地の各々の彩りの発信を協議会がサポート

埼玉県内の工業団地の連携強化を目指す「彩の国工業団地連携協議会」（県内 11 団体で構成）と各工業団地との共催スタイルの「彩の国オープンファクトリー」。連携協議会が全体企画、広報、ネットワークづくり等の役割を担いながら、各工業団地が主体的に企画・運営。工業団地内の企業間の交流、従業員の家族や地域の子どもたちに工業団地を知ってほしいといった狙いは、様々だが、普段は目にすることができない工場での仕事を「見て・触れて・感じて」いただくことでモノづくりのすばらしさを彩り豊かに届けていく。

FUTURE

産業観光への展開と、海外との連携

将来的には、県内の工業団地に効果を実感してもらいながら、県内の工業団地が地域一体となって、仕事の場を観光資源とする「産業観光」による誘客につなげたいと考えている。また、コロナ禍で対応したオンライン・ツールの強化は、世界との直結にもつながる。海外のオープンファクトリー推進団体との交流も始まっており、共通言語である「美」の要素を取り入れながら、若手の中から現状を打破し、地域や社会を良くしたいという思いを持つ人をオープンファクトリーに集めながら、さらなる人づくりにつなげていきたい。

INNOVATION

繋がりを生み、深めるオープンファクトリー

これまで繋がっていなかったところが、オープンファクトリーを機に繋がったことが一番の効果。その繋がりは、工業団地同士、工業会会員企業同士、行政や教育機関のみならず、海外企業との繋がりへと発展している。

工業団地内では、近くにいながら、交流のなかった中小零細企業がお互いを知り、地域が有する高い技術力に改めて気づく機会ともなり、そうした企業間での協業もおこりはじめている。さらに、オープンファクトリーのウェブサイトでの動画配信による国内外へＰＲを進めるなかで、外国企業からの照会を受けるなど、地域企業と外国企業とのマッチングも生まれている。

オープンファクトリーを機に他所の工業団地を訪問するなど、工業団地間の繋がりが深まる機会にもなっている。オープンファクトリー自体も近隣の工業会へと波及し、オープンファクトリーに参加する工業会も徐々に拡大している（2022 年には 6 工業会が参加）。さらにオープンファクトリーの場だけでなく、日常の工業団地の運営（例えば、送迎バスの仕組みなど）といった各工業会の取組のノウハウが共有されるなど、相互の情報交換も活発化している。

また、2021 年の入間市工業会オープンファクトリーでは、地元の西武文理大学の学生と入間市長が未来のものづくりや SDGs をテーマにした対談が行われるなど、新たな出会いによる相互の気づき、発見の場ともなっている。

●事務局連絡先
彩の国工業団地連携協議会事務局
〒 346-0028 埼玉県久喜市河原井町 19 番地
（(株）久喜菖蒲工業団地管理センター内 3 階）
TEL 0480-48-7202

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

MATSUURA HIRONOBU

松浦 広展 氏

彩の国工業団地連携協議会

理事兼事務局長

総合人材サービスの五大工業株式会社を営み、その仕事柄、「企業や人の良さを発見」するのを得意とする。彩の国工業団地連携協議会発足のキッカケは「魅力のある工業団地や企業」がもっと増えればよいという想いから。オープンファクトリーを通して出会う人が輝くよう、引き続き楽しんでいきたい。全国のオープンファクトリーの皆さんのお役に立ちたい、そんな想いで「オープンファクトリーサミット事務局」のオーナーも務めている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

石田 嵩 氏

彩の国工業団地連携協議会 会長

（川越狭山工業会 会長）

小澤 日出行 氏

彩の国工業団地連携協議会 副会長

（岩槻工業団地事業協同組合 理事長）

寺園 智樹 氏

彩の国工業団地連携協議会 副会長

（入間市工業会 会長）

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局担当

橘 明彦 氏

彩の国工業団地連携協議会

事務局担当

林 晴美 氏

WEB 制作担当

田邊 幸裕 氏

株式会社 Tabeo

代表取締役

事務局担当

川上 和宏 氏

彩の国工業団地連携協議会

顧問

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

岩槻工業団地事業協同組合
加須工業会
久喜市清久工業団地連絡協議会
（株）久喜菖蒲工業団地管理センター
東埼玉テクノポリス協同組合
吉野原工業団地連絡協議会
入間市工業会
川越東部工業会協同組合
川越狭山工業会
狭山工業団地工業会
秋父機械電気工業会
富士見工業団地工業会
児玉工業団地

（賛助会員（32 企業、2023 年 1 月時点））

大塚ウエルネスベンディング（株）
キリンビバレッジ（株）
キリンビール（株）
コカ・コーラボトラーズジャパン（株）
五大工業（株）
（株）サイサン
埼玉縣信用金庫
（株）埼玉新聞社
（株）埼玉りそな銀行
（株）JTB
新日本輸送（株）
住協建設（株）
（株）全日警
中国電力（株）
（株）テレビ埼玉
TT彩たま（株）
東京ガス（株）
東京電力エナジーパートナー（株）
（株）日刊工業新聞社
飯能信用金庫
東日本電信電話（株）
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン（株）
（株）武蔵野銀行
マルリ（株）
明治安田生命保険相互会社大宮支社
（株）プリントワークス
日本生命保険相互会社
（株）ジェイコム埼玉・東日本
第一生命保険（株）
大栄不動産（株）
（株）グローナーズ
R＆C（株）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

埼玉県内の工業団地工業会や工業団地連絡協議会などを正会員とし、また多くの協賛企業を賛助会員として、彩の国工業団地連携協議会が 2016 年に設立。各工業団地が抱える「人材採用」「人材育成」「販路拡大」といった課題解決をミッションとし、連携協議会では工業団地間の活発な情報交換、セミナー、インターンシップ等のプログラムを展開。魅力ある工業団地づくりにも繋がるオープンファクトリーに注目し、「燕三条 工場の祭典」を視察、実行委員長を招くなどして、各工業会のやる気を高めていきながら、2018 年よりオープンファクトリーを開始した。

TOPICS

全国、世界の推進団体との交流ネットワーク

彩の国工業団地連携協議会 理事兼事務局長の松浦広展氏らが参加する「オープンファクトリーサミット事務局」では、全国のキーパーソンとつながりながら、各オープンファクトリーの活動紹介やディスカッションを行う「オープンファクトリーサミット」、「オープンファクトリー座談会」をリアル・オンラインで定期的に開催している。オープンファクトリーにかける思いや地域や運営の問題、課題など、全国のオープンファクトリーの情報共有やネットワーク形成の場となっており、今後は欧米など、海外のオープンファクトリーを推進する団体との交流機会づくりも進めていく考え。

（写真）上段・中段左：彩の国ｵｰﾌﾟﾝﾌｧｸﾄﾘｰ WEST2020 モノづくり対談。中段右：彩の国オープンファクトリー in 岩槻 2020 でのリモートチャレンジ裏側の様子。下段左：「はたらく車大集合！」でのクイズ大会の様子。下段右：リモート工場見学でリポーターが紹介する様子。

2013 年〜

東京都台東区

浅草エーラウンド

CORE VALUE

浅草・奥浅草を回遊する革とモノづくりの祭典

- EVENT DATA -

開始年　：2013 年
開催回数：17 回
開催期間：春：5 月、秋：10 月、冬：12 月頃
参加企業：春・冬 10 店、秋 35 組（2022 年）
来訪者数：春 500 人、秋 3,000 人、冬 500 人（2022 年）
主催　　：エーラウンド実行委員会

FEATURES

150 年続く「革のまち浅草」を巡る

革のまちとしての浅草の意外な一面を楽しみながら知ってほしい、そんな想いから始まった浅草エーラウンド。春と冬は、ポップアップスタイルで、都立産業貿易センター台東館が会場の東京レザーフェアとの同時開催。

秋は、まちなかを巡る回遊型で、モノづくりだけでなく飲食店も加わり、奥浅草の魅力を発信する。そのベースは「革と靴」を軸に様々な産業の蓄積と、近世から続くエンターテインメントもモノづくりと捉えたエリアの文化力。普段は非公開の革靴づくりの現場を巡る工房見学、街の飲食店、小売店で展開されるワークショップやマーケット、まち歩き企画等、魅力満載のコンテンツで、モノづくりの DNA が息づく街の魅力を伝えている。

FUTURE

より深く、浅草のモノづくりを伝えていく

初回開催から 10 年が経過し、体験コンテンツであるワークショップも本格的なものへと進化しつつあり、その人気も高い。浅草エーラウンドも、より深く、質を重視したブランディングを目指していく。皮革業界では環境が変わり新たな業界や海外への転換が進みつつある。これからも浅草エーラウンドを通じて、素材や技術をベースにチャレンジしていける精神を育んでいければと思っている。

●事務局連絡先
エーラウンド実行委員会　事務局
〒 111-0032　東京都台東区浅草 6-20-6 聖天会館内
TEL 03-3873-6564

INNOVATION

革のモノづくりのための実験場「TOKYO L」

浅草エーラウンドを起点として、革のモノづくりの新たなチャレンジの場が生まれている。

革についての確かな技はあるものの、マーケットへのアクセスやデザインについてのノウハウが不足していた浅草地域。浅草エーラウンド実行委員会は、メーカー・職人と一線で活躍するデザイナーがコラボレーションし、革のデザイン・プロダクトを開発するプロジェクト「TOKYO L」をプロデュース。2014 年から現在までに、デザイン会社 h concept（アッシュコンセプト）や著名デザイナーとのコラボにより生まれた試作品は 30 を超えている。未来の浅草のイメージづくり、そして東京の革を素材とした実験的で実践的な、これからの皮革製品開発のためのプラットフォームとして機能している。また、皮革のモノづくり技術を分解して素材とともに伝える展示会「革の技術の因数分解 展 by TOKYO L」を外部との新たなアイデアと結びつけることを狙って開催するなど、発信とともに、外とのコラボレーションのきっかけが生まれている。

また、浅草エーラウンドをきっかけとして、オリジナル・ブランドを立ち上げたり、従来の革業界だけにとどまらず、自動車、家具・インテリアといった新しい業界に向けた用途につながるコラボレーションなど、地域の事業者の仕事の形も自然なかたちで変化を見せている。

ONE TEAM

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

浅草エーラウンド 発起人代表

TOMITA TSUNEKAZU
富田 常一 氏
富田興業株式会社 代表取締役

浅草エーラウンドの立上げに向けて、2ヶ月という短期間のうちに、浅草エーラウンドに対する思いを伝えて歩き、発起人や100社近い出店者を集めた。

浅草エーラウンド 発起人

HONMA YASUYUKI
本間 康之 氏
浅草エーラウンド '21,'22 シーズンディレクター

発足当時から出店者をくまなくまわり、リレーションを取っている。そこで得られた信頼をベースに、プレイヤーの姿を職人目線でSNS発信している。

浅草エーラウンド 発起人

NAGASAKA MORIYASU
長坂 守康 氏
長坂染革株式会社 代表取締役

浅草エーラウンド発足当時、東京皮革青年会 会長として、浅草エーラウンドの実現に尽力。スタッフやボランティアの革製ネームタグも毎回作成。

浅草エーラウンド 発起人

IMAMURA HIROYUKI
今村 ひろゆき 氏
まちづくり会社ドラマチック 代表社員

立上げ当初から、浅草・奥浅草のまちづくりの観点からアプローチにより、浅草エーラウンドに携わっている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局

聖天会館

幹事・進行管理・メインビジュアルアートワーク・広報担当、交流拠点「SNAP」を運営

株式会社クオーターバック

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

台東区
- 文化産業観光部 産業振興課
- 都市づくり部 公園課

経済産業省
- 製造産業局生活製品課

ボランティアの皆さん

TRIGGER & STORY
誕生秘話

一般には知られていない浅草のモノづくり。海外の革製品の流通が拡がるなか、エリアのブランド、作り手の熱量をきちんと伝えていこうと考えた。東京皮革青年会の90周年にあたる2013年、その記念事業として、浅草に強い想いを持つ仲間たちが発起人となり、浅草独自の靴や革といった産業の特徴を生かした独自のオープンファクトリーを展開すべく「エーラウンド」を発足。「A（エー）」には、浅草のA、アルチザン（職人）のA、アートのA、ＡＢＣのA（初心）という思いを込めた。

台東モノマチ、スミファなど、近隣で展開されていたオープンファクトリーの運営メンバーとの交流も大きな後押しになったという。

TOPICS
つながりをデザインする奥浅草の交流拠点「SNAP」

都心から奥浅草へとオフィス移転してきたクリエイター集団・（株）クオーターバックが2022年9月に開設したSNAP。「つながりをデザインする場所」をコンセプトに、元々倉庫だった空間をリノベーションして誕生した奥浅草の交流拠点。オープンファクトリー開催期間中は、ツーリスト・インフォメーションとして活用され、革小物などの展示・販売も行われた。

クリエイターからも注目を集める奥浅草のプレゼンス・アップを象徴する出来事の一つでもある。モノづくりにクリエイティブな感性が吹き込まれることで、新たな変化が生まれる期待も高まる。

（写真）上段：マーケットの様子。中段左：革でどうぶつをつくる人気のワークショップ。中段右：靴製作のワークショップ。下段：つながりをデザインする交流拠点「SNAP」。

2011 年〜

東京都台東区

台東モノマチ

CORE VALUE

モノづくりのマチづくり

- EVENT DATA -

開始年　：2011 年
開催回数：13 回（2022 年）
開催期間：5 月下旬
参加企業：99 店（2022 年）
来訪者数：約 6 万人弱（2022 年）
主催　　：台東モノづくりのマチづくり協会

FEATURES

モノづくりでマチづくりを

全国のオープンファクトリーの先駆け的存在である「台東モノマチ」。古くから財布やカバン、ファッション雑貨などの製造・卸の集積地として歴史をもつ東京の下町、台東区南部・御徒町〜蔵前（カチクラ）エリアを歩きながら「街」と「ものづくり」に触れられるイベントである。「台東モノづくりのマチづくり協会」が主催する代表的なイベントで、多くのモノづくり企業やショップ、職人、クリエイター、飲食店等が参加している。産業振興にとどまらず「モノづくりのマチづくり」をテーマに掲げていることも特徴。2km 四方のエリアを回遊してもらえる仕掛けとして考えたコラボ企画（複数の参加店を巡る体験ワークショップ）も好評で、毎回趣向を凝らした企画が展開されている。

FUTURE

モノマチが持続可能であるために

「モノづくりのマチづくり協会」では、オープンファクトリー開催時だけでなく年間を通しての情報発信の強化を目指し、一店一店、取材した参加店のルーツやモノづくりへのこだわりなど、より深い情報の発信をオウンドメディアで進めている。

またモノマチが持続していくために良い意味でのスリムな運営のあり方、そして次の世代への引き継いでいく世代交替を見据えた新しいオープンファクトリーのかたちを模索している。

INNOVATION

モノマチがマチを変えた

モノマチを通じて、マチに様々な変化が現れている。エリアの最大の魅力である、多くのクリエイターの存在もそのひとつ。モノづくりの町の魅力に惹かれて、工房を構えるデザイナーやクリエイターのアトリエが増加した。モノづくり企業との協業、クリエイター同士の交わりにより新しいブランドが生まれている。モノマチの波及がマチの変化を生み、その変化が、モノマチが変えていく。若い人が集まるマチへと変貌を遂げ、モノマチがあったからマチが変わったと言えるほど、モノマチは大きなインパクトをもたらしている。

企業とマチをアクティベートする「磁場」として

複数の参加店によるコラボ企画やクリエイターとの協業による商品開発、B to B 企業の B to C 事業への新たなチャレンジ等、モノマチを機に様々なコラボレーションが生まれている。ボタン加工のメーカーはモノマチでのお客様との接点やクリエイターや異業種との繋がりを機に、小売業を営みはじめた。パッケージや店舗内装などクリエイターが身近にいることが大きな推進力となったという。

モノマチの魅力は「モノマチは企業とまちをアクティベートする磁場」と捉えている。地域でモノづくりを営む人・店・企業を刺激し触発する、明日に向かってアクティベートしトランスフォーメーションを促す「磁場」となっている。

●事務局連絡先
台東モノづくりのマチづくり協会（台東モノマチ協会）

〒111-0056　東京都台東区小島 2-9-10
モノマチ公式サイト ： monomachi.com　email：info@monomachi.com

ONE TEAM

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

モノマチ 2023 実行委員長
進士 遙 氏
Haruka Shinji Illustration

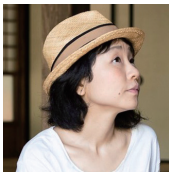
台東モノづくりのマチづくり協会 副会長
佐藤 正裕 氏
株式会社リアライズ

広報担当
西澤 真由美 氏
やさしいガーゼ オブラブ

台東モノづくりのマチづくり協会 副会長
片岡 清高 氏
有限会社ファッションメイト片岡

台東モノづくりのマチづくり協会 理事
大井谷 猛 氏
株式会社プラス

事務局
前島 昭美 氏



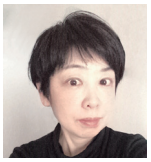
取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

台東モノづくりのマチづくり協会 会長

吉田 昌充 氏
株式会社ラモーダヨシダ

ライター・広報担当



三田村 蕗子 氏

ともにあゆむ

OTHERS

台東デザイナーズビレッジ　村長　鈴木　淳 氏
台東区 産業振興課 地域産業担当の皆様
モノマチ参加店とボランティアの皆さん

TRIGGER & STORY
誕生秘話

「台東デザイナーズビレッジ」の鈴木村長が、モノづくりに関心がある消費者を呼び込み地域活性化を目指すイベントを構想。地元企業等に呼びかけ、2010 年にモノマチの前身となる「台東ファッションザッカエリア」を、翌 年 5 月には佐竹商店街を舞台に初回「台東モノマチ」の開催に至った。第 5 回以降「台東モノづくりのマチづくり協会」を立ち上げ体制強化を図りつつ、参加店やボランティア、モノマチに共鳴する地域市民が中心となり、運営を行っている。

TOPICS
参加店の個性とまちを探検する楽しみ「モノマチ ZINE」

2022 年に発行した「モノマチ ZINE」は、参加店自らが原稿をつくり制作する。お店を巡り手にいれたページをファイリングすることで、参加者一人一人のオリジナルなガイドブックができあがる。内容もレイアウトも各参加店の個性が滲みだし人間味が感じられるのも意外な魅力になっている。

モノマチは、情報がわかりやすいところにないことが、却って宝探しのようなワクワク感が生まれ、マチを探検するような楽しみ方が魅力となっている。

写真（中段左）モノマチマップ、（下段左）モノマチ ZINE。

Photo ©2022 taro hosokawa

2012 年〜

東京都墨田区

スミファ すみだファクトリーめぐり

CORE VALUE

いでよ、スミファのそこぢから
おいでよ、すみだのファクトリー

- EVENT DATA -

開始年　：2012 年
開催回数：11 回（2022 年）
開催期間：11 月中旬
参加企業：36 社（2022 年）
来訪者数：約 6,000 人（2022 年）
主催　　：スミファ実行委員会

FEATURES

スミファという場で、それぞれの想いを実現

昔から住宅街や商店街の中に町工場が立ち並ぶ墨田区。まちを巡り、工場の職人と話し、技術に触れ、ものが作られていく“現場”を肌で感じることのできるイベント。2022 年は、2012 年の開催から 11 回目を迎え、2 年ぶりの現地開催。「底力」をテーマに工場見学、ツアー、ワークショップ、お買い物を楽しめる。PR 用のウェブサイトも楽しい現場感を連想させ、スタンプラリーも 2022 年は「かるた」で巡る楽しさを演出。来ていただいく方に楽しみながら墨田のものづくりを知っていただきたいのはもちろんだが、参加する工場に「学びの場」を提供することが大きな狙い。実行委員会は、スミファをそれぞれの工場の成長の機会と捉えて場づくりを進めている。

FUTURE

世界へ、未来へ、進化し続けるスミファ

より深い“技”の世界のコンテンツ化、地域のさまざまな団体やグループとの連携、インバウンド向けコンテンツの充実と平行し、「江戸から続く職人のまち」という地域の歴史と「現代」と融合させ、形にとらわれず進化していきたい。

INNOVATION

BtoB のツアー企画も。実感される参加企業の変化

「スミファ」の目玉の一つと言えるのがツアー企画。実行委員会がツアーを企画し参加企業を募り開催されている。「すみだの達人とめぐる充実！満喫！発見！ツアー」「ものづくりは創造する人暮らしツアー」など、個性豊かなツアーコンダクターがディープな墨田のものづくりとそのベースにあるまちと人の魅力を伝える。

参加企業の PR につながる公開ツアー以外にもクローズドなツアーも開催。モノづくりの開発エンジニア、デザイナー、バイヤーが工場をめぐるもので、単なる秋祭り的なイベントではなく、本業につながる機会になればという思いから取り組んでいる。

さらに、この 10 年で参加企業の「変化」が強く実感されるという。運営側が立てる企画への協力だけでなく、参加企業自ら考える部分が増えている。これまで少なかった異業種のコミュニケーションの場を提供しているのが「スミファ」であり、他のオープンファクトリーと比較して、こぢんまりとした規模感がより密なコミュニケーションを生む土壌となっている。他の会社を覗きに行ったり、異業種で連携し商品を企画したり、本業でも加工のお願いをしたり、スミファ参加企業のあいだで次々と連携が生まれている。

●事務局連絡先
スミファ実行委員会事務局（墨田区産業振興課内）

〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目 23 番 20 号
TEL 03-5608-1437

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

HAMANO KEIICHI

浜野 慶一 氏

株式会社浜野製作所 代表取締役 CEO
スミファ実行委員会　実行委員長
（一社）配財プロジェクト代表理事

1962 年東京都墨田区生まれ。大学卒業後、都内の精密板金加工メーカーに就職。1993 年株式会社浜野製作所代表取締役に就任。町工場が直面する量産加工の厳しい環境から脱却するため事業構造を見直し、自社の強みを活かした様々なプロジェクトに挑戦。産学官連携としての電気自動車「HOKUSAI」、深海探査艇「江戸っ子一号」、異業種連携としてアウトオブキッザニアによる工作教室、工場巡りツアー・スミファを主催する「配財プロジェクト」、ベンチャー企業を支援する「Garage Sumida」とその取り組みは多岐に渡る。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

事務局

樋口　珠由子 氏

フリーギャラリスト / イベントプランナー

年間 10 本以上の企画展に関わること 20 年。企画の度に関わる専門家たちからたくさんの刺激を受けることが何よりの喜び。「裏方」を極めることに日々模索している。

事務局

柾　尚美 氏

株式会社ジラソル　代表 / 社会福祉士
（一社）配財プロジェクト理事

重厚長大メーカー広報、通信キャリアで自動車向サービス企画を経て、工場実習で溶接工として働いた時の機械油や作業音が忘れられず、配財プロジェクトの立ち上げに参加。スミファを通して、「小さな組織のつながりづくり」と「働く人々の学び」を探索中。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

デザイン担当
青木 佳代 氏
合同会社かようびデザイン

デザインディレクター
山崎 信哉 氏
株式会社クルー

Web デザイナー
前島 昭美 氏
フリーランス

コミュニティ・ファシリテーター
山中　彩 氏
co-lab 墨田亀沢 re-printing

墨田区
産業振興課

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

東京東信用金庫（ひがしん）
向島 EXPO（八島花財団）
一般社団法人墨田区観光協会
墨田区商店街連合会
久米信行氏（情報経営イノベーション専門職大学教授）
その他区内各イベント団体のみなさん

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2011 年におおたオープンファクトリー（大田区）とモノマチ（台東区）が相次いで始まり、墨田区役所から、モノづくり企業の若手後継者を中心とした一般社団法人配財プロジェクトに「墨田区でもやれないか？」と話があった。先行していたオープンファクトリーとの横の繋がりも元々あり、イベントの様子を見て、お客様も楽しそうで工場の方も生き生きしていたのを見て、やってみることに。当初は、工場の方は会議自体に慣れていない方も多かったが、始めてみると、自ら他地域のイベントに参加し、アイデアを出し、自分の身の丈にあわせて工夫をしながら積み重ねてきた。今では、多くの企業が PR 動画を自作するまでに。

TOPICS

「プレスミファ」や勉強会が生む学びと交流

スミファでは、「プレスミファ」として、参加企業向けの本番前の工場見学会の研修イベントを企画。目が肥えたお客さんにも満足してもらえるよう、自分自身が体験し、何を聞いたらわかりやすく、どういう見せ方をすればよいか、お客さんの見たいものを見せられるか、お客さんの関心をひくためにどういう準備が必要か、オープンファクトリーの魅力を高めるための実践知を学んでいただき交流する場となっている。

（写真）右中段：2022 年のスタンプラリーは「かるた」で遊ぶ。工場や同時開催イベントの会場を巡って、台紙（取り札）にスタンプを集めて素敵なプレゼントをゲット。読み札とセットにすれば、スミファのあとも楽しめる仕掛けに。

2012 年〜

東京都大田区

おおたオープンファクトリー

OTA OPEN FACTORY

CORE VALUE

大田の技に会いに行こう！

- EVENT DATA -

開始年　：2012 年
開催回数：12 回（2022 年）
開催期間：例年 11 月頃
参加企業：69 社（2022 年）
来訪者数：約 3,100 人（2022 年）
主催　　：おおたオープンファクトリー実行委員会

FEATURES

モノづくり、まちづくり、観光の連携イベント

小さな町工場の集積地である東京都大田区。機械金属加工を中心とした B to B の工場がその多くを占めている。おおたオープンファクトリー（以下、OOF）は、そうした町工場の中を一般向けに公開し、モノづくりの技術や職人と触れ合う見学・体験ができるイベントとして、2012 年にスタートした。運営は「おおたクリエイティブタウンセンター」、「大田観光協会」、「工和会協同組合」からなる産学官連携の実行委員会が中心に担い、モノづくり、まちづくり、観光の 3 本柱とする「おおたクリエイティブタウン構想」を実現するプロジェクトとして「おおたオープンファクトリー」が展開されている。

FUTURE

ファクトリップ｜FACTORY × TRIP｜

オープンファクトリーの次の展開として、工場見学の通年化、収益化、集客の広域化を目指し、日本屈指の技術力・ネットワークをもつ、モノづくりのまちで、子ども達に「学ぶ」「発見する」「探究する」を叶える様々なトリップを提供開始。①町工場で SDGs を学ぶツアー、②工場廃材を生かした工作体験 -SCRAP-、③モノづくりを教材とした探究学習プログラム、④モノづくり関連施設見学／ガイドツアーなど、小中高校生向けの教育旅行・教育プログラムの企画に挑戦している。

受賞アワード

2013 年　第 7 回「産業観光まちづくり大賞」 金賞受賞
2017 年　第 3 回 ジャパン・ツーリズム・アワード地域部門賞受賞
2018 年　第 4 回 ジャパン・ツーリズム・アワード地域部門賞受賞
2019 年　厚生労働省 令和元年度「地域発！いいもの」に選定

INNOVATION

職人ネットワーク「チーム仲間まわし」

もともと大田区では、金属の曲げ、穴あけ、溶接、磨きといった独自の加工技術をつなぎあわせ一つの最終製品が製造されてきた。そのプロセスを一般のお客さまにわかりやすく体験してもらい、伝えようと始まったのが、この「チーム仲間まわし」だ。

当初は OOF のイベント企画として取り組まれたが、続けるうちに若い職人達がつながる新しいコミュニティが誕生した。2021 年からはデザイナーユニットや IoT システム開発技術者も仲間に加わり、「アンプ Project」に取り組んでいる。

おおたクリエイティブ拠点との連携

大田区では近年、町工場のまちのポテンシャルを活かしたアートやまちづくりのための拠点、クリエイターの活動や新たな創造的な活動を推進しているクリエイティブな施設がここかしこに生まれてきている。

OOF では、これらの施設を「おおたクリエイティブ拠点」と呼称し、連携を図っている。2022 年には、羽田イノベーションシティ、ART FACTORY 城南島、KOCA、六郷 BASE にてアート作品やスタートアップ企業の展示などを同時開催し、大田区全域に OOF を展開した。

●事務局連絡先

おおたオープンファクトリー実行委員会　事務局

一般社団法人 大田観光協会内
〒 144-0035　東京都大田区南蒲田 1-20-20 大田区産業プラザ 2F
TEL 03-3734-0202

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

HIROSE　YASUHIRO

広瀬 安宏 氏

おおたオープンファクトリー実行委員会 委員長
工和会協同組合 理事長
株式会社伊和起ゲージ 代表取締役

1970年、私が生まれた大田区の下丸子と呼ばれる地域では、まちにヒーローがあふれていました。学校帰りの道中、工場の中にいたヒーローたちは、錆びた鉄を削り、鉄同士をビビっと光らせ合体させ、銀ピカの製品を作りあげていました。そのような大人たちに憧れ、私も職人になりたいと思い、気がつけば町工場のおやじになっていました。今度は私たちがヒーローに変身し、子供たちに「モノづくり」の良さや楽しさ、喜びを伝えていきたいと思い、オープンファクトリーへの参加を決めました。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

一般社団法人大田観光協会

大田区の持つ地域力を活かした観光まちづくりの推進を目指す一般社団法人。OOFの事務局を担い、大田区と連携しOOFの事業を推進する。また、オープン工場の窓口を担う。

一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター（OCTC）

「公×民×学」がそれぞれ活動しながら連携して豊かな「クリエイティブタウン」を生みだすためのプラットフォームとして設立された一般社団法人。全体調整、各種プログラムの企画、広報などに携わる。

工和会協同組合

大田区矢口、下丸子地域を中心として活動する中小事業主の事業協同組合。OOFの工場側の取りまとめ役として、各工場への参加呼びかけや、各種企画への協力を行う。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

大学生（横浜国立大学＆東京都立大学）

OOF開始当初から「モノづくりのまち」を広めるため各種企画を担っている。

ねじまき隊

OOF当日の来訪者の案内誘導や、各工場での案内の補助を担っている。

TRIGGER & STORY

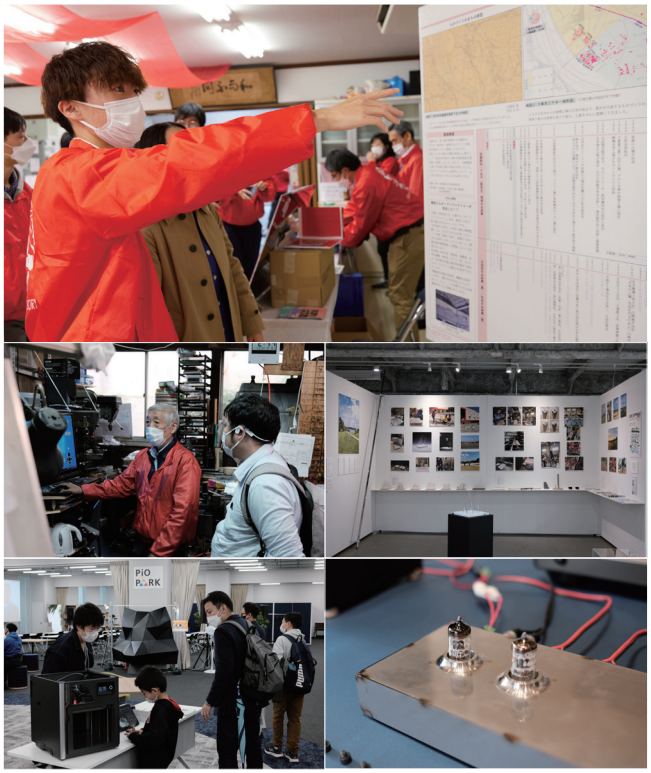
誕生秘話

住工混在のまちでありながら、BtoB製品の製造が多く、どのような製品が作られているのか知られていない大田区の町工場。大田観光協会から東京都立大学・横浜国立大学に、”秘めた町工場”を観光資源として活用できないかと話を持ち掛けられ、オープンファクトリーの企画へとつながった。初動期には、大学生のパワーが地元の工場を巻き込みながら進められ、若い感性でのツアー企画や体験プログラムなど、新たな観光コンテンツが誕生した。

TOPICS

おおたクリエイティブタウン構想

「おおたクリエイティブタウン構想」とは、大田区のまちの豊かさを次世代にまで受け継ぎ続けるために、これまでの地域のアイデンティティでもある「モノづくり」の力を、地域の重要な資源として生かしながら、新しい価値を生み出すための創造性も採り入れ、これを暮らしの中に落とし込んでゆくための総合的な都市再編（エリア・コンバージョン）構想である。特に、①「技術」（モノづくりの力）×②「創造」（クリエイティブな力）×③「生活」（地域の力）を重ね合わせることで、大田区ならではの、地域価値を豊かに育むことができるような将来像を描いている。

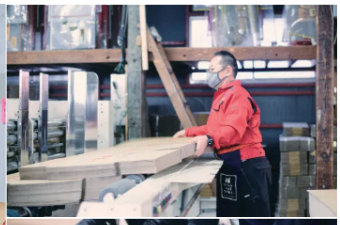


（写真）上から右回り：学生企画の様子、ART FACTORY 城南島「OPEN STUDIO 2022」、「チーム仲間まわし」の「アンプ Project」、「START UP FES in OOF '22」（羽田イノベーションシティにて開催）、工場オープンの様子

2019 年〜

東京都葛飾区

かつしかライブファクトリー



CORE VALUE

ものづくりって、エンターテインメント。

- EVENT DATA -

開始年　：2019 年
開催回数：4 回（2022 年）
開催期間：例年 11 月下旬
参加企業：9 社（2022 年）
来訪者数：85 人（2022 年）
主催　　：かつしかライブファクトリー実行委員会

FEATURES

見て・遊んで・学べる LIVE 型イベント

小規模なオープンファクトリーながら、葛飾のものづくり文化を体験できるワークショップ中心の工場見学イベント。「かつしかライブファクトリー」という名に込められた「葛飾町工場の生きる（LIVE）姿を、実際に（LIVE）見て、体験してほしい」という願いに共感する 9 社がそれぞれ企画する工場見学やワークショップを実施している。イベントでは実際に職人が立ち合い、加工のノウハウ・勘所や難しい点のアドバイスなど、リアルなコミュニケーションも楽しめる。制作した作品は持ち帰れることも LIVE 感へのこだわりで、例年、参加者の満足度も非常に高い。

FUTURE

ものづくりとともに、葛飾のまちづくりを

住工混在地域である葛飾で展開される「かつしかライブファクトリー」が見据える未来は葛飾区域全体の活性化。自分たち工場のことだけを考えるのではなく、「三方良し」を基本に市場や地域が良くなることが大切だと考え、地域の財産である工場を活かしながら、地域の産業観光につなげることを目指している。

その一歩として飲食店の紹介ツールを企画予定だという。地域の人たちオススメの飲食店や地域のお土産なども紹介したいと構想が膨らむ。

INNOVATION

顧客接点での自信から新商品へチャレンジ

オープンファクトリーをきっかけに地域の参加企業のマインドも変化している。「下請けで受注した仕事をこなすだけ」という受け身の姿勢から、自らアイデアを出し企画を考えるなど、積極さが増している。また、企業間で互いに仕事をお願いしたり、自分ができない仕事を仲間へ紹介したりと横の連携も強まっている。

ワークショップの参加者から技術とアイデアを評価されたことをきっかけに、新しく自分たちで売れるものを自社製品として開発し、ビジネスとして展開しようという企業が生まれ始めている。期間限定で「メイドイン葛飾★自動販売機」（まいぷれ葛飾セレクション）で販売も行った。

小さく、深い。本格派コラボレーション企画

このコラボレーション企画は「異業種がお互いにできることを合わせて、一つの作品を作りたい」という参加企業からの発案で企画された。革の染色体験、椅子張りの工場で椅子や時計を製作など、参加者にも好評であった。

今は数社内での取り組みだが、好評だったコラボ企画はほかの企業も取り入れる動きがあり、オープンファクトリーが参加企業同士、より濃く、深くつながる、良い機会となっていることは確かだろう。

●事務局連絡先
かつしかライブファクトリー実行委員会　事務局
株式会社ミヨシ
〒 124-0025　東京都葛飾区西新小岩 5-19-14
TEL 03-3692-0662

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

SUGIYAMA KOUJI

杉山 耕治 氏

株式会社ミヨシ 代表取締役
かつしかライブファクトリー発起人
かつしかライブファクトリー実行委員長

大学卒業後、三造環境エンジニアリング就職。ゴミ処理プラントの補修工事監督業務に従事した後、家業を継ぐために株式会社ミヨシ入社。金型設計、金型製作、射出成形の技術を習得し、10 年間工場で加工業務に従事。2012 年技術士を取得。同年、代表取締役に就任。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

かつしかライブファクトリー参加企業

有限会社アズ池田
新越精機株式会社
有限会社坪川製箱所
有限会社長沢ベルト工業
株式会社ミヨシ
有限会社海鴻社
有限会社立花製作所
長坂染革株式会社
有限会社山崎精工

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局担当

黒﨑 かおり 氏

株式会社大黒商工

デザイン担当

小池 隆夫／ DIVE

デザインスタジオ

ともにあゆむ

OTHERS

NPO 法人たのしいまなびとあそびの研究所

参加者が移動時間も楽しめる、トゥクトゥクの提供、運転に協力。

まいぷれ葛飾

WEB 広報を行う。葛飾のイベントを掲載しており、横のつながりの創出にも寄与。
（https://katsushika.mypl.net/）

青和信用組合

地域密着型の金融機関。開催当日は職員が案内や受付など、一緒に地域活性を推進している。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

発起人の杉山氏（株式会社ミヨシ代表）が 2014 年「燕三条工場の祭典」の体験に感動し、モノマチ、浅草エーラウンド、スミファなどにも参加し開催を決意。2017 年に自社のみでオープンファクトリーをスタートした。

近隣の「モノマチ」関係者から運営のアドバイスを受け、試行錯誤しながら回を重ねるうちに、徐々に葛飾区内企業からの理解も得られ、参加企業も集まった。また、その頃「スミファ」実行委員会にオブザーバーとして参加しながら運営手法を学んだという。こうした支えと杉山氏の強い想い、さらに方向性を同じくする企業が集まったことで 2019 年の第 1 回かつしかライブファクトリー実現へと導いた。

TOPICS

東東京地域のオープンファクトリー間の連携

かつしかライブオープンファクトリーは、オープンファクトリーが盛んな東東京の中では後発イベントである。「モノマチ」「スミファ」「浅草エーラウンド」といった先行していたオープンファクトリーとのかかわりも深い。

運営ノウハウを教えてもらったり、イベントには参加したりといった、先輩後輩のような人間らしい関係性がそこにはある。2022 年 5 月には、モノマチのスペースで 4 団体でのコラボイベント「東とうきょう物造会」も開催。東東京地域が一体となって地域を盛り上げるべく、連携を強めている。

（写真）オープンファクトリー、体験ワークショップの様子等。

2019 年〜

神奈川県綾瀬市

あやせ工場オープンファクトリー

CORE VALUE

来て、見て、触って
町工場と繋がろう。

- EVENT DATA -

開始年　：2019 年
開催回数：4 回
開催期間：9 月〜 10 月・4 日程（2022 年）
参加企業：4 エリア 41 社
来訪者数：延べ 1,720 人（2022 年）
主催　　：あやせ工場オープンファクトリー実行委員会

FEATURES

" 繋がり " から地域産業を活性化させる

中小製造企業が数多く立地する「ものづくりのまち」綾瀬市だが、地域住民や従業員の家族、子ども達など、一般の方との接点はほとんどなかった。一般の方を対象にした工場見学イベントを町工場一丸となって企画し、人と人、人と企業、企業と企業の " 繋がり " を創出することを目指し開催している。2019 年、綾瀬工業団地の 50 周年記念を皮切りに単独開催を重ね、第 4 回目の 2022 年からは、市内全域に拡大し、市内に点在する 4 エリア（吉岡エリア、早川・さがみ野・小園エリア、上土棚・与蔵山下エリア、綾瀬工業団地エリア）、4 日程で開催した。

FUTURE

学校とも連携し、子ども達がいつも訪れる工業地帯に

地元の小中学生が社会科見学の一環で訪れる「毎日がオープンファクトリー」と言えるような地域に根づいたすがたを想像している。全国いろいろな地域から人びとが訪れる非日常的なオープンファクトリーと、地域の子ども達が授業や学校帰りに訪れる日常的なオープンファクトリーという、2 つの形の共存を目指している。綾瀬の町工場での、ものづくり体験が子ども達の記憶に残り、来年もまた行きたい、さらに将来ここで働くことも選択肢の一つになるような、未来の " 繋がり " を生んでいく場。そんなオープンファクトリーとしていきたい。

INNOVATION

" 距離 " を縮めるオープンファクトリーで未来へ繋がる

自動車部品となる機械や金属加工の工場が集積する綾瀬の工場団地のオープンファクトリーは、「来て、見て、触って」がコンセプト。よく知らないがゆえに、「危ない」と思われている工場に対する先入観とのギャップを埋めたいという思いから、オープンファクトリーをスタートした。

火花の散る溶接体験やプレス加工、板金からつくるプラモデルなど、子ども達が楽しみながら、本物の技術をすぐそばで体験できるのが大きな特徴になっている。普段は黙々と作業する職人たちも、お客さんに一生懸命、説明をし、その笑顔を見ることで自分も笑顔になっていく。子ども達に体験してもらうために、安全感覚が高まり、日頃の環境や作業での改善にもつながっていく。

工業団地の各工場は、もともとライバル関係に近かったが、オープンファクトリーをきっかけに、お互いが顔見知りになることで仲間意識も生まれている。同じ悩みを抱える後継ぎ同士だけでなく、その下の若い社員もオープンファクトリーを通じて、初めて他社の同世代を知り、繋がっていく。一緒にやる楽しさを実感し、そこから輪が広がり、横同士の繋がりから仕事が生まれていることに驚かされることもあり、若い社員の成長の舞台の一つになっていると感じている。

また、オリジナル焚火台を作る体験からは、参加者からの依頼でオリジナルデザインの焚き火台を OEM で生産・販売する例も生まれている。

●事務局連絡先
あやせ工場オープンファクトリー実行委員会
〒 252-1108　神奈川県綾瀬市深谷上 8 − 21 − 25
神奈川県綾瀬工業団地協同組合 綾瀬工業団体連合会内
TEL 0467-78-8383

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

あやせ工場オープンファクトリー
実行委員長

MARUYAMA YUJI
丸山 裕司 氏

神奈川県綾瀬工業団地協同組合 理事長
綾瀬工業団体連合会 会長
有限会社光製作所 代表取締役社長

県内でも有数のプレス加工、金型製作を手掛ける有限会社 光製作所の代表取締役の同氏は、大手外食チェーンの黎明期の中核メンバーとしての経験を活かし、「製造業はサービス業」という理念のもと、製造業の手法にとらわれない挑戦を続けている。

自社の課題は、業界全体の課題としてとらえ、同業者、行政、支援機関を巻き込みながら、中小製造企業の未来のための革新を続けている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

吉岡エリア長

高崎 将二 氏
株式会社 KYOEI

早川・さがみ野・小園エリア長

嶋 知之 氏
旭工業有限会社

上土棚・与蔵山下エリア長

梶 宏朗 氏
株式会社ニチゲン

綾瀬工業団地エリア長

今 寿義 氏
株式会社ナウ産業

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

初開催時から実行委員会の中心メンバーとして、企画・財務・広報活動や各エリアの調整など、イベント全体を統括・支援。

野口 裕 氏
株式会社野口製作所 代表取締役社長

大原 浩志 氏
有限会社大原鈑金工業 代表取締役社長

ともにあゆむ

OTHERS

綾瀬イノーベーション推進委員会
市内企業の経営者等で組織された団体で、実行委員の多くが同委員会出身。中小製造企業の課題解決や、新たな価値創造にむけ、セミナーの開催・行政への施策提案・他地域団体との連携を図る。

あやせものづくり研究会
市内企業4社で組織された団体。調理器具などのB to C製品の共同開発、体験イベントを通し、ものづくりへの興味喚起や“ものづくりのまち あやせ”をブランディングを行い、オープンファクトリーの運営にも参画。

あやせ工場 営業部長（綾瀬市長） 古塩 政由 氏
綾瀬市が行う中小企業振興プロジェクト『made in Ayase あやせ工場プロジェクト』では、市全体を一つの工場（＝あやせ工場）に見立て、官民共同で様々な事業を展開。同プロジェクト内では、綾瀬市長は“あやせ工場営業部長”として“ものづくりのまち あやせ”をトップセールス。

TRIGGER & STORY
誕生秘話

お客さんとの距離が遠いものづくりにおいて、顧客の感謝や笑顔に直接的に触れる機会は少なく、ものづくりの現場では、その意味、やりがい、素晴らしさを忘れてしまいがち。ある日、子どもたちの工場見学を受け入れた丸山氏は、町工場の日常に驚き、楽しむ子どもたちの様子に、「町工場の日常はエンターテイメントになる」と確信。同時に、普段、寡黙な職人が誇らしげに話す姿を見て、工場見学が見る側・見せる側双方に相乗効果をもたらすと認識した。2019年、丸山氏が理事長を務める神奈川県綾瀬工業団地協同組合の創設50周年を機に、これまでを振り返るだけではなく、ものづくりの未来に繋がるオープンファクトリーを組合員に提案。実行委員と行政が一丸となって意識醸成を図り、『工場の日常、あなたの非日常』をテーマに初回を開催。普段は寡黙な職人が、若手が、町工場が、団地が、一般の方が、そして行政の目の色が変わる“ものづくりのまち あやせ”の大きなターニングポイントとなった。

TOPICS
ものづくり技術を楽しく、競う「ミニ四駆グランプリ」

ミニ四駆を題材に、気軽・楽しくものづくりに触れる機会の創出を目的に開催されたワークショップ。『遊び心でものづくりと繋がってみよう』をコンセプトに、「チームで競え！スピード部門」と「技術で魅せろ！デコ部門」にわかれ、企業の職人や一般の方が参加可能。エリア予選を経て決勝戦が最終日に開催され、優勝者が決まっていく。同市の合同入社式でも取り入れられていた「ミニ四駆グランプリ」は、その取り組みやすさとともに、競いあうことで本気度も仲間の結束も高まるワークショップとして、盛り上がりを見せている。

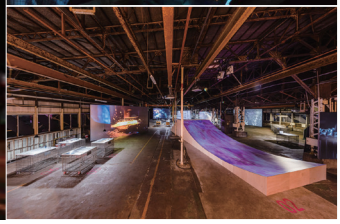
（写真）工場見学・ワークショップ体験・ミニ四駆グランプリの様子等。

2013 年〜

新潟県三条市、燕市

燕三条 工場の祭典

KOUBA



CORE VALUE

“開け、KOUBA ！”

- EVENT DATA -

開始年　：2013 年
開催回数：10 回
開催期間：例年 10 月頃
参加企業：82 社（2022 年）
来訪者数：33,514 人（2022 年）
主催　　：「燕三条 工場の祭典」実行委員会

FEATURES

オープンファクトリーの先駆け的存在

金属加工の産地である新潟県燕三条地域とその周辺地域の工場が一斉に「KOUBA」を開放し、ものづくりの現場を見学体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」は 2013 年が初回。毎年 10 月の数日間、“開け、工場！”をキャッチフレーズに、ものづくりを行う「工場」、農業を営む「耕場」、それらの物品を購入できる「購場」という 3 つの KOUBA が多くのお客様をお迎えしてきた。印象的なビジュアルデザインを生むクリエイターチームとも連携。2019 年には、100 を超える KOUBA が参加するイベントへと成長し、全国のオープンファクトリーに取り組もうとする地域の一歩先を行く「憧れ」の存在となっている。

FUTURE

「祭典」から「聖地」へ、脱皮のときを迎える「工場の祭典」

初回の開催から 10 回を重ね、全国のオープンファクトリーの憧れの存在である「燕三条 工場の祭典」は、いま、その変革期を迎えている。地域の各 KOUBA での見学の常設化も進むなか、オープンファクトリーというイベントから、ツアー形式にも対応した、いつ来ても生産の現場が見られる体制への移行、すなわち「ものづくりの聖地」への脱皮が目指されている。それが、2022 年に掲げられたテーマ「Beyond KOUBA！」であり、いままた、新たなステージへ上ろうとしている。

受賞アワード

2014 年　グッドデザイン賞、第 18 回 ふるさとイベント大賞 選考委員 特別賞、
　　第 8 回 産業観光まちづくり大賞 経済産業大臣賞
2016 年　第 64 回 日本観光ポスターコンクール総務大臣賞
2017 年　Red Dot Design Award：Brands & Communication Design Winner
　　第 8 回 地域再生大賞 優秀賞
2019 年　German Design Award 2019
2021 年　第 13 回 観光庁長官表彰
2022 年　Red Dot Design Award：Brands & Communication Design Grand Prix

INNOVATION

インナー・ブランディングが最大の効果。20 を超える企業で工場見学が常設化。

オープンファクトリーの最大のポイントは、経営者やスタッフも含め、見られている側の意識が変わること。それが、次の発案、提案につながっていく。エンドユーザーの直接の言葉はパワーになり、それが地域に溜まることで全体の発信力や推進力が強化される。「燕三条 工場の祭典」の時以外にも、通路を整え、配布物を準備するなど、年間を通じて工場見学が可能な企業が増加。現在では、20 を超える企業となった。

「本祭」と「部活」、好サイクルを生む活動体

「燕三条 工場の祭典」は、秋の 4 日間のイベントを「本祭」、それ以外の国内外での展示や実演、製作体験からなるパッケージでの活動を「部活」と称している。「部活」はメディアにも取り上げられ、次の「本祭」につながる好循環を生んでいる。パッケージにあわせて動ける人が動き、時には全く別の見え方をするアメーバのようなゆるい「活動体」として存在する。

エキシビションを通じた、内外の新たなつながり。

英国ロンドン、ミラノ、台湾、スイス、シンガポールをはじめ、国外でのエキシビションにも早くから積極的に取り組んできた。展覧会は、地域の人々とともに燕三条のものづくりの力や歴史をあらためて見直し、次代につなげていく機会となっている。また、地域外とは、デザインを学ぶ学生など商業ベースの催しではなかった新たな繋がりが多数生まれている。

●事務局連絡先
「燕三条 工場の祭典」実行委員会　事務局
（公財）燕三条地場産業振興センター 燕三条ブランド推進部 企画推進課 内
〒 955-0092 新潟県三条市須頃 1-17　TEL 0256-35-7811

ONE TEAM

地元企業の実行委員会、クリエイターチーム、行政関連の事務局チームが三位一体となって「燕三条 工場の祭典」を推進。

2022 年度運営体制

事務統括
横山 裕久 /side
坂井 小夜香 /method

事務局
- 三条市 商工課 小林 直道
- 燕市 観光振興課 山田 佳織、久保 充穂
- 地場産センター 和田 貴子、高橋 真洋

運営メンバー
- 翻訳 Zackary Kaplan
- WEB スマイルファーム
- SNS 大澤 真輝 / タダフサ

実行委員長
斎藤 和也 / ストカ

副実行委員長
山田 立 / 玉川堂

副実行委員長
曽根 忠幸 / タダフサ

副実行委員長
武田 修美 /MGNET

クリエイターチーム
- 全体監修 山田 遊 /method
- アートディレクション 小林 弘和、山田春奈 /SPREAD
- プレス 小池 美紀 /HOW
- 撮影 神宮 巨樹、古平 和弘
- 文・編集 山田 泰巨
- プロジェクション 岸本 智也

TRIGGER & STORY

オープンファクトリー誕生秘話

三条市が 2007 年から開催していた「越後三条鍛冶祭り」での生産現場を見てみたいという要望を受け、市の「後継者育成事業」を通じて method 山田 遊氏らとのつながりからオープンファクトリーの企画が進行。一方、燕市でもツアー形式の工場見学に取り組む工場もあり、当時の初代実行委員長・曽根忠幸氏のリーダーシップや行政職員の尽力もあり、両市合同のオープンファクトリーとして一気に企画が進んだ。

TOPICS

オンライン配信と「Tsubame-Sanjo Factory Museum」

コロナ禍にあった 2020 年は 23 日間に及ぶオンライン配信イベントを開催。オンラインとリアルの世界の融合を見据え、現場を伝えるライブ配信を継続し、アーカイブも進めている。2021 年は、廃工場（旧野水機械製作所 工場）を会場に、集合形式の展覧会「Tsubame-Sanjo Factory Museum」を開催。燕三条というエリア全体を俯瞰しながら、職人の技による高品質な製品、歴史文化、「燕三条 工場の祭典」の歩みを紹介した。この展覧会は世界三大デザイン賞の一つとされる「Red Dot Design Award：Brands & Communication Design Grand Prix」を受賞した。

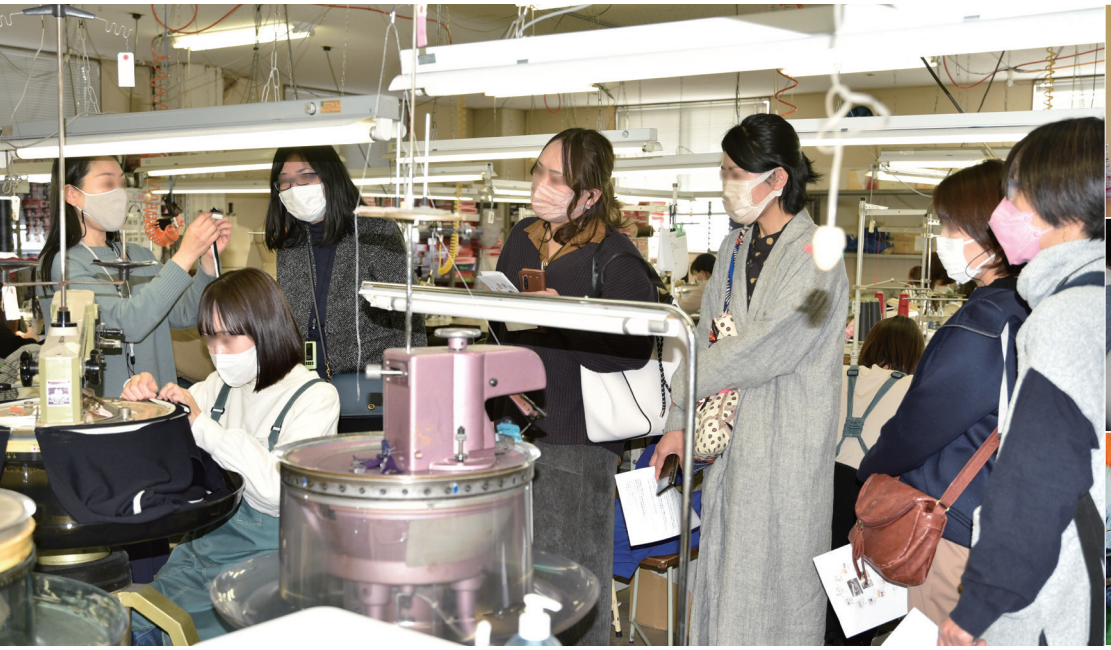
（写真）「Tsubame-Sanjo Factory Museum」。

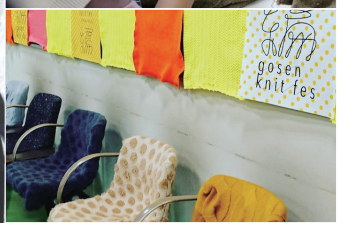
Photo ©「燕三条 工場の祭典」実行委員会

2016 年〜

新潟県五泉市

五泉ニットフェス





CORE VALUE

つむぐ・つどう・つながる

- EVENT DATA -

開始年　：2016 年
開催回数：8 回
開催期間：例年 11 月頃
参加企業：9 社
来訪者数：3,401 人（2022 年）
主催　　：GOSEN KNIT FES 実行委員会

FEATURES

五泉のまちをつなぐニットフェス

日本一のニット産地である五泉市で、普段は見ることのできない五泉ニットのものづくりの技術を間近で見学できる貴重な機会。9 社による工場見学・体験・製品販売のほか、お客様との交流・情報発信を目的としたベースキャンプ、体験ワークショップ、残糸・残反をリメイクした作品販売や五泉の食を楽しめるアンバサダー企画、地元商店街とも連携したパスポート付のまちあるきオープンストリート企画、街ガイドが添乗する無料巡回バス等、多彩な催しが展開され、ニットでつながる五泉のまちを存分に楽しめる内容となっている。

FUTURE

オープンファクトリーから作り手の思いを伝える場へ

回を重ねることで、五泉ニットの認知度は徐々に高まってはきたが、これからさらに参加企業を増やし近隣地域とも連携しながら、全国的に知れ渡る五泉ニットフェスにしていくことを目指している。同時に、ニットフェスは、様々なチャレンジを重ねる実験の機会ともなっており、ニットフェスの期間以外も多くの人が訪れる仕組みを考えていく。そのキーワードが「産業観光」であり、教育旅行も視野にいれながら、ニットに興味のある人が集う場とし、実際の現場見学から作り手の思いを感じ共感してもらうことで、五泉ニットのファンを増やしていくことにつながると考えている。

●事務局連絡先

五泉ニット工業協同組合 事務局

〒 959-1824 新潟県五泉市吉沢 1-1-10
TEL 0250-42-2156

LOOP & LOOP
五泉ニット複合施設
ニットでつながる、みんなのスペース

INNOVATION

作り手と、地域と、応援してくれる人々（ファン）とつながる

「五泉ニット地域ブランド化事業」は、人材育成、地域活性化、販路市場開拓、広報・PR と 4 つの分科会に分かれ、五泉ニット産地の活性化事業として取り組まれている。五泉ニットフェスは、その地域活性化事業に位置づけられ、地域創生や産業観光とつながっていく。

まちの大きな変化の一つは、オープンファクトリーをきっかけに OEM100％の業態から、自社ショップを立ち上げるなど、B to C に注力する企業がいくつも生まれていること。2021 年 9 月に組合事務所をリノベーションして誕生した複合施設 LOOP & LOOP は、ニットでつながるみんなのスペースとして開設。五泉ニットの取組とともに、各社のオリジナル商品を発信するアンテナショップ、イベントホール、コワーキングスペース、カフェなど、一般消費者とのタッチポイントの場となっている。

五泉ニット産地では、消費者をターゲットに直販を強化する企業もあれば、OEM 事業を極めていく企業もあり、目指す成長のかたちは様々だが、「五泉ニットフェス」をそれぞれの取組強化の機会として活用している。

こうした活動のベースにソトとのつながりがある。様々な年齢、業種、地域の人が集まり、ニットフェスではアンバサダーとして参画している。2022 年の「あむあむステーション、CRAFT MARCHE」をはじめとして、地域だけでは出てこなかった斬新なアイデアから多くの企画が生まれている。その存在は、ニットフェスを盛り上げるうえで大きな財産となっている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

五泉ニットフェス実行委員長
KAWASHIMA MIKIO
川島 幹生 氏
株式会社川島 代表取締役社長

五泉ニットは世界の有名ブランドにも採用されるほど、世界基準の技術力を有している。それほど誇れるものだということを再認識する機会になればよいし、一般の方にも見ていただきたい。五泉ニットフェスは、単なるイベントではない。私たちの産業や五泉市を活性化する上で大事な機会であり、ナカで働く従業員たちのモチベーションを高め、ソトからも働きたい人を増やすことに繋がっていけばよいと考えている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

高橋 慶至 氏
五泉ニット工業協同組合 青年部会 会長
高橋ニット株式会社 代表取締役社長

梅田 大樹 氏
オープンファクトリー リーダー
株式会社ウメダニット 代表取締役社長

桜井 洋一 氏
高校生プロジェクト リーダー
有限会社桜井メリヤス工場 取締役専務

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

アンバサダー企画等プロデューサー

山本 一樹 氏
Idea partners 代表

事務局

高橋 正春 氏
五泉ニット工業協同組合 事務局長

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
アンバサダー企画

高校生プロジェクト
（五泉高校）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

日本一のニット産地の五泉ニットだが、若い世代を中心とした身近な市民にさえ、ものづくり産地であることが浸透していないのが課題。染色、整理、刺繍、プレス、二次加工等、ニット技術が一地域に揃っていること、未来を担う若い世代の存在が産地の強みと捉え、五泉ニットを広く一般消費者に認知してもらい、次世代へと継承していくことを目標に掲げて取組はスタートした。ちょうど産地の経営者の代替わりのタイミングで、五泉ニット産地の危機感を共有した若い世代を中心に、横につながりながら、手弁当でオープンファクトリーに取り組みはじめた。フェスを継続することで、当初想定した以上の地域活性化の動きが次々と生まれている。

TOPICS

高校生プロジェクトがフェスを盛り上げ

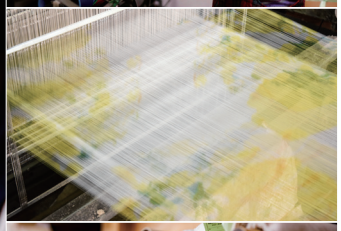
地元、五泉高校との連携企画「高校生プロジェクト」は授業内の実践活動として、先生方の指導・協力のもと長年続けられている。来訪者に喜んでもらえるよう、その企画から製作・準備、当日の配布まで、楽しみながら取り組み、先輩から後輩へと引き継がれている。職人さんへの取材も行った「ニット職人カード」、五泉市の給食をテーマにしたお弁当＆おむすびの企画・販売など、毎年趣向を凝らした企画は、高校生の自由な柔らかい発想から生まれており、ニットフェスを大いに盛り上げている。

（写真）工場見学・ワークショップ体験・高校生ノベルティ企画・マルシェの様子。

2016 年〜

山梨県富士吉田市・西桂町

ハタオリマチのハタ印



CORE VALUE

イトとヒトがいきかうマチづくり

- EVENT DATA -

開始年　：2016 年
開催回数：通年
開催期間：通年
参加企業：約 40 社
来訪者数：約 35,000 人（2022 年）
主催　　：ハタオリマチのハタ印プロジェクト

FEATURES

産地の今を伝える、これからの 100 年の「ハタ印」

「ハタオリマチのハタ印」は 1000 年以上続いた山梨県富士吉田市・西桂町の織物産地にさまざまなヒトがいきかい、新たにモノやコトが生まれる活き活きとした産地を、次の 100 年に継承させるためのプロジェクト。その意思表示として「ハタ印」を掲げ、地域の異業種や行政間が連携しながら勉強会や新たな施策を展開。織物の魅力をお客様に直接伝える「小さな工場めぐり」は、毎月第 3 土曜日に開催。織物工場見学やワークショップに加え 2022 年にはガイド付きツアーとしてバージョンアップ。機屋さんと作り手を繋ぐマッチングサイト「MEET WEAVERS」を運営する他、機屋さんが中心に活動する「ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOP」や富士吉田のまちなかで開催される「ハタオリマチフェスティバル」と連携し、作り手とユーザーを繋げる場となっている。

FUTURE

高付加価値化とマッチング・ツアーにも注力

富士吉田・西桂はハイブランドにも採用されるテキスタイルが生産される織物産地。一般の観光客にとっては高価に捉えられかねないが、モノの価値がわかる購買力のある層、その技術を学びたいと考える層へのアプローチを強化していきたい。また、サイト「MEET WEAVERS」を発展させ、ビジネスマッチングの成果を加速させるため、業界向けの産地生地展「MEET WEAVERS SHOW」を開催。これまでは山梨での展示会を行ってきたが、これからは東京での開催にも注力していくつもりだ。

受賞アワード

第 12 回 産業観光まちづくり大賞（山梨県富士吉田市）

INNOVATION

皆で挑戦を重ね、ブランドやサービス開発を強化

産地の後継者たちの強い危機感が根っこにある「ハタオリマチのハタ印」。産学コラボ「フジヤマテキスタイルプロジェクト」や織物事業者が最終製品の販売を行うプロジェクト「ヤマナシハタオリトラベル」による売場での経験、産地に人を呼び込むイベントやまちづくりが自然発生的に生まれ、その都度、課題を解決しながら、トライアンドエラーで挑戦し続けている。

「ハタ印」の会議は、メンバーたちの課題を共有する場にもなっており、課題を抱える事業者に対して、みんなが協力しながら新たな事業を生み出すサポートも行われる。黒染め加工の体験会や自社の看板となる黒染めサービスの開発に取り組んだ染色工場・丸幸産業もその一例で、こうした皆がつながり協力しあえる関係性が育まれている。

また、渡邊織物の三代目が展開するブランド Watanabe Textile は、その世界観を伝える場としてオープンファクトリーへの参加を重ね、このイメージとコラボしたいと考えるブランドブティックも多く訪れるようになり、ダブルネームでの商品企画も動き出しており、各工場のファクトリーショップの存在も街の新たな魅力となっている。ファクトリーブランドを持つ織物事業者同士が独自で運営する「ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOP」をはじめ、各企業で展開される工場併設のファクトリーショップも街の大きな魅力となり、大事な顧客との接点を生んでいる。

●事務局連絡先

ハタオリマチのハタ印プロジェクト

〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田 2-5-1
TEL　0555-22-2164
（ハタオリマチ案内所／山梨県絹人繊織物工業組合）

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

TAKASUKA KATSURA

高須賀 活良 氏

東京造形大学テキスタイル専攻領域
専任教員
「ハタオリマリのハタ印」
総合ディレクター

東京造形大学でテキスタイルデザインを学ぶ。日本各地を旅し、その土地にある素材にインスピレーションを受け作品を制作。モノづくりの始まりは「土」からであるというコンセプトのもと、原始布の研究。2011 年 修士号取得。アーティストとして国内外で作品の発表の他、織物産地でのテキスタイルデザイン、ファクトリーブランドの立ち上げ、アートディレクターとして活動。2016 年「ハタオリマチのハタ印」総合ディレクターに任命。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

高須賀 文子 氏
株式会社トリッキー 代表取締役
企画・運営を担当

毛利 朋子 氏
株式会社トリッキー 取締役・デザイナー
アートディレクションを担当

富士吉田商工会議所（繊維部会）
富士吉田織物協同組合
西桂織物工業協同組合

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

水越 欣一氏
富士吉田市役所

小野 雄一氏
富士吉田商工会議所

五十嵐 哲也氏
山梨県産業技術センター

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

富士吉田市 産業観光部 商工振興課
西桂町役場 産業振興課
富士吉田商工会議所
山梨県産業技術センター
山梨県絹人繊織物工業組合
富士吉田織物協同組合
西桂織物工業協同組合
ふじよしだ定住促進センター
富士吉田市役所 産業観光部 富士山課
ハタオリマチフェスティバル
（年 2 回、2 万人参加）
FUJI TEXTILE WEEK
（年 1 回、1.3 万人参加）
B-TAN MARKET
（年 3 回、2 千人参加）
特定非営利活動法人かえる舎

TRIGGER & STORY

誕生秘話

はじまりは、織物メーカー数社と東京造形大学テキスタイルデザイン専攻領域との産学協同で 2009 年に発足した「フジヤマテキスタイルプロジェクト」。それを機に、二代目世代が中心となって新たなチャレンジが模索されていった。

OEM 生産に頼っていた当産地では、海外生産への移行や諸外国で作られた安価な織物の流通により、自社ブランド商品の企画開発や販路開拓の課題が顕在化。産学協同事業がきっかけでファクトリーブランドを立ち上げた織物事業者を中心に「ヤマナシハタオリトラベル」として全国を巡り展示販売の売場に立つ新たなビジネスモデルを確立。その後「ヤマナシハタオリトラベル」に参画した 11 社（当時）が地域の中で中心となり、同プロジェクトのディレクションを行っていた高須賀活良氏に企画立案を依頼し、地方創生の一環で観光産業と情報発信に注力する「ハタ印」プロジェクトがスタートした。

TOPICS

取引直結する機屋情報サイト「MEET WEAVERS」

クリエイターをつなぐ役割を担う。そのページは、概要や生産されるテキスタイルの情報だけでなく、織物工場の成り立ちや特徴や代表者の考え方等が記載されており、更には織機の情報だけでなく価格やロット、納期の情報まで、具体の発注を考える上で参考になる情報が公開されている。アイテムや技術、デザインなどのキーワードやイメージからの検索性にも優れているのも特徴。各社の問合せフォームからコンタクトできる。

（写真）工場見学・ワークショップ体験・産地バスツアーの様子。

2018 年〜

静岡県内

共生 Shizuoka Craft Week

共生
SHIZUOKA CRAFT WEEK

CORE VALUE

一番近くて大切な人と、今あらためて出会う。

- EVENT DATA -

開始年　：2018 年
開催回数：5 回（2022 年）
開催期間：11 月末〜 12 月頃
参加企業：97 社（2022 年）
来訪者数：約 9,000 人（2022 年）
主催　　：共生実行委員会

FEATURES

近くにある、小さな＂ものづくり＂スポット

かつて、静岡浅間神社の造営を機に、全国の職人が徳川幕府によって静岡に集められ、家具産業をはじめ、幅広い業種にわたるものづくり職人の技術が育まれた静岡市で開催される「共生 Shizuoka Craft Week」。「一番近くて一番大切な人と、今あらためて出会う。」をテーマに、身近で大切に紡がれてきた小さな“ものづくり”にスポットをあて紹介する。

初回開催は 2018 年。クラフトマーケットは、静岡県内で活躍する作家や、家具や染物、お菓子や雑貨などが集い、約 90 店舗が参加。浅間神社から駿府城公園へと会場を移し、年々規模を拡大している。オープンファクトリーは、ものづくりの現場での貴重な体験を提供し、コロナ禍の影響によるオンラインでの開催等を経て、2022 年は宿泊型オープンファクトリーツアーを試行した。

FUTURE

出会いや縁をつくるハブとなる「共生」

立上げからコロナ禍の対応まで、状況が目まぐるしく変わるなかで、あらかじめの答えを用意せず、個々の意見でぶつかり合って答えを導き出していくのが「共生」のスタイル。誰か一人の強いリーダーシップではなく、絶妙なバランスで、実行委員会メンバー 13 人が相互に補いあいながら、あるべき姿を探りながらトライする。「共生」自体が何かを成していくのではなく、「共生」から派生して、何かが生まれる、繋がっていく。お客さんも出店者も「共生」の一員であり、「共生」はその出会いや縁をつくっているハブだという根っこを大切にしていきたい。

INNOVATION

「大交流会」から生まれる化学反応に期待、kyosei 2022 "Tours"

2022 年に実験的に取り組んだ宿泊型オープンファクトリーツアー kyosei 2022 “Tours” は、貸切バスで東西に長い静岡県内の工場を巡る 1 泊 2 日の工場見学プログラム。途中、ご当地グルメも堪能しながら、夜にはグランピング施設で、訪問先の工場の担当者も参加する「大交流会」を開催し、新たな縁を築くことができた。工場同士の交流や参加者と工場との改めての交流があり、その中で、それぞれの工場のもつ、潜在的な魅力が再確認され、コラボレーションの可能性を感じさせた。

23 名のツアー参加者は、これから何かを仕掛けてみたいと思っている感度の高い若手デザイナーやクリエイターに絞った。実行委員会メンバーの人脈による一本釣りで、東京、名古屋、遠くは熊本といった全国から参加者が集まり、彼ら彼女らと、ものづくり企業の間で、化学反応が生まれることを期待して実施され、将来にいきる B to B の土壌づくりにつながっていけばという思いで取り組まれた。

一方のクラフトマーケットでも、地域の方に知ってもらう機会となるとともに、出店した作家さん同士のものづくりでのコラボレーションや共催イベントの企画といった動きにつながっている。

●事務局連絡先
共生実行委員会
〒 420-0839　静岡市葵区鷹匠 3 丁目 20-23 株式会社加減乗除内
TEL 054-204-4944
公式サイト　https://kyo-sei.link/

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ODA　YOSUKE

小田 庸介　氏

共生実行委員会プロデューサー

株式会社ワダイコ 代表

1978 年静岡市生まれ。2006 年より静岡県内で発行する地域情報誌「すろーかる」を立ち上げから行い 15 年間編集長を務める。編集業務の傍らテレビ番組のコメンテーターや地域のファシリテーターとして様々なプロジェクトに参加。2021 年には静岡市が運営する伝統工芸振興施設「駿府の工房 匠宿」の館長に就任し、同施設のリニューアルに取り組む。2022 年 8 月に（株）ワダイコを設立。レモン商材の開発など、地域をプロデュースしていくための事業を手掛ける。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

HANAZAWA　KEITA

花澤 啓太　氏

共生実行委員会ディレクター

株式会社アンノット 代表

1978 年静岡県島田市生まれ。芸術大学で油絵を学んだ後、家具メーカーに就職。家具・雑貨の企画デザインから製造までに携わる。退職後は家具産地静岡から家具産地北海道へと渡り 2 級技能士の資格を取得する。静岡に帰郷後、プロダクトデザイナーとして独立。2021 年デザイン会社（株）アンノットを設立。

もっとよくなること、伝わること、喜ばれることについてシンプルに考えていくことで、その表現は形を帯びてくるものだと考え、日々デザインワークに取り組んでいる。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

共生実行委員会メンバー

石川智規 氏（実行委員長）
松木徳夫 氏（事務局長）
亀山大樹 氏（監事）
志水竜一 氏（委員）
西田悠真 氏（委員）
岩崎泰久 氏（委員）
柴山広行 氏（委員）
影山敦彦 氏（委員）
鈴嶋康子 氏（委員） 他

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

後援 / 静岡県（地域産業課）、静岡市（産業政策課）

協賛 / セイリン株式会社、株式会社大輝、
株式会社創造舎、前田工業株式会社、
株式会社オフィス H2O、日進電機株式会社、
しずおか焼津信用金庫、静清信用金庫、
トヨタユナイテッド静岡株式会社、
東京海上日動火災保険株式会社

SEIRIN

創造舎 DESIGN OFFICE SOZOSYA

TRIGGER & STORY

誕生秘話

オープンファクトリーの立ち上げ時、静岡県の産業振興施策の一つとして、県の担当者から声がけを受けてコアメンバーが集められた。家具産業の衰退を目の当たりにするなかで、地域に恩返しをしたい強い思いを持った小田氏らの中心メンバーは、大掛かりなものではなく一人でもできること、すぐ隣にある大切なもの、いいものがあるという気づきを生むような取り組みにしたいと考え、体制とともに事業の再構築を図った。そうして、これまでの地域産業のあり方自体を根本的に見直し、新たな魅力を生み出し伝えながら地域活性化を目指す、今の「共生」のかたちができあがった。

TOPICS

自立的な運営を可能にする共生スポンサー

地域の人口減少を食い止めるには、働く場所があることが肝心で、地場産業を変えていくことが地方都市の宿命ではないか、ひいては現代の「産業革命」という考えにもつながっていく。実行委員会メンバーが喧々諤々、本気で「共生」を動かしていく土壌づくりに欠かせない仕組みの一つが共生スポンサー。資金獲得のため、実行委員会メンバーが共生スポンサーをお願いに廻る期間があり、そのおかげで「共生 Shizuoka Craft Week」は、補助金だけに頼らない、自立的な運営が可能になっている。

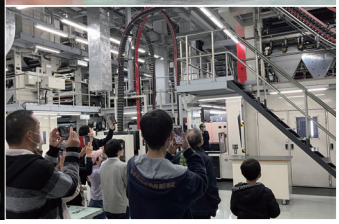
（写真）クラフトマーケット、オープンファクトリーツアーの様子。

2019 年〜

山梨県韮崎市

ニラサキオープンファクトリー

ニラサキ
オープンファクトリー



CORE VALUE

ぼくらのまちは、想像以上。

- EVENT DATA -

開始年　：2019 年
開催回数：3 回
開催期間：1 月頃 / 2 日間（2022 年度）
参加企業：リアル 13 社、オンライン 1 社、ガイドブック参加 4 社 合計 18 社（2022 年度）
来訪者数：247 人（2022 年度）
主催　　：ニラサキオープンファクトリー実行委員会、韮崎市商工会、韮崎市商工会製造業部会

FEATURES

ものづくりの知らない世界を体感する

「ぼくらのまちは、想像以上。」を合言葉に、韮崎市内の精密機器関連の機械・金属加工、食品など、身近であるのによく知られていない製造工程や機械を見学・体験できるイベント。3 回目となる 2022 年は、オンラインを含め 14 社が工場見学を実施し、世界トップレベルの生産現場を体験した。子どもたちも楽しめるよう各工場が工夫をして「はんだ付け」やキーホルダーづくりなどのワークショップを充実。韮崎市民交流センター ニコリでは、オリジナル T シャツやトートバック、缶バッジづくりで、ものづくりに触れ合った。

FUTURE

エリアを拡げ地域と関わるオープンファクトリーへ

いま以上に参加企業を増やし、工場見学の参加者もさらに増やしていきたいと考える。また子ども達や家族づれで参加できるように、開催時期や曜日も検討事項。また、韮崎市にとどまらず近隣の北杜市や南アルプス市といったエリアとも協力しながら一枚岩となった広域型でのオープンファクトリーとして盛り上げていければと考えている。さらに、製造業だけではなく、商業や観光ツアー等とも絡めながら、地域を包括し、地域をより盛り上げていけるイベントへと育てていきたい。

また、2023 年には、新たな試みとして、誰でもどこからでも参加できる「オンライン工場見学」も実施。より多くの人に、より多くの工場に参加してもらう仕組みも整えていくつもりだ。

INNOVATION

将来的な産業人材の獲得につなげる

子ども世代とのつながりを生み、隣に住んでいる市民にも工場のことを知ってもらいながら、将来的な産業人材の獲得につなげたい。そうした思いが込められたニラサキオープンファクトリー。

ガイドブックでは、子どもたちの目をひくワクワク感を伝える表紙デザインでアピールした。参加企業を紹介するページでも、若い社員が登場するインタビュー記事で、働く人びとにフォーカスした。市民や子どもたちに、より親しみをもって会社のことを知ってもらえるよう、また若い社員が活躍していることを学生さんにも印象づけたいという狙いもあった。韮崎市教育委員会の協力も得られて、学校経由での広報も行うことができ、市内の中学一年生全員にチラシを手渡すこともできた。

参加企業からは「当たり前と思っていた仕事を外の人に見てもらい、すごいと言われることでモチベーションアップの効果が生まれている」といった声や、見学者の受け入れ前に現場の整理整頓を行うといったプラスの作用は大きい。

もともと B to B の取引が多い工場では競合関係にある事情も抱えているが、ニラサキオープンファクトリーを通じて、企業同士の交流が生まれはじめており、各企業が連携して具体的な取組みが進むことを期待しているところだ。

●事務局連絡先
ニラサキオープンファクトリー実行委員会 事務局
韮崎市商工会
〒407-0024　山梨県韮崎市本町 1-5-25
TEL 0551-22-2204
公式サイト https://nirasaki-openfactory.jp/　ガイドブック

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ニラサキオープンファクトリー実行委員

IWASHITA　KAZUHIKO

岩下 和彦 氏

韮崎市商工会　会長

昭和産業株式会社 相談役

ニラサキオープンファクトリー実行委員会委員長

SAITO　TSUGUKI

齋藤 嗣樹 氏

韮崎市商工会 製造業部会 部会長

ツルヤ化成工業株式会社 常務取締役

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

乾　亘 氏

有限会社イヌイ金属塗装工業所　代表取締役

ニラサキオープンファクトリー実行委員

金井 洋介 氏

キンキ製工株式会社　社員

ニラサキオープンファクトリー実行委員

上野 政臣 氏

コスモ株式会社　代表取締役

ニラサキオープンファクトリー実行委員

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

デザイン担当

陶守 いくみ 氏

BEEK DESIGN デザイナー

ニラサキオープンファクトリー実行委員

WEB 担当

高野 純矢 氏

コンパス 代表

ニラサキオープンファクトリー実行委員

事務局

仲澤 瑞基 氏

韮崎市商工会

経営指導員

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

韮崎市

「韮崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、産業人材育成に繋がる事業としてオープンファクトリー開催を支援。

韮崎市教育委員会

オープンファクトリーを「産業を知ること」「将来の選択肢」「普段できない体験の場」など教育の一環として捉え、市内小中学生に向けた広報に全面的に協力。

山梨県産業労働部

産業人材の育成に繋がるオープンファクトリーを軸に、将来的な広域的な連携に向けて、ともに推進。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

交通の要衝の宿場町として栄え商業も盛んな韮崎市。半導体関連の企業も数多く集積し、商工会の製造業部会でも熱心に活動してきた。例えば、180 社が参加する仮想工業団地「風林火山ビジネスネット」の立ち上げや合同研修の開催など。地域経済を支える製造業と自負していたが、市が実施した市民アンケートでの製造業に対する満足度が低いことに大きな衝撃を受けた。その解決策を模索するなかで、2018 年に関東経済産業局が発行した「オープンファクトリーガイドブック」を入手し、墨田区のスミファなどを視察。そこでの体験からオープンファクトリーの意義を感じるとともに、韮崎市での実現への想いを固めた。

TOPICS

ものづくりをもっと身近に。

子ども向けのオープンファクトリーに大きく舵をきった 2022 年度。期間中、韮崎市民交流センター ニコリの「工作室」では実行委員会企画のものづくり体験を実施。T シャツやトートバックにイラストを印刷してオリジナルグッズを作るというもの。自分で描いたイラストが実際の「モノ」になるのを楽しみ、ものづくりを身近に感じる機会となった。

（写真）工場見学・ものづくり体験、バスツアー等の様子、「NIRASAKI OPEN FACTORY 2023 GUIDE BOOK」。

2012 年〜

富山県高岡市

市場街（高岡クラフト市場街）

高岡クラフト市場街
TAKAOKA CRAFT ICHIBA-MACHI

CORE VALUE

ものづくりのまち高岡、産学官連携でつながるまちづくり

- EVENT DATA -

開始年　：2012 年
開催回数：11 回
開催期間：9 月下旬頃 / 3 日間（2022 年）
コンテンツ数：約 90（2022 年）
来訪者数：約 18,400 人（2022 年）
主催　：高岡クラフト市場街実行委員会

FEATURES

工芸都市高岡から贈るクラフトイベント

「ヒト」、「食」、「マチ」と結びついて、新たな魅力を生み出す、工芸都市高岡が贈るまち一体型のクラフトイベント。開催期間中には、「工芸都市高岡クラフト展」を中心に、高岡の伝統産業職人や作家によるアート・クラフトの展示・販売、ワークショップ体験、地元のグルメを楽しめる飲食メニュー提供など高岡市にまつわる様々なコンテンツが企画・開催される。

10 周年を迎えた 2021 年には、イベント名を「高岡クラフト市場街」から「市場街」に変更して開催している。

FUTURE

継続して開催することを目指す

2012 年から継続して開催する中で、市民にも市場街のイベントそのものやイベントにかける想いが浸透してきている。また、市場街が楽しいから富山県内の大学に進学したという学生も出てきている。市場街は、まちづくりの意味合いも大きく、継続して開催することを大切に考えている。若い人も意欲的に活動に加わってくれていて、頼もしく感じている。

今後も継続していくことを大切に、高岡市の地域性や規模にあったコンテンツ作りに力を入れていきたい。

受賞アワード

2018 年度　（公財）日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」　受賞
2022 年度　（公財）日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」　受賞
第 27 回　（一財）地域活性化センター主催
「ふるさとイベント大賞・大賞（内閣総理大臣賞）」　受賞

INNOVATION

様々な取組との連携・相乗効果の創出

2010 年頃まで、高岡では様々な取組が個別に行われていた。それら取組をまとめていったほうが対外的にも分かりやすくなるとの考えがあり、市場街でも、これまで市内を中心に様々なイベントとの連携を深めてきた。2016 年には「金屋町楽市（現在の「ミラレ金屋町」）」というイベントと会期を合わせるため、開催時期を 10 月から 9 月に変更している。他にも、2017 年〜 2018 年には銅器団地オープンファクトリー、2018 年に開催された「日本遺産サミット in 高岡」とも連携してきた。直近の 2022 年には、「工芸都市高岡の秋。2022」と題して、「市場街 2022」「工芸都市高岡 2022 クラフト展」「ミラレ金屋町」の 3 つのイベントが同時開催されている。

加えて、富山、石川、福井の北陸三県を舞台に開催される「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI」でも、会期を合わせてプロモーションを行っている。

数ある取組の連携の中でも、高岡伝統産業青年会が主催する「高岡クラフツーリズモ（年度によって名称が異なる）」がある。高岡クラフト市場街が始まった 2012 年から、開催期間を重ねて開催してきた。高岡クラフツーリズモは、職人の工房や工場をめぐり、ものづくりの現場の見学や製作体験ができるツアーである。2020 年からは「クラフツーリズモ TV」として、オンラインにも活動範囲を展開している。

こうして、毎年秋には、様々な取組やイベントと連携することで、相乗効果を生み出し、結果、高岡市のまち全体の盛り上がりに寄与している。

●事務局連絡先
高岡クラフト市場街　実行委員会
E-mail　ichibamachi@gmail.com
公式ホームページ　https://ichibamachi.jp
記録集「高岡クラフト市場街 10 年の軌跡」 https://book.ichibamachi.jp

ONE TEAM

実行委員長

TREND SETTER

KUNIMOTO KOUTAROU

國本 耕太郎 氏

漆器くにもと　代表

高岡クラフト市場街実行委員長

高岡で 100 年以上の歴史を持つ漆器問屋の四代目。工芸の技を活かし、ワンストップでものづくりができる高岡のものづくり窓口として様々なプロダクトを生み出す。

2019 年には工芸×アウトドアをテーマとした新会社も設立。30 歳で帰郷して家業を継いで以来 20 年間、仲間達と共にものづくりとまちづくりに奔走している。高岡伝統産業青年会 OB。

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
有田 行男 氏
富山大学 芸術文化学部 准教授

デザイン担当
羽田 純 氏
株式会社 ROLE/ 代表

関連イベント企画・運営
藤田 和耕 氏
高岡伝統産業青年会 会長
株式会社平和合金 社長

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

高岡市長
角田 悠紀 氏

主催者である高岡クラフト市場街実行委員会の大きな特徴は、産学官が連携している点である。「官」を代表する高岡市は、市民による挑戦を応援するという角田市長の思いのもと、実行委員会の一員として「市場街」をともに盛り上げている。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
富山大学芸術文化学部のプロジェクト授業

富山大学芸術文化学部では、「教員が特定の社会的課題を挙げて、問題発見及び解決までの過程、手法をグループワーク等の他者との協働等を通じて実践的に学ぶ授業」をプロジェクト授業として定義。
2016 年度から「高岡クラフト市場街」への学生の関わりを「プロジェクト授業」として位置付けている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

1986 年より続く歴史ある「工芸都市高岡クラフトコンペティション」。ここで開催される展示会を軸に、高岡のまちをクラフト関連のものづくりやイベントで特長づけるべく、生まれたのが「高岡クラフト市場街」であった。2012 年の開催当初はクラフトコンペティション付近に催しを行う等コアなコンテンツが多かったが、年毎に食のコンテンツやまち歩きが加わり、裾野を拡げていった。2016 年からは、イベントを教育の場にしていこうと、富山大学のプロジェクト授業として組み込んでいる。若い世代が関わることで関係する年齢層が広がり、より活力あるイベントに成長している。

TOPICS

オンラインコンテンツへの挑戦

新型コロナ感染症が拡大し、現地でのイベント開催が難しい状況となったが、逆境に負けず、2020 年以降「オンライン配信」という新たなツールの活用にチャレンジしている。オンライン配信のみでは、物販の販売や飲食での収益を上げにくいため、「高岡」のプロモーション、ブランディングを目的に「市場街 TV」と称する YouTube 配信チャンネルを立ち上げ、伝統産業をエンターテイメントとして捉えた番組の制作と配信に取り組んでいる。その他、音楽ライブ番組「市場街ナイト」、職人の手作業を映し続ける「定点観職」など、職人や町人の協力を得ながら、実行委員会や富山大学芸術文化学部が中心となり、高岡ならではのコンテンツが多数誕生している。

（写真）市場街 TV、定点観職、高岡伝統産業青年会が企画するイベント等

2019 年〜

石川県加賀市

around

CORE VALUE

巡る、温泉郷
自然と文化とモノづくりを体感する

- EVENT DATA -

開始年　：2019 年
開催回数：3 回
開催期間：2 月頃
参加企業：30 社（2023 年）
来訪者数：約 1,000 人（2023 年）
　　約 200 人(2021 年)、約 8,000 人(2019 年)
主催　：around 実行委員会

FEATURES

自然と文化とモノづくりを体感できるイベント

2019 年より観光資源と地場産業の現場を広く見学・体感してもらい、山中温泉地域の価値や魅力を知ってもらう産業観光イベントとして立ち上がった around。その後、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2020 年は中止、2021 年は回遊性を目的としたスタンプラリーでの開催と、本来の主旨とは異なる手法ではあるものの、粘り強く運営を続けてきた。2022 年は、around 温泉カフェと題して、「食・旅館体験・工房巡り・技・香・花・癒」をキーワードに、山中漆器の工房見学ツアー・展示販売、旅館体験、花や香をテーマにしたワークショップ等様々な企画を実施。

FUTURE

年間を通じて誘客できる仕組みを目指して

いかに地域外の人を呼びこむかということを考えて生まれたのが本イベント。一過性のイベントで終わるのではなく、年間を通じて誘客できる仕組みを構築したいと考えている。 来たる 2024 年春の北陸新幹線敦賀延伸に向け、2022 年度は、around ウェブサイトを開設し、今後地域に求められる情報発信を持続的にし、独創的なコンテンツで多くの優良な顧客の定常的な取り込みを目標に考えている。

INNOVATION

around をきっかけとする新たな動き

地域で漆器製造を営む事業者や卸売事業者は、販売先の多くが首都圏であり、産地や伝統工芸品のブランディングへの優先度が低く、漆器業界、観光業界や旅館・ホテル等の連携・関係は少なかったのが実情であった。そうした中、around 開催に向けた取り組みを通して、参加メンバー間で互いの事業について少しずつ理解を深めていった。その結果、参加メンバーの旅館がリニューアルする際、食事提供向けの器として山中漆器を採用するなど、少しずつ地域内の連携が始まっている。共通の目的を持ち、協働することで少しずつ業界を超えた信頼関係が生まれてきている。

2022 年度はコロナ禍に around メンバーそれぞれが培ってきた情報発信力を駆使し地域発の情報発信スキーム、地域事業の持続的なマネタイズのあり方、そして継続的なメディア運営で地域の姿を形作る事を協力して目指してきた。IT インフラの整備、ウェブサイトの構築などに注力し、観光客を呼び込むノウハウ、首都圏の顧客のニーズ、商品トレンドなど都市圏と地域の「情報格差」が起因した地域事業のマーケティングの課題解決に参加企業が一丸となって努めてきた。2022 年度の取り組みをベースにさらなる発展を目指していきたい。

●事務局連絡先

株式会社 我戸幹男商店

〒 922-0107　石川県加賀市山中温泉上原町ヨ 58-1
TEL 0761-78-4421　FAX　0761-78-5543
around 公式サイト　https://around-kaga.com/

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

GATO MASAYUKI

我戸 正幸 氏

株式会社 我戸幹男商店 代表取締役

明治 41 年（1908 年）石川県山中温泉にて我戸木工所として創業した我戸幹男商店。木地屋商人として木地師の理念を受け継ぎ、漆器の基となる木地の完成度に拘った漆器を作り続けてきた。伝統的な山中漆器の高度なロクロ技術を活かした実用性と、和の美意識に基づいた高い芸術性を追求し、長く愛される漆器作りを目指している。奈良に都があった頃から湯治客を招き、土産物として作られた山中漆器。歴史を振り返り山中温泉で 1 から原点回帰がコンセプトの直営店 GATOMIKIO/1 を 2017 に開業。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

吉本 龍平 氏

有限会社吉花（お花見久兵衛）代表取締役

桜や花見がコンセプトの宿。桜吹雪のお出迎え、焼きたて団子のウェルカムサービスなど、「楽しい時間」を提供するお花見久兵衛。旅館業の地位向上を志し、顧客・従業員双方の満足度の充実を目指している。

池田 晃一郎 氏

株式会社いけだ 代表取締役

昭和 48 年に会社設立して以来、山中漆器を製造し、伝統的な木製漆器から、現在はプラスチック素地の特色を生かした近代漆器のインテリア製品を主に製造している。山中漆器の代表的な製造である吹き付け塗装による鮮やかな色と山中温泉の情景による憩いをコンセプトに【iroikoi いろいこい】と名付けた新ブランドを立ち上げる。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

山田 耕平 氏

株式会社山田屋（花紫）代表取締役

山中温泉の老舗旅館「花紫」を経営。「現代における日本の文化サロン」というコンセプトの元、創業より受け継ぐ心を大切にしながら多様に広がりゆく現代の価値観にも目を向け、花紫らしいおもてなしのあり方を日々追求している。

呉藤 安宏 氏

石川県立山中漆器産業技術センター（石川県挽物轆轤技術研修所）

山中漆器の原点で、全国の頂点に立つ「挽物轆轤技術」の習得と後継者育成及び将来の山中漆器産業を担う人材の育成、自主研究等を行うための産業振興の中核施設の専門員。漆器産業を影で支える頼もしい存在。

ともにあゆむ

OTHERS

企画を担うクリエーター

寺井 将貢 氏

有限会社空間考作テライ（s.t.c）代表取締役

独自の世界観で、ファッション、雑貨と幅広い商品構成と新商品が豊富で何度訪れても飽きさせないセレクトショップ stc を運営。市内で開催されるイベントを多数企画運営。

藤永 晋悟 氏

株式会社 ONTOS 代表取締役

カジュアル工藝とウェルネスを提唱するコンセプトサロン「月月」を運営。デザインやコンサルティング経験を活かし、イベントの運営にも参加している。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である我戸氏自身が、2017 年に山中温泉に自社の漆器を取り扱う直営店をオープンする中、観光業界や旅館とも関係性を築いていったことが大きな契機となった。自身が関わる工芸というものが産地ありきで成り立っていることに改めて気付く。

ちょうどその頃、地域で旅館業を担う方々から、我戸氏ら若手世代に企画がないか持ち掛けられた。「漆器」と「旅館」という山中温泉の二大産業という強みを活かし、新しい形での連携を目指し、手を取り合っていこうという想いから企画がスタートした。旅館業界も、漆器業界も若手世代が多かったこともあり、若手が中心となって企画・準備が進み、1 年後の 2019 年 10 月に第 1 回目開催に至った。

TOPICS

2023 年は 2 月に開催へ

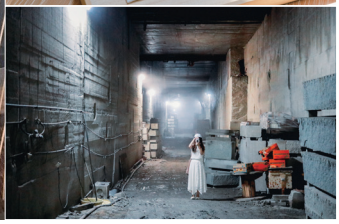
around 第 1 回、第 2 回は、11 月に開催したが、第 3 回目となる 2023 年は 2 月開催に変更した。10 月、11 月は多くのイベントが開催されており、広報に力を入れずとも地域内外からの訪問者が多い繁忙期である。主催者としては、来場者が多い方が嬉しいが、忙しい時期に土曜・日曜に around を開催するとなると、職人や事業者はお店を閉めてイベントに出ることになり、負担も大きく、参加できる企業も多くない。そのため、積雪の多い時期ではあるが、2023 年の開催は 2 月に決めた。

（写真）工場見学・ワークショップ体験・街歩きスタンプラリー等の様子

2021 年〜

石川県小松市

GEMBA モノヅクリエキスポ



CORE VALUE

小松のモノヅクリの原場が見れる

- EVENT DATA -

開始年　：2021 年
開催回数：2 回
開催期間：11 月（2022 年）
参加企業：35 社（2022 年）
来訪者数：約 5,000 人（2022 年）※関連施設来場者含む
主催　　：こまつものづくり未来塾

FEATURES

多様な産業のものづくり GEMBA（原場）イベント

小松市では伝統工芸である色絵陶磁器「九谷焼」をはじめ、織物、鉄鋼、石材、農業、酒、和菓子、瓦、畳など多様な産業のものづくりが、長い年月を経て発展してきた。GEMBA モノヅクリエキスポは、その小松の文化や産業に触れながら小松のものづくり GEMBA（原場）の知恵や技術を知り、体験できるイベント。

2022 年は、日本を代表する伝統工芸事業者から世界シェアを誇る巨大メーカーまで、35 社が企画する 50 プログラム（工場見学、ワークショップ等）が開催された。

FUTURE

小松市ならではの産業観光プログラムを目指して

北陸新幹線が 2024 年に延伸、新幹線小松駅が開業することを好機と捉え、小松市として、いかに産業観光に取り組んでいくかを模索すべく、3 回のテストマーケティングに取り組んでいる。小松市ならではの魅力ある産業観光プログラムを提供できるよう、2023 年は更にバージョンアップした企画を検討予定である。

また、まだ出会っていない小松市内の事業者のうち、我々の描くコンセプトに共感し、想いが合う事業者がいれば参加を積極的に呼び掛けていきたい。

受賞アワード

2022 年　全国産業観光推進協議会・公益社団法人日本観光振興協会
主催「第 14 回産業観光まちづくり大賞」 金賞受賞

INNOVATION

「こまつものづくり未来塾」の活動から生まれる、協業の兆し

GEMBA モノヅクリエキスポは、第 14 回産業観光まちづくり大賞にて金賞を受賞するなど、地域に大きな影響を与えている。その成果の裏には運営主体である「こまつものづくり未来塾」の活動がある。こまつものづくり未来塾は、2019 年に開催した、産業観光関係の事業者が中心の「南加賀産業観光ワークショップ」から始まり、2020 年には九谷焼関係者を中心としたオープンファクトリー「GEMBA」プロジェクトが始動。その後、九谷焼産業以外の事業者も参画し「こまつものづくり未来塾」が 2021 年 6 月に発足。

また、未来塾では、活動の大きな軸として、有識者や外部講師を招いた、会員制の交流ビジネスサロン「GEMBA サロン」を定期的に開催。異業種交流による協業や新たな事業創造を目指している。

こうした活動を継続した結果、2022 年のプログラムでは、酒造メーカーと九谷焼事業者がコラボして、絵付けした酒器でお酒の飲み比べを行う、といった体験プログラム「九谷焼作家ものの酒器で愉しむ GEMBA 限定地酒と九谷焼の夕べ」が生まれた。結果として、横のつながりが深まる有意義な機会となった。

GEMBA サロン等では、様々な業種の事業者が参加していることから、全体的に士気も向上しており、新しいコラボ商品が生まれそうな兆しもある。

●事務局連絡先
こまつものづくり未来塾　実行委員会事務局
〒923-8566
石川県小松市園町ニ 1 番地（小松商工会議所内）
TEL 0761-21-3121

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

OGURA HISAHIDE
小倉 久英 氏
小倉織物株式会社 代表取締役
こまつものづくり未来塾実行委員長

小倉織物株式会社は、明治 28 年創業、100 年以上続く老舗の織物会社である。

そのシルクジャガードは世界でも愛されている。小倉氏は兼ねてより、小松市内の祭り等に積極的に参加するなど、地域の発展を願い、活動してきた。地元地域からの信頼も厚い。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

こまつものづくり未来塾 副委員長
荒木 重晶 氏
株式会社オリジナークロスジャカード 代表取締役社長

こまつものづくり未来塾 委員
宮本 淑博 氏
宮創製陶所株式会社　代表取締役

こまつものづくり未来塾 委員
吉田 幸央 氏
株式会社錦山窯　代表

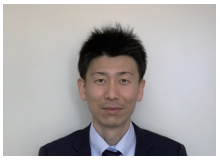
こまつものづくり未来塾 委員
大西　俊則 氏
大西石材　代表

こまつものづくり未来塾 委員
西野 隆志 氏
小松製瓦株式会社

（2022 年 12 月現在）

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



小松商工会議所
こまつものづくり未来塾 事務局

小松市交流推進部観光交流課
広報担当、バックサポート担当

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
EATLAB 株式会社

総合窓口や体験プログラムの取材・記事執筆を担当。同社は、小松市に深く密着した活動を展開。市内でコワーキングスペースを運営し、地域でのネットワークも幅広い。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

小松市は、観光地・金沢市と一大温泉地として知られる加賀市に挟まれている。交通の要所でもあり、様々な工場や職人が存在することで伝統工芸が現在まで受け継がれている。小松製作所をはじめとしたモノづくりのまちでもあり、こうした地域資源を活用することで、観光の目玉となるような産業を模索していた。

2020 年度の南加賀産業観光ワークショップ等にて先進地（燕三条 工場の祭典や RENEW 等）の視察を実施し、観光産業への学びを深めた。「学ぶだけ」だった状態から、2021 年は行動に移す時期とするべく、2021 年 6 月にこまつものづくり未来塾を発足。同年 11 月に第 1 回目のオープンファクトリーの開催に至った。

TOPICS

2022 年の開催コンセプト「ちょっと、聞いてよ。俺たちの話。」

2022 年の開催コンセプトは「ちょっと、聞いてよ。俺たちの話。」このコンセプトのもと、GEMBA モノヅクリエキスポ 2022 では、「当社の製造力を活かして新しい商品一緒につくれないか」や「うちの工房の後継者にならないか」といった課題に対応する、計 50 のプログラムを展開。プログラムを通して、ものづくり企業が自ら消費者、デザイナー、メーカーなどに自社の技術や製品をプレゼンテーションできる場を作り出す、あるいは企業と消費者が直接つながることで化学反応を発生させ、新たな収益源を確立させることを目指している。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子

2014 年〜

岐阜県関市

関の工場参観日

CORE VALUE

切り開こう、工場の新しい未来

- EVENT DATA -

開始年　：2014 年
開催回数：9 回
開催期間：11 月頃
参加企業：40 社（2022 年）
来訪者数：約 4,200 人（2022 年）
主催　　：関市
企画運営：関の工場参観日実行委員会

FEATURES

世界三大刃物の産地で開催する工場見学

世界 3 大刃物の産地として名高い岐阜県関市で行われる、刃物産業をはじめとした「ものづくりのまち・関市」の工場を広く開放するイベント。

メインコンテンツである工場見学やワークショップでは、迫力のある機械や職人の熟練の技を間近で見ることや、多種多様なものづくりを実際に体験することができる。さらに、イベントのインフォメーション会場となる「せきてらす」では飲食が楽しめるマルシェや、工場が作った製品を購入できる「SEKI SELECT STORE」も展開。そのほか、複数の工場を巡る企画としてバスツアーやスタンプラリー、ものづくりやまちづくりをテーマとしたトークイベントなども実施している。

FUTURE

全国から来てもらえるようなイベントに

今後の目標は、まだ「関の工場参観日」を知らない人に、イベントや関市の企業を知ってもらうきっかけを作り、市内外から足を運んでもらうこと。そのため、プレイベントの開催や、市外のイベントへの出店、参加企業と協力した SNS などでの情報発信を行っている。

メイドイン関の製品は広く世界に出荷されている。しかし、その製品が関市の工場で作られていること、また最終製品に至る前の段階の部品製造や加工などいわゆる B to B の工場が関市のものづくりを支えていることが、まだ関市民にも十分には知られていない。ものづくりのすばらしさを市民にしっかり伝え、関市のシビックプライドの向上につなげたい。

INNOVATION

「工場夜話」の取組や異業種コラボレーション

2022 年には 9 回目の開催となった「関の工場参観日」。回数を重ねる中で、より多くの人にイベントや関市のものづくりについて知ってもらおうと、参加企業同士が協力しながら、さまざまな形で PR を行っている。

中でも特徴的な取組の 1 つが「工場夜話」。工場で働く人をゲストにした、「ものづくり」や「工場」などをテーマとしたカジュアルなトークイベントだ。会場である「せきてらす」でイベントを観覧できるだけでなく、YouTube では生配信も行い、毎回視聴する熱心なファンもいる。オンラインコンテンツを行うきっかけとなったのは、2020 年にコロナウイルスが流行した際、オンライン開催に踏み切ったこと。年間を通じて関の工場参観日を PR する機会とするとともに、現地に足を運べない方にも工場参観日を楽しんでもらうコンテンツとなっている。

また、2022 年には工場参観日のプレイベントとして、実行委員会が企画した「工場 FES」を夏に開催。主にワークショップを体験してもらうイベントで、夏休み中とあって多くの親子連れがものづくりを楽しみ、11 月に開催される本イベントを訪れるきっかけとなった。

さらに参加企業同士の交流が進む中で、工場参観日の開催に合わせて、複数の企業がコラボレーションしたオリジナルグッズを制作したり、2 つの工場を巡って楽しむコラボツアーが実施されたりと、取組の広がりをみせている。

受賞アワード

2022 年　第 14 回 産業観光まちづくり大賞」奨励賞　受賞

●事務局連絡先

関の工場参観日実行委員会（関市役所産業経済部商工課）

〒 501-3894
岐阜県関市若草通 3 丁目 1 番地
TEL 0575-22-3131

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

SHIMADA AYUMI

島田 亜由美 氏

株式会社杉山製作所 代表取締役
関の工場参観日実行委員会
初代委員長 / 第 10 回委員長

“鉄の可能性”を理念として「鉄家具」アイアン建材「FiT」や店舗什器「KEBIN」といったブランドを立ち上げ、誇りの持てるモノづくりを大切に鉄製品の製造をしている。ものづくりのまち・関市を市内外に発信していこうと、関の工場参観日の発足に関わり、委員長退任以降も実行委員会に所属。第 10 回の関の工場参観日では再び実行委員会の委員長を務める。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

長谷川 智広 氏

丸章工業株式会社 代表取締役社長

参加工場の有志等で結成される「関の工場参観日実行委員会」で歴代最長の委員長を務める。

関の工場参観日実行委員会

参加事業者の有志や市役所、リトルクリエイティブセンター、広報担当者などにより組織。イベントの企画や企画の方向性、具体的な事業について話し合う。

株式会社リトルクリエイティブセンター

「関の工場参観日」の企画・運営やデザインに携わり、事業所や市役所と意見を交わしながら、より求心力の高い全国規模のイベントへの実現を図る。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

関市役所 商工課

「関の工場参観日実行委員会」のとりまとめや参加事業所との連絡などを行う。参加事業所と共に、前例のない取組にも柔軟に関わる。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

参加企業

刀や包丁、はさみといった刃物メーカーはもちろん、機械部品、金属加工、産業用機械、建築、印刷、食品、運輸など、多種多様なものづくりにかかわる 40 の企業が参加。(2022 年)

TRIGGER & STORY

誕生秘話

関市は日本一の刃物の産地として知られ、「ものづくりのまち」として発展してきた。しかし、若者の市内企業や地場産業への関心は低く、従業員の高齢化、職人の後継者不足、技術の継承が深刻な地域課題となっている。そこで、関市の誇る事業所の高い技術力や高品質な製品を、市民をはじめ多くの人々が直に体感でき、個性的な経営者や職人と接しながら製品の知識を深めることで、地元企業の魅力を再認識してもらうとともに、まちに誇りや愛着を持つ心を育む機会としたいと考え、「関の工場参観日」が始まった。

TOPICS

参加事業者や市役所職員などが本音で語り、共に考える

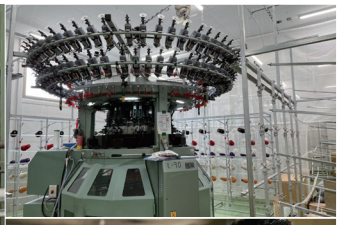
関の工場参観日では、「関の工場参観日実行委員会」という参加事業者の有志や市役所などが参加するチームが、企画や運営の中心を担っている。１～２ヶ月に１度開催される実行委員会では、企画の方向性や具体的な事業について、参加事業者や市役所職員などがそれぞれフラットな立場で知恵を出し合い、意見をかわしながら、イベントの実現を目指す。

（写真）「工場夜話」、会場の様子等。

2021 年〜

愛知県一宮市、愛知県津島市、岐阜県羽島市を中心とする尾州エリア

ひつじサミット尾州



CORE VALUE

着れる、食べれる、楽しめる。ひつじと紡ぐサステナブルエンターテイメント

- EVENT DATA -

開始年　：2021 年
開催回数：3 回
開催期間：10 月下旬頃 /2 日間
参加企業：47 社
来訪者数：約 16,000 人（内オンライン参加者：約 1,150 人）
主催　　：ひつじサミット尾州 実行委員会

FEATURES

世界三大毛織物産地「尾州」を体感

「天然のエアコン」とも呼ばれる機能性を持ち、炭素排出や海洋汚染の面でも環境負荷の少ないサステナブルな素材、ウール。ひつじサミット尾州は、そんなウール生地の産地「尾州」（びしゅう / 尾張地方の古い呼び名）で工場見学やワークショップ、ショッピングや美味しい飲食など、「着て、食べて、楽しみながら」その持続可能性を体感できる、サステナブルなエンターテイメントイベント。

尾州の繊維事業者に留まらず、地域に根ざした企業や飲食店はもちろん、地域外のウール関連事業者（羊飼いやカーペットメーカー等）も参加し、世界三大毛織物産地と言われる「尾州」を様々な視点から体感できる。

FUTURE

尾州産地の未来に向けて

開催により、参加事業所から「職人が喜んでいた」、「また開催したい」という声が挙がっている一方、完全手作りであるため、事務作業など、一部の実行委員の負担が大きくなりつつある。役割分担等含め、よりサステナブルな方向性に変化していくことが今後の課題である。

また、ひつじサミット尾州は「尾州産地の未来に向けて何かやろう」という想いから生まれた。イベントを通して相互信頼関係を築いてきた参加企業間のコミュニティで、イベントだけでなく、共に DX を推進する等、産地の未来につながる取組も進めていきたい。

INNOVATION

作り手同士の繋がりを深める参加事業者交流会

2 年目となる 2022 年では、前年以上に「作り手同士の繋がり」を意識し、オフラインにて参加事業者交流会を合計 5 回開催した。交流会では、イベントに向けた事務的な内容に加えて、様々なノウハウの共有、参加事業者同士で互いに工場見学に行くなどして交流を深めてきた。

一般の人に工場の中を見せるオープンファクトリーの取組は、同業他社にも見られるという意識が働く。競合他社となる可能性のある同業他社に、どこまで見せるかという点について、賛否両論もあった。交流会では、参加事業者の心理的安全性を高めるため、実行委員会のメンバーが積極的に自社で持つノウハウをオープンにすることを心掛けていったこともあり、徐々に産地自体が抱える課題を共有して連携しあっていこうという共通認識が生まれていった。

こうした交流会の結果、元々取引がなかった事業者間で取引関係が生まれたり、一緒に商品開発に取り組む等、コラボレーション・連携が生まれてきている。

また、他産地との交流もひつじサミット尾州の大きな強みである。第 1 回目開催に向けて、先進事例である燕三条　工場の祭典、RENEW、関の工場参観日、FactorISM の実行委員会メンバーや主要メンバーにヒアリングし、その取組内容をとりまとめ、企画に活用した。その後、イベント開催時に訪問するなど産地間の交流が続いている。

●事務局連絡先
三星毛糸株式会社　未来創造室　ひつじサミット尾州事務局担当
〒 501-6228
岐阜県羽島市正木町不破一色字堤外 898
hitsuji.summit@gmail.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

IWATA SHINGO
岩田 真吾 氏
三星グループ 代表
ひつじサミット尾州 代表発起人

1981 年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。三菱商事株式会社、ボストン・コンサルティング・グループを経たのち、2009 年三星毛糸株式会社・三星ケミカル株式会社に入社。2010 年に三星毛糸株式会社、2016 年に三星ケミカル株式会社の代表取締役社長に就任。毛織物産業、尾州産地の未来に危機感を持ち、ひつじサミット尾州を発案。賛同する 10 名の発起人とともに、産地の発展に貢献している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

2022 年度実行委員長
宮田 貴史 氏
宮田毛織工業株式会社 部長

2022 年度実行委員長
伴 昌宗 氏
伴染工株式会社 専務取締役

Z 世代アンバサダー
学生インターンシップ

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

クリエイティブディレクション
浅野 一平 氏
プランニングオフィス・ラグーン有限会社
代表取締役社長

会計担当
三嶋 啓一郎 氏
三嶋公認会計士事務所

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

株式会社マクアケ 共同創業者／取締役
坊垣 佳奈 氏
＜マクアケプロジェクト＞
参加事業者の新商品デビューのプロジェクトサポートなど、
ファクトリーブランドの立ち上げを支援。

株式会社 LEO 代表取締役 CEO
なごのキャンバス 企画運営プロデューサー
粟生 万琴 氏
ZIP-FM との共同制作番組「Startup [N]」にてナビゲーターを
務める。7週連続ひつじサミット尾州参加事業者をゲストに紹介。

TRIGGER & STORY
誕生秘話

コロナ禍により繊維業界も多大なダメージを受けていた。外出を控え、在宅ワークが増える中、スーツやおしゃれな服を着る人も減る等の要因で、売上は 5 割減に。仕掛け人の岩田氏は、自分たちだけが良ければいいという考えではなく、産地の事業者同士助け合う必要性を大きく感じていた。産地全体の活性化に繋がる、大きなムーブメントを起こしたいという想いを募らせていく。跡継ぎ仲間 2 人を呼び、ジンギスカンを食べながら自身の考えを伝え、一緒に取り組まないか尋ねた。断られたら一人でも進めるつもりでいたが、快諾するとともに「絶対他にもやりたい人がいる」と勇気づけてくれた。他の事業者にも声をかけ、想いに賛同する 11 名の発起人が集まり、ひつじサミット尾州に向けた取組がスタートした。

TOPICS
「ひつじ」に込めた思い

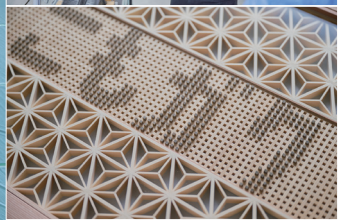
「ひつじサミット尾州」の「ひつじ」には、ふわっとゆるやかに包み込む想いが込められている。イベントでは、北海道から羊飼いを呼び、トークショーも開催。そこでは、丸焼きした羊をさばきながら、食育について学んでもらう時間も設けた。他にも、東京からジンギスカン屋に来てもらうなど、元々関わりのなかった畜産系や飲食系の人達とも「ゆるいつながり」を持つことが出来た。対象を絞るのではなく、「ゆるくつながる」ことが大切だと考えている。また、色々な年齢層にひつじ年の人がいるので、数年後となる「ひつじ年」は大いに盛り上げたい、そんな想いも込められている。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子、地域飲食店でのコラボメニュー等

2017 年〜

三重県三重郡菰野町

こもガク



CORE VALUE

こものの未来を考え続けるために もっとこものを学ぶこと

- EVENT DATA -

開始年　　2017 年
開催回数：7 回
開催期間：例年 10 月頃 / 2 日間
参加企業：45 社（2022 年）
来訪者数：約 5,000 人（2022 年）
主催　　：こもガク祭実行委員会

FEATURES

もっと菰野を学ぶ場「こもガク」

菰野町の未来を学び続けるために、もっと菰野を学ぶ場が「こもガク」。新しく菰野町に住む人が増える中、本当の菰野町を知らない人が増えている。古くから住んでいる人たちと、新しく入ってきた人たちとの関係を深めるため 、また菰野町の深さをもっと知ってほしいと開催。主体的に町のことを考える人を増やしたい！という想いがある。2022 年は、オープンファクトリーの他、こもガク塾、ファーマーズマーケット、こもガク食堂を主なコンテンツとして開催。

FUTURE

皆が誇りを持つまち菰野町を目指して

体験やものづくりの現場紹介を通じて、地域のことや事業内容を知っていただきたいという想いは、参加事業者の共通した想いであり、将来、若い世代の就労につながればという願いもある。最終的には各事業者が力をつけ、町民もこの町を誇りに感じ、それを町内外に向け発信する事で菰野町に関わりをもつ人が増えることを目的とする。菰野町には、他の地域のようにわかりやすい産業があるわけではない。それでも、より菰野らしい「こもガク」を、やり方を模索しながら、これからもっとうまく伝えられるようになればと考えている。

●事務局連絡先

こもガク祭実行委員会事務局（菰野町商工会）

TEL 059-393-1050

INNOVATION

「こもガク祭」で終わらない

「こもガク」での取組がきっかけで、様々な変化が生まれている。参加事業者がそれぞれの事業内容について理解を深め、異業種間での交流やコラボ商品の開発やコラボイベント、様々な情報交換なども行われるようになってきた。

また、メディアへの露出増加、地域外からの集客の増加により、売上増加につながったり、オープンファクトリーを通じて企業への理解を深めた結果、新卒者採用に至ったケースも生まれている。

事業者自身の変化も大きい。例えば、2020 年のオンライン開催をきっかけに初めてオンラインに取り組んだ事業者が、自社の事業に取り入れ、オンラインワークショップの定期開催、オンラインショップの開設、SNS による積極的な発信など新しい動きが加速している。

他にも、こもガク塾でのワークショップを通して、オリジナル商品の可能性を見出し、商品企画・販売スタートに至った事例もある。もともとは BtoB ビジネスを展開する企業であったが、こもガク塾にて、新幹線のパーツを制作するワークショップを開催。ワークショップ開催をきっかけに、オリジナル商品の可能性を見出し、子どもでもパーツを組み立てられる金属模型キットを開発、販売をスタートした。「こもガク祭」開催期間以外にも、徐々に日常への波及効果が増えつつある。（右図）

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

YAMAGUCHI NORIHIRO

山口 典宏 氏

有限会社山口陶器　代表取締役

地元の大手化学メーカーで会社員を経験した後、2003 年萬古焼の窯元である家業の（有）山口陶器に入社。2010 年代表に就任した後、今までの萬古焼にない現代的なデザインや新しいライフスタイルの提案に挑戦するなど新分野を開拓し、2014 年オリジナルブランド「かもしか道具店」を立ち上げた。また産地を残すために産業観光の必要性も感じ、地域事業者の有志と共にこもガク実行委員会を立ち上げ「こもガク祭」を開催。委員長就任中は「こもガク×大日本市博覧会」を収めるなど、活動の場を広げながら現在も地域の一番星として産地を次世代に残すための活動に力を注ぐ。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

稲波　伸行 氏

株式会社 RW 代表取締役 /
株式会社菰野デザイン研究所 取締役

菰野町生まれ。大学卒業後フリーランスとして独立し、2008 年 RW 創業。2012 年より株式会社 RW として法人化。企業や事業の価値の再定義に伴走し、ミッション・ビジョンの構築や新規事業の立ち上げ、事業の運用までサポートしている。

千種　啓資 氏

有限会社日の出屋製菓 代表取締役

約 10 年アパレル業界で勤務した後、菰野町に戻り、観光土産菓子を製造する家業を継ぐ。地域が盛り上がるために何ができるかという想いを持っていたところ、2018 年こもガクに出会い参加。2019 年から実行委員として活動し 2022 年から実行委員長を担う。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

広報担当

矢田 麻里子 氏

（株）菰野デザイン研究所

デザイン制作担当

森屋 律子 氏

（株）菰野デザイン研究所

商工会メンバーとの連絡・調整担当

菰野町商工会

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
歴代実行委員長

実行委員長は 2 年毎に選出される。現実行委員長の千種氏を初代実行委員長稲波氏、二代目山口氏、三代目黒田氏の歴代委員長と、現副実行委員長柵山氏がサポート、バックアップしている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

菰野町には湯の山温泉があり、観光地ではあるものの“泊まり場”にとどまっており、町内に魅力的なコンテンツがあってもそれぞれが点となっており、線でつながっていないという事の課題認識があった。また菰野町の人口が増加する中で、人間関係が希薄な点も課題であった。その一方で、魅力ある事業者の存在等、町のポテンシャルも感じていた。「どうすれば菰野町の魅力を感じてもらえるか。菰野町へ新しく来た人にも町を知ってもらいたい。」そうした思いから、2016 年に実行委員会が発足、2017 年に活動がスタートした。

TOPICS

開催スタイルの変化

2022 年は、メイン会場を菰野町町民センター / 体育館に集結する形とし、本部からオープンファクトリーや現地参加必須の塾を案内するスタイルに進化。会場でプチ体験、PR をすることで、事業所でのプログラムやこもガク塾への参加を促す。また、町内の事業者の訴求に注力するため、参加事業所を「菰野町内」に限定した。

（写真）：工場見学、ワークショップ、こもガク塾等の様子

2015 年〜

福井県鯖江市、越前市、越前町

RENEW

CORE VALUE

来たれ若人、ものづくりのまちへ。

- EVENT DATA -

開始年　：2015 年
開催回数：8 回
開催期間：例年 10 月頃 / 3 日間程度
参加企業：101 社
来訪者数：延べ 3 万 7 千人（2022 年度）
主催　　：一般社団法人 SOE

FEATURES

持続可能な地域づくりを目指す工房見学イベント

「RENEW（リニュー）」は、福井県鯖江市・越前市・越前町で開催される、持続可能な地域づくりを目指した工房見学イベント。

2015 年に福井県鯖江市河和田地区で始まった産業観光イベント。会期中は普段出入りできないものづくり工房の見学を通じて、作り手の想いや背景を知り、体験しながら商品の購入を楽しむことができる。現在は鯖江市・越前市・越前町の 7 つの産地、半径 10km 圏内で開催、国内最大規模のオープンファクトリーイベントに成長している。

FUTURE

越前鯖江エリアを日本一の産業観光地域に

2022 年は、持続可能な地域をつくるという目標に向け、次のステージに進んだ大きな転換期であった。越前鯖江エリアを日本一の産業観光地域にするという新たな目標のもと、2022 年 7 月に RENEW 実行委員会を法人化し、越前鯖江エリアの産業観光地域づくりを担う、「一般社団法人 SOE」に進化を遂げる（SOE：Sustainability of ECHIZEN）。通年型産業観光推進、宿泊施設の運営、各種スクールの運営、RENEW の運営等を担い、将来的には移住促進や二次交通の整備も目指していく。

受賞アワード

2019 年 総務省ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（団体部門）
2019 年 日本デザイン振興会 グッドデザイン賞受賞
2020 年 総務省ふるさとイベント大賞優秀賞（地域活性化センター会長表彰）
2020 年 国土交通省地域づくり表彰最高賞（国土交通大臣賞）
2021 年 第 11 回地域再生大賞（東海・北陸ブロック賞）
2021 年 FBC かがやき基金　かがやき大賞

INNOVATION

「若くて元気な産地」が着実に浸透

RENEW 開催をきっかけに、越前鯖江エリアには 33 社の新規店舗がオープンし、日本一のファクトリーショップ集積地となっている。産地企業の機運が醸成されるとともに地元民の郷土愛も高まり、産地での意識に変化が生まれている。また 45 名の雇用を創出したことも大きな成果である。

最近では年によって、全国のプレイヤーを集める「まち / ひと / しごと」をはじめとしたプロジェクトや、ものづくりに携わる企業とものづくりを志す若者が出会い、互いを知り未来への関係性を育む「産地の合説」も開催しており、これら取り組みをきっかけとする移住者は 10 名以上にのぼる。

また、2020 年にはサポートチームとして「あかまる隊」を結成し、現在も 80 名近くが参加している。半数は県外のサポーター、学生が大半だが、社会人も含まれるなど、RENEW をきっかけにつながった人と人の輪は、着実に広がりつつある。

RENEW は「更新する」という意味から名前をつけているため、毎年新しい取り組みを続けている。2022 年は、「RENEW Pay」の導入、「RENEW タクシーチケット」のデジタル版の登場、「あかまる隊ツアー」の企画・開催など、より多くの人々にエリア内のものづくりを知っていただくための新たな取り組みや工夫が取り入れられた。それら取り組みを機に、新たな外部との交流に繋がる、まさにイノベーションの苗床となっている。

●事務局連絡先

一般社団法人 SOE
〒 916-1222
福井県鯖江市河和田町 19-1-7
TEL　080-7850-5336

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NIIYAMA NAOHIRO

新山 直広 氏

TSUGI LLC.（合同会社ツギ）代表
RENEW ディレクター
一般社団法人 SOE 副理事

1985 年大阪府生まれ。2009 年鯖江市に移住。応用芸術研究所を経て、鯖江市役所在職中の 2013 年に TSUGI を結成。地域特化型のインタウンデザイナーとして、地域や地場産業のブランディングを行う。また、産業観光イベント「RENEW」の運営をはじめ、めがね素材を転用したアクセサリーブランド「Sur」、福井の産品を扱う行商型ショップ「SAVA!STORE」など、デザイン・ものづくり・地域といった領域を横断しながら創造的な産地づくりに取り組む。一般社団法人 SOE 副理事。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

RENEW 実行委員長
谷口 康彦 氏

有限会社谷口眼鏡 代表取締役社長
福井県眼鏡協会 会長 / 一般社団法人 SOE 顧問

RENEW 立ち上げ期より「持続可能な地域づくり」を強力に推進してきた。

RENEW 事務局長
村上 捺香 氏

一般社団法人 SOE 専務理事

1993 年石川県出身。フリーランスのプロジェクトマネージャーや WEB メディア編集、講師業を経て、2020 年 RENEW をきっかけに福井県鯖江市に移住。

あかまる隊

県内外の約 80 名からなる、RENEW と産地のサポーターチーム。SNS の運営や工房見学ツアーのコーディネートなど、RENEW と産地を広く支える。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

RENEW 事務局
深治 遼也 氏

RENEW 事務局
西山 ほゆ 氏

RENEW 事務局
山田 美玖 氏

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

特別協力：福井県、鯖江市、越前ものづくりの里 プロジェクト協議会、めがねのまち鯖江元気再生協議会、株式会社中川政七商店
協賛：越前漆器協同組合、一般社団法人福井県眼鏡協会、福井県和紙工業協同組合、越前打刃物産地協同組合連合会、越前焼工業協同組合、越前指物協同組合、鯖江商工会議所、福井銀行、福井信用金庫、福邦銀行、越前市商工会、株式会社土直漆器、株式会社 Hacoa、株式会社漆琳堂、株式会社ヤマト工芸、株式会社サカエマーク、有限会社谷口眼鏡、株式会社ボストンクラブ、株式会社乾レンズ鯖江支店、株式会社キッソオ、TSUGI
協力：公益財団法人ふくい産業支援センター、越前市、越前町、JR 西日本福井営業支店、楽天トラベル
後援：日本商工会議所

TRIGGER & STORY

誕生秘話

約 200 の越前漆器工房が集積する「うるしの里」福井県鯖江市東部の河和田地区。仕掛け人となる新山氏は、移住してきた際、衰退する漆産業の厳しい現実を目の当たりにし「このまちに足りないものはデザインだ」と考えデザイン事務所を設立。一方この地に住み、以前から自主的にまちの未来のための活動を行っていた谷口康彦氏も、まちの未来に危機感を持っていた。そして 2015 年のあるときに二人が出会い、新山氏が構想した活性化の方策「産業観光 RENEW 企画」に谷口氏が共感・賛同する。その後両氏は、地域の工房に地道に足を運び参加を呼びかけ、21 社の事業者が集まった。こうして二人の情熱とともに、第 1 回目の RENEW が始まったのだった。

TOPICS

RENEW/2022 特別企画

RENEW/2022 では、会期中に「大日本市鯖江博覧会」、「まち / ひと / しごと -Localism Expo Fukui-」が同時開催された。

「大日本市鯖江博覧会」は、“ 日本の工芸を元気にする！ ” をビジョンに掲げる中川政七商店による工芸の祭典であり、5 年ぶりに RENEW に復活。「まち / ひと / しごと -Localism Expo Fukui-」は、「ものづくり・暮らし・食・教育・福祉・コミュニティ・IT・防災」をキーワードに、全国各地でアクションを起こす人々が集うショップ型博覧会であり、どちらの会場も盛況であった。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子等

プロフィール以外の写真：PHOTO by Tsutomu Ogino（TOMART:PhotoWorks）

2018 年〜

福井県越前市

千年未来工藝祭

CORE VALUE

CoNEXTion（共につながる）

- EVENT DATA -

開始年　：2018 年
開催回数：5 回
開催期間：例年 8 月頃 / 2 日間程度
参加企業：約 130 社 (2022 年)
来訪者数：約 1 万人（2022 年）
主催　　：クラフトフェス実行委員会

FEATURES

「モノづくりのまち」越前から工藝の魅力を発信

越前市では、長い伝統と歴史を有する、越前和紙、越前打刃物、越前箪笥が、今もまちの文化・生活を支えている。千年未来工藝祭は、若者たちに、作り手の技や製品、人柄に触れ、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指すイベント。

コア・バリューである CoNEXTion は、「繋がり」という意味の “Connection” をもとに「共同で次の次元に動かそう」という意味が込められている。世界に誇れる「モノづくりのまち」越前市から工藝の魅力を伝えていく。

FUTURE

「裾野」のさらなる拡大と地域ブランディング

2022 年は、2019 年以来のリアル開催が実現。会場全体で約 130 ブースが集合し、クラフト展示販売、ワークショップ、ローカルフード・ドリンク販売などがあり、子どもから大人向けまで充実したコンテンツで開催。

2021 年はリアル開催は中止となったが、準備を進めていたオンラインコンテンツにて開催。越前の伝統工芸を 360° VR 映像で楽しめるコンテンツの提供や、伝統工芸にまつわる音と映像を用いたパフォーマンスコンテンツを提供。

日本をはじめ、台湾、香港との連携を進め、そこからアジア一帯における中心的な工藝祭となるよう、取り組みを目指していきたい。2025 年の大阪・関西万博を 1 つの目標として、実現に向けて動いていきたい。

INNOVATION

参加企業間・産地間・消費者とのつながりが生まれる場

参加企業同士の連携として、打刃物のケースを箪笥屋が作るなど、業種を超えた事例が生まれている。従来、市内 3 産地（越前和紙・越前打刃物、越前箪笥）については、横の交流は少なかったが、千年未来工藝祭という場の存在により、新しいつながりが生まれている。

また、千年未来工藝祭は、B to C を意識したイベントとなっており、一般の消費者やファンと触れる機会が生まれているため、職人たちの意識改革にも繋がっている。これは自社にアンテナショップを持っていても、一般客がふらりと立ち寄るような機会は少ないという地域課題を解決する機会ともなっており、千年未来工藝祭に参加することが、普段はかかわりの少ない客層に出会える貴重な機会となっている。

未来を担う若手の育成という点では、実行委員長は、若手職人から毎年交代で選ばれている。加えて、2021 年からの新しい取組として、越前市伝統工芸三産地の若手職人が集まり、自らのアイデアで製作した作品を実際にユーザーに手に取ってもらう TNCP2021(Thousand, Next Takumi, CoNEXTion, Project) がスタート。お客さんの声が、産地の未来を担う若者の意識醸成や課題発掘の貴重な機会になっている。

●事務局連絡先

株式會社ヒュージ

〒915-0225　福井県越前市別印町 2-51
TEL 0778-42-8205

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

UCHIDA HIROKI

内田 裕規 氏

株式會社ヒュージ 代表取締役

千年未来工藝祭プロデューサー

越前市 越前和紙の里・旧今立町育ち、福井を拠点に様々なデザインやブランディングを手がける。文化創造拠点「FLAT project」や工芸の未来へ橋を架ける場「CRAFT BRIDGE」をオープン。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

実行委員長

山口 真史 氏

山伝製紙株式会社

運営会議にて積極的に指揮を取り、開催準備や設営、オンライン配信など様々なコンテンツを実行に導いた。

副実行委員長

戸谷 祐次 氏

Sharpening four 代表 伝統工芸士

委員の様々な意見を汲み取りながら、委員長とともに主体的に取り組み、当日はInstagram ライブ配信の実行に徹した。

副実行委員長

山口 祐弘 氏

ファニチャーホリック 代表

初年度から運営会議に参加し、出展者集めに尽力していただいている。自ら出展しながら出展者目線での意見も反映していただいている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局

仲野 弘修 氏

越前市役所 産業環境部 産業政策課

事務局

小林 正典 氏

越前市役所 産業環境部 産業政策課

アドバイザー

永田 宙郷 氏

TIMELESS LLC. 代表

ともにあゆむ

OTHERS

越前市

「クラフトフェス実行委員会」の実行委員メンバーの一員。
伝統産業を始めとする地域産業の事業者向けに、「越前ネクストクラフト事業」を企画・運営。販路やモノづくりの思考法を学ぶ「越前ものづくり塾」等の開催を進め、伝統工芸の若手職人を中心に、新たな商品開発や販売チャネルの開拓に寄与。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

越前市では、地域産業の事業者間の連携強化や販路開拓を目指す場、またモノづくりの思考を学ぶ場として、「越前ものづくり塾」が開催されてきた。ものづくり塾により成果も生まれ始め、2015 年にスタートした隣町の鯖江市の RENEW に、越前市内の工房も参加したり、首都圏等への展示会へ共同出展する中、産地及び自社の PR やブランドを構築する必要性が認識され始める。そうした中、内田氏にクラフトマーケットプロデュースの依頼があり、コンセプト・コンテンツを検討。「作り手の想いと技術を千年先まで繋げたい」という想いのもと、越前市内の３つの産地の若手代表等と市が手を取り合い、「クラフトフェス実行委員会」が新たに組織化され、2018 年、第 1 回千年未来工藝祭開催に至った。

TOPICS

「CoNEXTion Members& Page」の誕生

千年未来工藝祭を通じて、オンラインでも作り手と使い手が繋がる場所を構築したいという想いから生まれたのが、「CoNEXTion Members'Page」。

過去・現在・未来にわたり、千年未来工藝祭とのご縁のあった作り手を、ホームページを訪問する使い手に繋げるページとして誕生。伝統工芸品やクラフト作品の作り手、イベントを盛り上げてくれる飲食店の作り手と様々な「作り手」を紹介している。これからも毎年歴史のページを重ねていく予定だ。

（写真）開催の様子等

2016 年〜

in 丹波・京都・山城：京都府南部（亀岡市、京都市、宇治市、南丹市、長岡京市）
in 丹後・中丹：京都府北部（京丹後市、与謝野町、宮津市、舞鶴市、綾部市、福知山市）

DESIGN WEEK KYOTO

CORE VALUE

京都をより クリエイティブな街に

- EVENT DATA -

開始年　：2016 年
開催回数：8 回
開催期間：2 月頃（丹波・京都・山城）/ 11 月頃（丹後・中丹）
参加企業：48 社（丹波・京都・山城）/ 26 社（丹後・中丹）
来訪者数：約 1,500 人（丹波・京都・山城）/ 約 650 人（丹後・中丹）
主催　：（一社）Design Week Kyoto 実行委員会

FEATURES

2022 年秋より京都府全域で開催

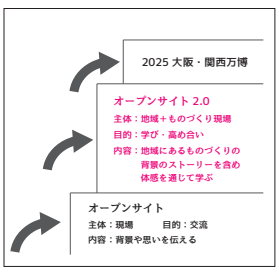
DESIGN WEEK KYOTO では、京都府内のものづくりの現場をオープンにし、国内外から訪れるさまざまな人との交流を促進することで、新たなモノやコトを創出している。多種多様なものづくりが行われている現場を公開するオープンサイトイベントは、2016 年に京都市でスタート、2019 年から亀岡市、宇治市が開催地域に加わり、2022 年秋より京都府全域に拡大。会期中以外にも、年間を通じて交流を深めるツアーやイベント（工芸技術を活かしたクラフトソンやトークイベント等）を開催している。

FUTURE

地域の叡智を学ぶ「オープンサイト "2.0"」へ

大阪・関西万博を見据え、これまでの「オープンサイト」から、地域の叡智を学ぶ「オープンサイト"2.0"」への進化を目指す。

主体には「地域」が加わるとともに、目的は、「交流」から「学び・高め合い」に進化。またオープンサイトの内容も、「地域にあるものづくりの背景のストーリーを含め体感を通じて学ぶ」コンテンツを目指す。その上で、国内外の人々や企業・団体が地域を訪ねて交流・学びを深めるラーニングツーリズムを実施していく。



INNOVATION

「出会い」や「自信」から生まれるイノベーション

DESIGN WEEK KYOTO に参加することで、参加企業同士の業種を超えた会話や交流が生まれている。会期中は互いに訪問し合うことが出来ないことから、「なんかしよう！」をキーワードに、期間外で自主的に交流する機会を持つことを奨励している。そうした交流をきっかけに、「一緒になんかしよう！」というチームが芽生えている。

DESIGN WEEK KYOTO の醍醐味は、多様な出会いやつながりから始まる展開である。既存の組合や取引関係にとらわれず、新しい取り組みやチャレンジに積極的になることが特徴で、これまで、事業者同士の技術を掛け合わせた「漆と螺鈿（らでん）を施した分解できるコントラバス」、「美しい藍染の義肢を入れる正絹金襴の袋」など次々にイノベーションが生まれている。

さらには外部デザイナーとの連携による自社ブランドの開発など DESIGN WEEK KYOTO で得た「気づき」と「出会い」を形にすることで、そうした「経験」が「自信」に繋がり、自社全体のブランディングや認知度の向上につながっている。

こうした成功事例の積み重ねによって、参加企業の自主性も育まれており、さらなるイノベーションにつながる新たなサードプレイスとして機能する場となっている。

●事務局連絡先
一般社団法人 Design Week Kyoto 実行委員会事務局

〒600-8846　京都府京都市下京区朱雀宝蔵町 34 Umekoji MArKEt 3 階
TEL　075-874-2718

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KITABAYASHI ISAO

北林 功 氏

COS KYOTO 株式会社 代表取締役
一般社団法人 Design Week Kyoto
実行委員会 代表理事

地場のモノづくり産業のグローバル展開サポートや人材育成、文化交流事業や学びのツーリズムを通じて、自律・循環・持続する心豊かな社会構築に挑む。平成 28 年より、モノづくり現場での交流を通じた創造的地域づくりにも取り組む。オープンサイト参加企業が思いを伝えられるようになるためのワークショップの実施や、 地域において地域の文化や事業者の思いを伝えられる『クロスカルチャーコーディネーター』と名付けた中間人材の育成にも取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

京都信用金庫
理事長　榊田 隆之 氏

多様な人たちの交流の場である DESIGN WEEK KYOTO から、人と人が繋がり、そこから気付きやイノベーションが生まれていく。京都にそのような豊かなコミュニティを創造していくことをミッションとする。

DWK メンバーズ

年間を通じモノづくりを軸として異分野の人々が交流し合い、お互いを高め合う会員制コミュニティ。セミナー受講やワークショップ等、仲間が集う場である。DWK のクリエイティブなコミュニティに年間を通じて参加し、共に京都を盛り上げていきたい！という方に向けたメンバーシップである。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局リーダー
北林 佳奈 氏
COSKYOTO 株式会社
取締役

デザインチーム
佐藤 恵月 氏
デザインオフィス WA-plus
代表

編集・翻訳者
大久保 彩 氏

ともにあゆむ

OTHERS

プラチナパートナー
京都信用金庫

パートナー
株式会社ウエダ本社
Future Spirits

ゴールドパートナー
KRP
FormMailer フォームメーラー
岡村勇毅公認会計士・税理士事務所

チアパートナー
TAKUMADESIGN

丹後・中丹 DWK　メインパートナー
京都北都信用金庫

TRIGGER & STORY

誕生秘話

京都は、美食を支える農作物や歴史深い工芸をはじめ、先端的な工業や建築等、世界に誇る多種多様なモノづくりが根付いており、府内各所の担い手が豊かな文化と産業を支えている。しかし、それらの現場は一般には閉ざされており、外部の人が現場を知ることや分野を超えた交流はハードルが高いものであった。

2013 年、仕掛け人の北林氏はアメリカ西部にある創造都市ポートランドを訪れ、様々な人々が現場で交流する中で関係を深め、協働して新たなアイデアを生み出して実現していく様子を目の当たりにし、衝撃を受ける。「これこそ京都に必要な取り組みだ」と考え、2016 年に DESIGN WEEK KYOTO をスタート。「本質を守りながらも交わり繋がり合い、時代とともにアップデートする仕組み」を京都につくることが京都の発展となることを信じて活動を続けている。

TOPICS

DESIGN WEEK KYOTO は「DESIGN KYOTO」へ進化

2013 年より年に 1 回のオープンサイトイベントの開催と年間を通じた事業者の交流促進に取り組んできたが、2023 年からは、より京都府内の多様なモノづくり事業者同士や国内外の地域の人々との年間を通じての交流活動、そして地域の産業が育んできた叡智を交流を通じて学べる「ラーニング・ツーリズム」の実施や人材育成等に力点を移していく。活動の総称を「DESIGN KYOTO」とし、「DESIGN WEEK KYOTO」はカンファレンスを中心としたイベントへと進化していく予定である。

（写真）オープンサイトの様子等

2015 年〜

大阪市大正区・港区・西淀川区

大正・港・西淀川オープンファクトリー

CORE VALUE

ものづくりの力を結集して、地域の課題解決へ

- EVENT DATA -

開始年　：2015 年
開催回数：7 回
開催期間：例年 11 月頃 / 2 日間
参加企業：約 50 社
来訪者数：約 150 人
主催　　：大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会

FEATURES

行政と民間が自ら「考動」する集合体

大正・港・西淀川オープンファクトリーは、エリアの人口減少を背景に、エリアの魅力を外部に発信するとともに、地域住民が自らのまちに愛着を持ってもらうことを目的にスタート。2023 年からは西淀川区が新たに加わり開催した。行政主導で始まったものの、民間企業も同じ目線・熱量で共に企画実施可能な関係性が構築されている点、すなわち「行政色が濃いにも関わらず民間企業も『やらされ感なく』継続している」ことが非常に特徴的である。

さらにはまちの魅力発信を兼ねていることから、地元商店街等も訪問ツアー先に組み込み、地域一丸となって取り組んでいる。

FUTURE

多様な交流でさらなる飛躍へ！

本オープンファクトリーのスタートは、2015 年の大正オープンファクトリーにさかのぼる。大正での取り組みがきっかけとなり、関西の他地域の新たな取り組みも生まれてきた。さらに、研究者、ベンチャー企業のアイデアをより早く具現化する為の外部資源を巻き込んだプラットフォーム「Garage Taisho,Minato」創出にも繋がっている。

2023 年から新たに西淀川区が加わり、地域内での連携はもちろんのこと、それぞれの地域のネットワークを活かし、地域外ともさらに積極的に交流を図り、新たな「大正・港・西淀川」の魅力発信の手法を生み出していく。

●事務局連絡先
西淀川区役所
〒 555-8501
大阪市西淀川区御幣島１丁目２番１０号
TEL　06-6478-9774

INNOVATION

ローカル・カンパニー・プライドによる地域課題解決へ

主催者の大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会では、拠点型ものづくり体験イベント「西淀川ものづくりまつり」を 2010 年から、「大正ものづくりフェスタ」を 2013 年から継続して取り組んでいる。毎年 4 〜 5 ヶ月かけて企画に取り組む中、「どうせなら現場（工場）も見せよう」という自発的な声からオープンファクトリーの取り組みに繋がった。参加企業は現在約 50 社で、区内の企業の関心も非常に高く、事業を通して企業間のネットワークも着実に拡大している。行政がツアーを企画し、参加企業が当日の体験・見学メニューを考える際、毎年異なる参加企業同士でチームを組む。情報交換することで交流が生まれ、区内の企業間ネットワークが拡大していく。さらにオープンファクトリーを通して、自らを地域にアウトプットする出力先が出来たことで、徐々に「自分事」として活動するようになり、企業の地域に対する愛着（「ローカル・カンパニー・プライド」）も育まれている。

大正・港・西淀川オープンファクトリーの原点は「課題解決による地域貢献」である。本取り組みを通して業種・業界を超えた企業関係性が構築され、地域企業が悩んでいた若手社員教育の共同実施に繋がったり、コロナ禍での地域医療機関の困りごとを解決する商品開発を短期間で実現するなど、取り組みを継続することで生んだ「繋がり」が、結果的に地域課題を解決することが可能なイノベーションの苗床となっている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KONDO TAKASHI

近藤 高史 氏

大阪市西淀川区 地域支援課 課長

2007 年、大阪市区役所初の工業担当係長に就任。西淀川区役所、大正区役所、港区役所勤務を経て、2022 年から西淀川区役所勤務。これまで、ものづくり企業と行政が連携する「西淀川区工業活性化研究会」、「大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会」を通じ、まちの活性化を公民連携の手法で進めている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会

大正区、港区、西淀川区のものづくり企業と区民との交流やものづくり企業のネットワーク形成とともに、区外へもこれら地域のものづくりの魅力を広く発信し、ものづくり企業の活性化を目指すため、民間企業、支援機関、区役所で組織し、オープンファクトリーをはじめとした事業執行の意思決定を行っている。

実行委員長

中村 和也 氏

中村工業株式会社 専務

機械化が難しく、人の力に依るところが大きい、直径 80mm を超えるような太径のロープ加工を得意とする中村工業 (株)。同社は、主要メンバーとして、工場見学を積極的に受け入れ、同氏は工場見学の講師を務める等、子ども達にものづくりの魅力を伝えている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

木幡 巌 氏

株式会社木幡計器製作所
代表取締役

南 仁 氏

有限会社南歯車製作所
代表取締役

山本 忠 氏

山忠木材株式会社
代表取締役社長

東 弘之 氏

鹿島化学金属株式会社
取締役副社長

ともにあゆむ

OTHERS

オープンファクトリー参加企業

大正区：鈴木合金株式会社、株式会社木幡計器製作所、中村工業株式会社、IKEA 鶴浜、紀洋木材株式会社、有限会社飛鳥鉄工所、株式会社藤井組、山忠木材株式会社、大阪港湾局鶴町機械工場、ヨリドコ大正メイキン＆大正るつぼん

港区：有限会社南歯車製作所、成光精密株式会社

西淀川区：奥村機械製作株式会社、池永精機株式会社、日本鏡板工業株式会社、末広工業株式会社、株式会社ニッセイ・ニュークリエーション、フードテクノエンジニアリング株式会社

（順不同）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

大阪の湾岸エリアは、紡績産業を中心としてまちが発展してきた。また、日本屈指の近代港を擁することで、重工業も大きく発展し、“ものづくりのまち”として全国にその名を馳せている。そうしたものづくりのコアとなる、匠の技、現代に受け継がれたものづくりの DNA を体感してもらいたいという想いから、2015 年に大正区でオープンファクトリーの取り組みが始まった。ものづくりの現場を見学する他、商店街や観光地を巡るプログラムも組み込まれた。2017 年から港区が、2023 年には西淀川区が新たに加わり、現在の「大正・港・西淀川オープンファクトリー」に至る。仕掛人の近藤氏を始め各地域の関係者による多大な尽力・想いにより地域が拡大してきた。

TOPICS

りびんぐラボ大正・港の発足

医療、工業、福祉の関係企業が連携し地域課題の解決をめざす「りびんぐラボ大正・港」のスタートは 2020 年 1 月。大正区は大阪市 24 区内で最も人口が少なく、高齢化も進んでいる。少子高齢化の顕著な大正区がこの課題を解決できれば、他の自治体でも活用できるひとつのモデルケースになるとして、「ものづくりのチカラ」で健康医療に係る様々な研究・実証を行い、未来の地域健康へフィードバックすることを目指す。

コロナ禍においても、地域医療機関が「被覆具」不足に困った際、本取り組みを通して 25 時間で企画・製造が実現し、解決を生んでいるなど、今後の成果も期待される。

（写真）工場見学の様子

2020 年〜

大阪府八尾市、東大阪市、柏原市、堺市、高石市、和泉市、門真市、大阪市

FactorISM

CORE VALUE

こうばはまちの エンターテイメント

- EVENT DATA -

開始年　：2020 年
開催回数：3 回
開催期間：例年 10 月頃 /4 日間程度
参加企業：60 社
来訪者数：9,000 人以上（リアル参加者）
主催　　：まちのこうほうぶ
（FactorISM 実行委員会）

FEATURES

FactrorISM　アトツギたちの文化祭

「FactorISM(ファクトリズム)」は、「こうばはまちのエンターテイメント」を合言葉に、参加企業と来場者、地域一体型でつくるオープンファクトリーイベントである。ものづくりの現場を公開し、世界に誇る日本のものづくりを五感で体験、体感してもらう文化祭のようなイベントである。

3 年目となる 2022 年は「触発」をテーマに、参加企業と地域が連携して開催された。なお、FactorISM（ファクトリズム）は、Factory ＝こうば、ISM ＝主義・主張、Tourism ＝観光を組み合わせた造語である。

FUTURE

来たる 2025 大阪関西万博を見据えて

来たる 2025 大阪・関西万博を見据え、イベントの認知度をさらに高め、参加したいと考える企業やイベント来場者を増やしていく。

また、世界に向けても「こうばはまちのエンターテイメント」というムーブメントを広げていくとともに、中小企業のものづくり技術・技能を地域ブランドとして確立させ、海外に発信していく。これらを通じて、こうばで働く人、それらこうばがある地域の人々、それぞれが誇りをもって、こうば・まちで活躍し、持続可能な社会・経済システムづくりへの貢献に繋げていきたい。

INNOVATION

業種を超えた、新たなコラボレーションへの「刺激」

FactorISM は 2020 年開始以降、開催地域、参加企業数が年々拡大している。参加した企業からは、「普段他の企業の方と知り合う機会がなく、FactorISM を通じて知り合った他社のオープンファクトリーも見学できた」、「スタッフが試行錯誤して取り組んだこともあり、成長に繋がった」といった声や、「イベントをきっかけに、他のおもしろい企業を知るきっかけとなった。コラボ企画にも挑戦したい」のように新たな取り組みに向けて、モチベーションを高めている。

また、参加企業同士の交流に止まらず、「こうばのでんしゃ FactorISM in 近鉄電車」、「展覧会 in 大阪府立中之島図書館」の実現など、外部機関とのコラボレーションも増えてきている。

FactorISM は単なるイベントではなく、コミュニティである。年に一度の「FactorISM アトツギたちの文化祭」だけにとどまらず、通年で様々なものづくり体験プログラムを展開するとともに、大企業や異業種とのコラボレーション、地域を越えたネットワーク構築、大学生の職業観の醸成など、まちの未来を創造する活動へと深化を続けている。

TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ登録

「FactorISM」実行委員会は、こうばやそこで働くつくり手、それぞれの想いを伝えることで、ものづくりという地域のアイデンティティを次代に受け継ぎ、持続可能なまちづくりや、ものづくりを新たなエンターテインメントとする「モノヅクリテイメント構想」を実現します。

●事務局連絡先
FactorISM 実行委員会
〒 581-0803　大阪府八尾市光町 2-60 リノアス 8F
TEL　072-920-7128 （株式会社みせるばやお）
email　machi@miseruba-yao.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

MATSUO YASUKI
松尾 泰貴 氏
・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当 執行役員
・FactorISM 統括プロデューサー

元八尾市職員。「みせるばやお」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにものづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード 2019 を受賞。現在、友安製作所にてまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに邁進中！

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

FactorISM 実行委員会事務局（まちのこうほうぶ）

所属も業種も異なるメンバーが、「まちこうばをエンターテイメントに変える!」を合言葉に、普段、私たちの生活を支え、暮らしを豊かにしてくれている日本のものづくりの素晴らしさ、面白さをもっとたくさんの人たちに知ってもらい、後世にバトンを継いでいきたいとの想いを一つに活動している。

実行委員長
太田 泰造 氏
錦城護謨株式会社

副実行委員長
友安 啓則 氏
株式会社友安製作所

門真支部長
一瀬 勇樹 氏
株式会社一瀬製作所

堺支部長
福田 康一 氏
株式会社河辺商会

八尾支部長
梶原 弘隆 氏
株式会社オーツー

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局長
山田 紘也 氏
株式会社ビーダッシュ
代表取締役社長

WEB ディレクター
野村 範仁 氏
株式会社ジョイントメディア
企画・ディレクター / 営業

広報担当
寺田 昌樹 氏
株式会社電通関西支社
プロデューサー

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

株式会社河辺商会
ヤマト運輸株式会社
錦城護謨株式会社
株式会社友安製作所
株式会社オーツー
シルバー株式会社
株式会社 MonotaRO
堺商工会議所
株式会社一瀬製作所
南海電気鉄道株式会社
近畿日本鉄道株式会社
シャープ株式会社

TRIGGER & STORY

誕生秘話

開催エリアとなっている八尾市には「みせるばやお」、門真市には「もりかど産業支援機関ネットワーク」、堺市には「さかいセカンドスタートアップ」というそれぞれの事業を通して市役所産業担当者と地域企業群との関係性が構築されており、当該市役所担当者達が繋ぎ手となって始まったのが FactorISM。※なお、当該担当者達は近畿経済産業局への出向経験を通して繋がりを有していた。

そして、お互いの地域で躍動する企業の可視化とエリアを越えた交流を実現するため「オープンファクトリー」という切り口で支援方法を考え、役所の垣根を超えた広域の実行委員会が立ち上がり、現在の礎となっている。

TOPICS

FactorISM のシンボルデザイン

FactorISM のシンボルデザインは、イベントのサブコピー、「アトツギたちの文化祭」の「アトツギ」に着目したものである。アトツギたちはリレーのバトンを渡された人と捉え、バトンを使ったシンボルで表現している。FactorISM のロゴにある 5 つのシンボルは、5 種類のバトンであるとともに、人の五感も表現している。「音の震え」、「味の刺激」、「手でふれた触感」、「視野」、「匂い」をイメージし、これらが毎年の共通テーマとなっている。参加企業が共通テーマのもと、それぞれの企画内容を検討・開催することで、イベント全体の統一感を生み出している。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子

2021 年〜

大阪府忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市

泉州オープンファクトリー

CORE VALUE

泉州地域産業の魅力をまるごと体感する

- EVENT DATA -

開始年　：2021 年
開催回数：2 回
開催期間：11 月〜 12 月頃／ 3 日間程度
参加企業：27 社
来訪者数：約 500 人（2022 年）
主催　　：泉州オープンファクトリー実行委員会

FEATURES

体験を通して知る泉州に根付く多様な産業

開催エリアとなる泉州地域には、泉州タオル・ワイヤロープ・泉州水なすなど、高い技術力で魅力的な商品を生み出す多様な製造事業者や農家が存在する。普段はあまり馴染みのない地域の製造工場や、地域に当たり前に流通する農産物が作られる農園を一般公開し、日常生活や地域産業を支える製品・人・技術に直接触れられる体験をオープンファクトリーイベントとして開催。地元の農産物の収穫体験や寺内町歴史案内ツアーも開催することで、泉州に根付く多様な産業を地域内外の方々に発信する。

FUTURE

繋がりの輪から新しい価値の創造へ

初回となる 2021 年は、貝塚市と泉佐野市で開催したが、翌年 2022 年では、開催地域が近隣の市町にも拡大し、泉州地域として開催した。

泉州オープンファクトリーの目的は、地域の企業・街・人の魅力を多くの人に知ってもらうこと、また訪れた人たちとの交流をきっかけに、人と人、企業と企業、地域と地域の繋がりの輪を世界中に拡げていき、その中で新しい価値を創造すること、そして主催者自身も泉州の魅力を再認識することを掲げている。これら目的を達成すべく、「泉州地域産業の魅力をまるごと体感する」イベントとして、一層の進化を目指す。

●事務局連絡先
泉州オープンファクトリー実行委員会

〒 597-0083　大阪府貝塚市海塚 1-1-23 ポートフォリオ内
E-mail　info@kaizuka-of.com

INNOVATION

参加企業同士の交流から、さらに新しい交流の輪へ

泉州オープンファクトリーの開催をきっかけに、地域内外からの様々な参加者に見られることを意識し、工場内の整理整頓を推進したり、現場の社員が「参加者に説明できるよう改めて会社のことを調べ直す」など、人材育成につながる様々なインナーブランディング効果が生まれている。

また、イベント開催に向けて参加企業同士が協働したことをきっかけに、互いを知り、本業面での協業に繋がったケースも生まれた。ある BtoB 事業者が新事業としてこだわりの詰まったアウトドア新商品を開発したものの、量産品ではないことから梱包用紙箱の企画を依頼できるネットワークがなく困っていた。そんな中、泉州オープンファクトリーの参加企業の中に、小ロットでの紙箱企画製造が可能な企業がいることを知り、梱包用紙箱を手配することができた。

さらに、貝塚駅前のコワーキング施設「ポートフォリオ」にて開催されている異業種交流会イベントに、泉州オープンファクトリーに関わったメンバーを中心に、積極的に参加する企業が増えた。泉州オープンファクトリーをきっかけに、参加企業同士の交流から、さらに新しい交流の輪が広がっている。回を重ねるごとに拡大する、まさに未来志向に向けた集まりとなっている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ENSHO KOUJI

延生 康二 氏

株式会社ポートフォリオ 代表取締役
延生建設株式会社 代表取締役社長
泉州オープンファクトリー実行委員長

泉州オープンファクトリー実行委員会 実行委員長。大阪府貝塚市出身。2017 年に建設会社「延生建設株式会社」の代表取締役社長に就任。2020 年コワーキングスペース運営企業として、株式会社ポートフォリオを設立。2021 年 7 月、地元貝塚駅前の南海電鉄が所有する建物をリノベーション、カフェを併設したコワーキングスペース「ポートフォリオ」をオープンさせる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

泉州オープンファクトリー実行委員会

開催地域を拠点とする異業種メンバーで構成される。普段公開されていない、中小企業の製造現場を見学・体感できるイベント開催に向けて取り組む。以下は特に中心となって活動してきた 5 名。

上野 智行 氏
株式会社ウエノ
専務取締役

木岡 幸子 氏
日本紙工株式会社
営業部 企画開発室 主査

神藤 貴志 氏
神藤タオル株式会社
代表取締役

中野 壮人 氏
中野産業株式会社
取締役

前田 浩一 氏
一社）貝塚寺内町保存活用事業団 業務執行理事

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

植田 由貴子 氏
有限会社ユース クリエイティブ・デザインスタジオ
代表取締役

宍戸 竜介 氏
有限会社ユース クリエイティブ・デザインスタジオ

ともにあゆむ

OTHERS

南海電気鉄道株式会社

同社では #BIZ TAG NANKAI（沿線企業魅力共創プロジェクト）の一貫として、自社 HP 内での泉州オープンファクトリーの取組紹介やイベントレポートの掲載、南海電車内広告の掲載を行うなど、オープンファクトリーイベントを応援している。また、同社が事務所・倉庫として長年使用していた施設がリノベーションされ、「ポートフォリオ」という拠点名で、地元企業である株式会社ポートフォリオが運営。「ポートフォリオ」は、泉州オープンファクトリーの集合会場・メイン会場としても活用された。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

普段は目にする機会のない製造・生産現場を一般公開することで、地域や異業種企業とのコミュニケーションを図り、地域での認知拡大、インナーブランディング、商品・技術の潜在価値の発見に繋げたいという想いから泉州オープンファクトリーがスタートした。

参画企業の一社でもある延生金属株式会社に外部デザイナーが訪れ、「産業用帯鉄」を「これまでにないかっこいい建材」と捉え、某ホテルの照明パネルへの採用というインテリア業界に新たな販売チャネルを獲得した実体験が、上記の想いを大きく支えており、「予定調和のない出会い」の重要性を地域内に浸透させるべく、多くの地域内企業を巻き込み活動を広げている。

TOPICS

4 社コラボで実現、泉州タオル工場 1 日見学ツアー

2022 年のプログラムでは、糸からタオルができるまでの工程を、糸を作る工場、サイジング（糸に糊つけ）工場、織り工場、染め工場を見学しながら学べる、泉州ならではのタオル製造見学ツアーを企画・開催。

4 社がそれぞれの強みを活かしたコラボレーションワークショップである。当日は 1 日かけて泉佐野市、泉南市内の各工場を回った。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子

2018 年〜

大阪府八尾市

みせるばやお

CORE VALUE

誰もがいつでも気軽にクリエイティブを

- EVENT DATA -

開始年　：2018 年
開催回数：常設
開催期間：常設
参加企業：130 社（2023 年 1 月末時点）
累計来訪者数：約 8.4 万人（2023 年 1 月末時点）
主催　：株式会社みせるばやお

FEATURES

ものづくりのまち八尾を世界に発信

「見せる場」と「魅せる場」という２つが名前の由来である。出会いが加速する場を創出することがメインテーマであり、「シェアリングから生まれるイノベーション」を目指している。

みせるばやおの機能としては、２つ。１つは、子どもたちがワクワクできるものづくり体験を提供すること、もう１つは企業間のコラボレーションを創出する場である。企業間連携においては、様々なコラボ企画や商品開発、イベント等を数多く生み出している。参画は会員制を採用しており、約３割は八尾市外の企業（北は東北、大手企業等も参画）で構成されている。

FUTURE

広域連携からさらなる「苗床」づくりへ

みせるばやおでは、関西を中心とする他地域のオープンファクトリーとの連携や交流を通じて、横のつながりを強化し、ネットワークのさらなる拡大を目指している。RENEW とのコラボレーションで、参画企業同士の交流勉強ツアーの実施やサテライト会場としてタイアップした実績も既にできている。

みせるばやおは常設されている拠点であり、他にはない特長を活かし、上手く広域に連携し、さらなる苗床づくりを目指すとともに、関西の魅力を積極的に発信していきたい。

受賞アワード

2019 年 総務省ふるさとづくり大賞　団体表彰（総務大臣表彰）
2020 年 国土交通省地域づくり表彰（特別賞 日本政策投資銀行賞）
2021 年 イノベーションネットアワード　（優秀賞）
2023 年 第９回 ものづくり日本大賞（人材育成支援部門 優秀賞）

INNOVATION

ネットワークから生まれる圧倒的なコラボ実績

みせるばやおでは、様々な外部機関や会員企業間での交流によりローカルイノベーションが数多く生まれている。

１つの例が、木村石鹸工業×友安製作所による生活雑貨商品「LOMA」である。「LOMA」の例のように、企業がコラボレーションして生まれた商品も多い。みせるばやおに参加することで、従来は関わりがなく、存在さえも認知していなかった近隣企業との会話やネットワークが形成され、それがコラボレーション商品の誕生につながっている。こうしたローカルイノベーションが注目され、オープン当初から 2023 年 1 月末までに、のべ 112 件の視察や 218 件のメディア掲載、コラボ数は 122 件にものぼる。

また最近では、大学生とみせるばやお内の企業がコラボレーションしてワークショップイベントを開催するなど、学生とのコラボレーションの機会も増えてきている。

交流という観点では、みせるばやおでは、経営陣だけでなく、若手同士の交流も重視しており、多層的なネットワーク構築を目指している。企業同士が気軽に交流や相談ができる関係づくりを重視している。「あの会社にできるなら、うちの会社にも…」という良い競争心が刺激されて、参加企業のネットワークも着実に増えている。

●事務局連絡先
みせるばやお

〒 581-0803　大阪府八尾市光町 2-60 リノアス 8F
TEL　072-920-7128

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

MATSUO YASUKI
松尾 泰貴 氏
・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当執行役員

元八尾市職員。「みせるばやお」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにものづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード 2019 を受賞。現在、友安製作所にてまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに邁進中！

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

みせるばやお理事・役員メンバー

2018 年 5 月 8 日に官民連携によりコンソーシアムである「みせるばやお」を立ち上げ。2020 年 8 月 3 日に事務局機能強化、持続可能なコミュニティづくりのため、コンソーシアムを残しつつ、株式会社みせるばやおを設立。

代表理事
錦城護謨株式会社
代表取締役社長　太田 泰造 氏

副代表理事
大阪糖菓株式会社
代表取締役社長　野村 しおり 氏

理事
ラピス株式会社
代表取締役　乾 真治 氏

株式会社平井製作所
代表取締役　平井 隆之 氏

株式会社たくらみ屋
表取締役　森本 繁生 氏

アベル株式会社
代表取締役社長　居相 浩介 氏

KISSA ZEROICHI
代表　武内 春樹 氏

株式会社みせるばやお 役員
木村石鹸工業株式会社
代表取締役社長　木村 祥一郎 氏

谷元フスマ工飾株式会社
代表取締役　谷元 亨 氏

株式会社友安製作所
代表取締役社長　友安 啓則 氏

株式会社オーツー
代表取締役　梶原 弘隆 氏

株式会社ビーダッシュ
代表取締役社長　山田 紘也 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

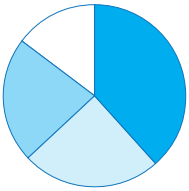
みせるばやお　館長
荒木 宏介 氏
みせるばタイムズ発行

みせるばタイムズ

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
みせるばやお会員企業のみなさま



- ■法人会員（20 名以下）　38.5%
- ■個人会員（個人事業者）　24.6%
- ■法人会員（50 名以上）　22.3%
- □法人会員（21 ～ 49 名）　14.6%

TRIGGER & STORY
誕生秘話

全国でも有数の中小企業が集まる産業のまち、八尾市。しかし OEM 企業が多く長年 PR の機会に触れてこなかったが故に、その高い技術力はなかなか認知されていなかった。また地域内に異業種交流団体はあったものの、近隣企業での連携に留まり、八尾地域外との交流を得るような機会がなかった。そこで、当時八尾市職員であり、かねてより八尾地域内の企業間連携に奔走していた仕掛け人の松尾氏が中心となり、2018 年に拠点兼プラットフォーム「みせるばやお」を設立。中小企業の新たなチャレンジ等を支援するとともに、ワークショップ体験等を通じて八尾地域の魅力を後世の子どもたちにも伝え、ものづくりの魂を次世代にも紡いでいる。

TOPICS
「まちのコイン（やおやお）」

2022 年 3 月までの半年間、株式会社カヤックとの協業で、八尾市に「まちのコイン」を導入する実証実験が実施された。

「まちのコイン」とは、株式会社カヤックが企画開発した、人と人とのつながりを可視化できるコミュニティ通貨である。実証実験を経て、八尾市、株式会社カヤック、大阪信用金庫の 3 者による連携協定も締結され、今後さらに活用できる場が広がっていく。

みせるばやおは、その中で、コミュニティ運営を担い、スタンプラリー形式で「やおやお」を貯める仕掛けづくり等、町中に広がるための取り組みを進めている。

（写真）ワークショップの様子等

2022 年〜

大阪府河内長野市

ワークワクワク河内長野

CORE VALUE

河内長野には ワクワクする現場と人がいる！

- EVENT DATA -

開始年　：2022 年
開催回数：1 回
開催期間：11 月下旬
参加企業：18 社
来訪者数：約 800 人
主催　　：河内長野市

FEATURES

河内長野のワクワクを知ってほしい！

大阪府の南東部に位置し、東は金剛山、南は和泉山脈に囲まれた自然豊かな河内長野市。ワークワクワク河内長野（以下、ワークワクワク）は、河内長野市内の仕事の現場を見学できるバスツアーや、イベント会場での会社紹介、製品展示、体験プログラムなどを通じて、河内長野の仕事（ワーク）のワクワクを直接「見て」「感じて」「知る」イベント。楽しそうなイベント名は、未来への思いを込めて参加事業者が命名。開催期間中には、河内長野に関するトークイベントや VR 技術を活用したバーチャル工場見学も開催し、河内長野のワクワクが溢れる内容となっている。

FUTURE

初回開催を終えた成果と体制づくりの課題

ワークワクワクの初回開催を通して、目標の 1 つであった、参加企業間の交流・連携につなげることができた。また、経営者間に加えて、担当者同士のつながりも生まれている。さらに、参加企業が自社の魅力や強み等を積極的に PR する術を身につけたことや、市民を中心とした多くの参加者に自社を知ってもらうことができた点も大きな成果であった。

今後の課題としては、事業を続けていくための体制づくりである。ワークワクワクをもっと盛り上げるため、参加企業による運営への関わりや実行委員会の立ち上げも視野に入れながら、より良い仕組みを検討するとともに、他地域のオープンファクトリーとの連携、観光の要素を含めた取組等も次年度以降検討していく。

INNOVATION

ワークワクワク参加によって生じた社内外の変化

ワークワクワクを通じて参加企業に生じた変化として、まず参加企業同士の関係性がある。中には、実際のビジネスにつながったケースも生まれている。参加企業は、ワークワクワク開催に向けて定例会合・ワークショップに複数回参加。その中で、ある参加企業の社長が、苦労の末に会社を創業した経緯を語ったことがあった。そうした創業時の苦労、社長の想いに共感した他の事業者が、その企業から商材を仕入れることを決めた。普段はなかなか知ることのできない、企業としての姿勢や考え方をワークショップ等を通してより深く知ることができたからこそ、取引に至ったものである。

別のケースでは、敷地が隣接する 2 社の参加企業が、ワークワクワクに参加するまで、お互いに交流がない関係であった。その企業が自社敷地内にてイベントを開催する予定だったが、当日に雨が降り、屋根のない自社敷地でイベントが開催できずに困っていた。隣接する企業の工場の荷捌きスペースには屋根があり、同スペースを提供することにより無事イベントを開催することができた。これまで隣接していたものの、お互いのことをほぼ知らなかった関係性から、気軽にコミュニケーションが取れる関係性が構築出来たことは非常に大きな成果である。

また、参加企業の内部にも少しずつ変化が生まれている。当初は付き合いでワークワクワクに参加した事業者もいたが、終了後は「参加してよかった」という声が聞かれるとともに、従業員が自主的に整理整頓、挨拶をするようになった等行動にも変化が生まれ始めている。

●事務局連絡先
河内長野市役所　環境経済部　産業観光課　商工・労働係

〒 586-8501　大阪府河内長野市原町一丁目 1-1
TEL 0721-53-6075

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KAWACHINAGANO CITY

河内長野市役所
環境経済部産業観光課

河内長野市では、少子高齢化や人口減少等による事業環境の変化や、後継者不足、産業用地不足による市外への転出等を要因とした事業所数の減少が進んでおり、これらによる地域活力の低下等への対応が喫緊の課題となっている。

環境経済部　産業観光課では、商工業及び観光振興を切り口にこれら課題に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

SNS 発信・受付・チラシ配布・広報活動等
エイチ･ツー･オー　リテイリング株式会社

SNS 発信・受付・チラシ配布・広報活動等
株式会社エム・エフ・ケイ

SNS 発信・受付・チラシ配布・広報活動等
第一生命保険株式会社
河内長野オフィス

ホームページ制作
スタジオ　オーヴァル

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

運営サポート
北林 功 氏
COS KYOTO 株式会社

運営サポート
北林 佳奈 氏
COS KYOTO 株式会社

デザイン担当
佐藤 恵月 氏
デザインオフィス WA-plus
代表

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

協賛：株式会社エイチ・ツー・オー商業開発、南海電気鉄道株式会社、
株式会社紀陽銀行、株式会社りそな銀行
後援：大阪府、河内長野市商工会、近畿経済産業局
協力：桃山学院大学

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2019 年 11 月に発行された産業振興に係る提言書では、産業支援に係る課題に対する施策の 1 つとして、オープンカンパニーの施策が提言されていた。また、2020 年以降コロナ禍により経営環境が急激に変化し、市として大きな危機感を持っていた。そうした中、2021 年、近畿経済産業局から織田氏が市に出向。関西で広がりを見せるオープンファクトリーの具体的な話が共有され、オープンカンパニー（※）の構想が具体化していった。参加企業募集にあたっては、公募の他、事業者に訪問しながら粘り強く趣旨を説明。最終的には 18 社が集まり、第 1 回開催を迎えることができた。（※）業種等を問わない会社・事業所等の公開や、参画企業間の連携強化、地元の町おこし等を含めた幅広い活動を「オープンカンパニー」という言葉として定義。

TOPICS

全 12 のオープンカンパニーツアーの開催

ワークワクワク河内長野では、開催期間の 3 日間で全 12 のオープンカンパニーツアーを開催。いずれも午前もしくは午後の半日コースで、用意されたバスや車に乗り、河内長野市内の仕事の現場を訪問する。集合・解散場所は、河内長野駅から徒歩圏内のイズミヤゆいテラス河内長野に設置。公共交通機関で訪れる人にもアクセスしやすい。ツアーの一部には、河内長野の産業が育まれてきた背景にある地域資源にも目を向けてもらうべく、市内名所ドライブが盛り込まれている点もポイントである。

（写真）オープンカンパニー・トークイベント等の様子

2018 年～

大阪府東大阪市

こーばへ行こう！

CORE VALUE

モノづくりをもっとオープンに

- EVENT DATA -

開始年	：	2018 年
開催回数	：	6 回
開催期間	：	10 ～ 11 月 / 2 日間
参加企業	：	正会員 24 社、準会員 3 社、賛助会員 1 社 （※ 2022 年 12 月現在）
来訪者数	：	約 4,300 人（2022 年）
主催	：	東大阪市
実施主体	：	こーばへ行こう！実行委員会 一般社団法人東大阪ツーリズム振興機構

FEATURES

「こーば」と「住民」をつなぐ場所

東大阪市は、国内でも有数の住工混在地域であり、町工場と住民が近い場所で暮らしている。町工場と住民が上手く共存していくことが重要なテーマである。

こーばへ行こう!は、モノづくりのまちである東大阪の町工場が中心となって、モノづくりの楽しさを発信し、「こーば」と「住民」を繋げるための取組である。モノづくりを中心とする「工業」だけでなく、「商業」も取り込んだ地域全体での活動を目指している。現在、全体の企画やディレクションは、（株）盛光 SCM が担当しているが、他の参加企業との分業や大学機関とのコラボも徐々に進みつつあり、今後さらなる拡大が期待される。

FUTURE

工業× ○○で、魅力発信！

2018 年、たった 1 社のみで開催した本イベントは、当初から反響を呼び、2019 年の開催は、ラグビーワールドカップが東大阪で開催されたことから、東大阪産業フェアのコラボ企画として駅前商店街を舞台に 6 社で実施。2022 年は、工場が文化発信の場として、商業やエンターテイメント・スポーツとコラボレーションして開催。今後も「工場×○○」をテーマに、工場の繋がりだけではなく、他業界とボーダーレスな関係性を築き、東大阪の都市の魅力を全国に発信していきたい。

●事務局連絡先

株式会社盛光 SCM

〒 577-0848

住所　大阪府東大阪市岸田堂西 2 丁目 8 番 25 号

TEL　06-6727-2855（代表）

INNOVATION

地域企業がまとまり、新たな付加価値を生む

こーばへ行こう！へ参加することで、参加企業それぞれが互いに良い刺激を受けながら、新しい事業展開やビジネスモデルの構築に取り組むといったモチベーションの向上につながっている。

オープンファクトリーに参加したことで、大学や商業施設の家具製作や照明開発など、様々な商品開発依頼に繋がった等の効果も出ている。地域企業としてまとまること自体が新しい付加価値の創出につながっている。

また、近隣の大学の学生が企画等に継続して参加しており、2022 年は「工場内を巡る謎解きゲーム」が企画・開催された。若い世代がモノづくりの現場に触れる機会は限られており、学生へのインパクトは非常に大きい。結果、参加企業への就職を決める学生も出るなど、リクルート面でも新たな付加価値を生んでいる。

2020 年には、こーばへ行こう！の参加企業は 5 社程度であったが、2021 年には大きく規模を拡大し、15 社の工場が参加、2022 年には 24 社が実行委員会に参加し、19 会場で実施した。その背景にはこれまでの商慣習等のしがらみに囚われず、TEAM 東大阪としてまちの魅力を改めて伝えたいという想いを、第一回からブレずに発信し続けたことで、地域に信念を共にしたい「同志」が集まったことが挙げられる。大企業関連の事業所も参画しており、企業規模に囚われないサードプレイスとなっている。この「同志」が生み出すまちの多様なイノベーションが今後も期待される。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KUSABA HIROKO

草場 寛子 氏

株式会社盛光 SCM 代表取締役

こーばへ行こう！ 実行委員長

こーばへ行こう！実行委員長。株式会社盛光ＳＣＭ代表取締役。代表就任と共に「下請け体質からの脱却」を宣言し、自社ブランド「空間に必要（need）なライフスタイル（life）」とした、ＮＥＥＬ（ニール）を立ち上げる。2018 年より「マチづくりに繋がるモノづくり」をコンセプトとし、工業（町工場）同士の繋がりだけではなく、商業や大学、スポーツ、エンターテイメントなど、域内連携を促進し、地域経済の活性化を目指して活動している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

こーばへ行こう！実行委員会

子どもたちは、東大阪の工場で何をつくっているのか知らないことが多い。閉鎖的だった工場を、もっとオープンに。モノづくりの楽しさを、市民と一緒に。住民も工業も商業も学校も役所も、境界線を取っ払って、みんなで遊ぼう！こんな思いから「こーばへ行こう！」が始まった。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

実行委員会正会員（50 音順）

（株）アオキ
（有）アートステージ
大阪石材工業（株）
（一社）大阪モノづくり観光推進協会
勝井鋼業（株）
（有）カワチ
（株）関西オカムラ
共和鋼業（株）
甲子化学工業（株）
サントー試作モデル（株）
（株）繁原製作所
（株）盛光ＳＣＭ
（株）摂津金属工業所
（株）TOAI
（株）鳥羽瀬社寺建築
ノースヒルズ溶接工業（株）
野田金属工業（株）
布施金属工業（株）
フセハツ工業（株）
（株）BestenDank
マツダ紙工業（株）
（株）松よし人形
三島硝子建材（株）
（株）水野製作所

準会員（50 音順）

関西演芸協会
（株）JTB 大阪第一事業部
（株）T-WORKS

賛助会員

大阪シティ信用金庫

協力

（株）日本政策金融公庫東大阪支店

TRIGGER & STORY

誕生秘話

住工混在のまち東大阪市。長年騒音や臭いの課題等を抱え、次第にシャッターを閉めて操業する状況を打破したのは、「こーばへ行こう!」だった。当初は 19 年ラグビー WC に向けた「モノづくりのまち東大阪」のブランディングとして、近畿大学と東大阪市、商工会議所の三者が協力してスタート。次第に出会いの「交場」として町工場と地域住民の関係構築、観光や地方創生を視野に入れた現在の企画が出来上がった。連携企業として、地域やモノづくりに熱い想いを持つ地場企業代表の草場氏に依頼。草場氏も他地域でのオープンファクトリーに刺激を受けていたところであり、産学官の連携が実現した。モノづくりの最盛期の活気を新たな形で取り戻すためにも「住工共生」を今後とも目指して行く。

TOPICS

工場で開催！ Co-Bar イベント

工場をより気軽に、より身近に感じてもらえるため、2022 年の 6 月から 10 月まで月 1 回のペースで Co-Bar イベントを開催。金曜日の夕方に、普段は立ち入り禁止の工場をオープンにし、交流の場 (交場) として、工場が Co-Bar となる。

アーティストによるライブやバーテンダーも登場するなど演出も本格的である。夏の Co-Bar は子ども向けに、モノづくりエリア、キッズダンスのパフォーマンスステージ、縁日も開催され、周辺に住む住民・子どもたちで賑わう熱いイベントとなった。

（写真）工場見学・ワークショップ体験、Co-Bar の様子等

2023 年〜

兵庫県神戸市

開工神戸 -KOBE OPEN FACTORY-

CORE VALUE

ひらけ！こうば

- EVENT DATA -

開始年　：2023 年
開催回数：1 回
開催期間：例年 3 月上旬 / 1 日間
参加企業：15 社（2023 年）
来訪者数：未定
主催　　：神戸市

FEATURES

工場（こうば）を開く。人がつながる。

「開工神戸（かいこうこうべ）」は、神戸市内にあるものづくり企業の工場・工房を公開し、見学やワークショップを実施するイベント。

「開工」は、オープンファクトリーをそのまま日本語にした「工場を開く」と、諸外国との交流の中から独自の文化を発展させてきた港町神戸の「開港」、“めぐり会うこと”を指す「邂逅（かいこう）」の３つの言葉が由来。普段は人を招き入れることのない仕事現場を公開し、様々な立場の来場者と交流することで、企業は自社製品や仕事に対する生の声や気づきを得ることができる。来場者にとっては地域産業のポテンシャルを体感できる場となる。

FUTURE

神戸市全域を会場に。

第 1 回目の開催となる 2023 年は、神戸市の中でも、古くからものづくり産業が盛んな長田区を中心にプロトタイプ版として小規模に開催。一方で、神戸のものづくり企業は長田区以外にも多数ある。市北部に位置する北区や西区には複数の工業団地があり、南部の海上に浮かぶポートアイランドや六甲アイアンドには多くの工場が集結している。2024 年以降は、市内各地への展開を視野に、地域産業全体の活性化・高付加価値化につなげていきたい。

●事務局連絡先
神戸市役所 経済観光局 経済政策課 都市型創造産業担当
〒 651-0087
神戸市中央区御幸通 6-1-12 三宮ビル東館
email sozosangyo@office.city.kobe.lg.jp

INNOVATION

企業・クリエイター・学生など多様なプレイヤーが立場を越えて活躍する場に。

オープンファクトリーの開催は、決してゴールではない。開催に向けて、企業・クリエイター・学生・支援機関など多種多様な人材が活動をともにすることで、自然とつながりが生まれてコミュニティができる。

企業とクリエイターが交流することで、型どおりに製造することを事業の主軸としていた企業が、自社製品を新たに販売し、製造卸や製造小売などに業態を多角化させたり、企業と学生が出会うことで、大企業しか知らなかった学生が、ものづくり中小企業の魅力を知って、就職先として志すきっかけになったり、オープンファクトリーの開催後も良い影響が見込める。

神戸は、明治時代から港を中心に発展し、造船、鉄鋼といった重工業にはじまり、機械金属、化学、エネルギー関連などの日本を代表する製造関連の企業が多数立地している。さらに、欧米の文化や産業が流入したことで、洋服・靴・洋家具・洋菓子・パン・コーヒー・真珠加工等の独自の地場産業も発展してきた。

新しいものを積極的に取り入れる受容性から、様々なイノベーションが生まれてきた神戸の地で、「開工神戸」が新たな共創や地域産業の付加価値向上につながるきっかけになることを期待している。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NAGAI NOBUAKI

長井 伸晃 氏

神戸市経済観光局経済政策課
都市型創造産業振興担当係長

関西学院大学卒業後、2007 年神戸市入庁。企画調整局 ICT 創造担当係長、同局つなぐ課特命係長などを経て現職。

これまでに Facebook Japan や Uber Eats、マクアケなど、17 社との事業連携を企画・運営。現職では、地域産業の付加価値向上やイノベーション創出に向けた事業を展開。

地方公務員アワード 2019 受賞。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

神戸市内企業 若手メンバー

開催初回のコンセプトメイク、企画の段階から関わっている神戸市内企業の若手たち。自社で工場見学を実施していた人や、ワークショップをしてみたいけれど方法が分からず躊躇していた人など業種や立場も様々。

坂井 文彦 氏
株式会社千代田精機
総務部 総務課 課長

中阪 薫 氏
株式会社神戸熔工

清水 美早 氏
LILY STUDIO

田中 翔 氏
田中ミシン機工株式会社
セールスエンジニア

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

KOBE OPEN FACTORY 運営事務局

江副 真文 氏
一般社団法人 SAZARE
代表理事

岩本 順平 氏
一般社団法人 DOR
代表

山下 和希 氏
株式会社
神戸デザインセンター
執行役員

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

伊福 元彦 氏
伊福精密株式会社
代表取締役社長

奥谷 智彦 氏
株式会社奥谷金網製作所
代表取締役社長

上達 弘明 氏
長田区役所まちづくり課
事業推進担当係長

中村 和裕 氏
神戸市経済観光局経済政策課
オープンイノベーション専門官

TRIGGER & STORY

誕生秘話

業種や立場を越えて、神戸の企業が協力しあい、魅力的なプロジェクトが日々生まれるようなコミュニティを作りたい。それがオープンファクトリー開催のきっかけだった。中小企業の経営者や、大手企業の開発部門、スタートアップ、支援機関がごちゃ混ぜになりながら切磋琢磨する環境が生まれるには、開催に向けて皆が協力して一致団結できるオープンファクトリーは最適のイベント。開催にあたって、主役となる企業をはじめ、事務局を務めるクリエイティブメンバー、スタッフとして携わる学生など、普段は関わることのない人々が参画し、自然と良好なコミュニティが生まれつつある。

TOPICS

はじめての開催

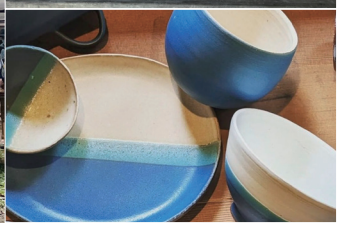
2023 年 3 月 4 日、「開工神戸」を初開催。2022 年 11 月よりミーティングが始まり、「開工神戸」のネーミングや、ロゴマークの色形を決めるところから、企業の経営者や若手メンバー、クリエイティブメンバーが意見を出し合った。各社の出展内容を考える前には、自社単独で工場見学を実施したことのある若手メンバーが率先して工場を案内し、「開工神戸」ではどのようなことができるかを議論。出展内容のイメージを膨らませるため、出展を希望する企業向けに事務局が個別相談会を開催するなど初開催に向けて準備に励んだ。

（写真）ミーティングや工場案内の様子

2021 年〜

兵庫県丹波篠山市

CRAFT VILLAGE



CORE VALUE

工芸を身近に感じる 5 日間
広がれクラフトの輪

- EVENT DATA -

開始年　：2021 年
開催回数：4 回
開催期間：5 月頃（春開催）10 〜 11 月（秋開催）
参加企業：32 社（2022 年秋）
来訪者数：約 1,200 人（2022 年秋）
主催　　：丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会

FEATURES

つくる人・物・場所にふれる場

市内には 850 年の歴史を誇り、60 の窯元がしのぎをけずる丹波焼の他、木工、ガラス、革、陶芸など数多くの工芸家が活躍している。他の地域のオープンファクトリーは「産地」の活性化を目的としていることに対して、丹波篠山には移住する工芸家も多く、「新しい産地」が生まれ始めていることが特徴。

CRAFT VILLAGE では、丹波篠山の作家たちが出店する「王地山クラフトマーケット」と普段は見ることのできない工房を見学できる「オープンスタジオ」が開催され、つくる人・物・場所にふれる場となっている。

ものづくりをする工芸家が心地よく手仕事に携わることができるよう、また、工芸について地域の人々が理解する、そんな地域を目指していきたい。

FUTURE

工芸品を中心とした好循環を目指して

初回開催は、2021 年秋。2022 年は季節の良い春・秋の 2 回開催を目指し、企画・開催してきた。

丹波篠山は移住者が多い町、すなわち多様な能力を持った人材の宝庫である。そうした多様な人材が集まる CRAFT VILLAGE は、今後さらなる多様な発展が期待される。

工芸品を使用する人が増え、工芸家同士も繋がり、ものづくりにとって良い里となっていく。そしてまた作り手が増えていく、そんな好循環を目指していきたい。

INNOVATION

試行的ガイドツアーから見いだす将来性と連鎖する拡張性

今回の CRAFT VILLAGE に併せて、様々な関係者をアテンドするツアーを、実行委員であり通訳案内士の田川氏の案内で開催した。

有識者、議会関係者、その他、外国人留学生など様々な視点からツアーを実施したところ、参加した方々にリアルを体感いただき、CRAFT VILLAGE を応援する意義を共有出来た。

またこの共有は訪れた事業者の方のお話から得られる刺激ももちろんであるが、参加者同士が移動途中の行程で「ここが良かった」「ここはこう思った」など意見を交わす時間があり、その互いの発見同士を共有することでより理解が深まることとなった。これらは、本気で CRAFT VILLAGE を楽しむ「ファン」が増える効果に繋がったと考えられる。

さらに、今回の取組に当たって市民の方々に大きな刺激を与えたことも印象的。自分たちが住む町への新しい気づきが生まれるなどシビックプライドが形成される効果を生み出した。

工芸家同士の交流にもつながり、創作意欲をかき立てるものともなっている。「互いを知るため」と小さく始まった取組は、まだまだ大きく進化する。

●事務局連絡先

丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会

公式サイト　https://ts-craftvillage.com/
（2023 年 4 月中旬公開）
公式 Instagram　@ ts_craft.village

TS_CRAFT.VILLAGE

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KAKO KATUMI
加古 勝己 氏
丹波陶磁の陶芸家
丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会 代表

京都市出身の丹波陶磁の陶芸家。
京都・西脇・丹波篠山と活躍の場を移しながら数々の作品を生み出す一方、山の楽しさなど地域の魅力発信に尽力するキーパーソン。移住者が増えるまちで、ゆるやかなネットワークを求める声を「CRAFT VLLAGE」という形で実現した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

中西 一矢 氏
SANROKU

田川 剛 氏
通訳案内士

竹内 保史 氏
王地山陶器所

仙林 寛実 氏
地元大好き丹波篠山っ子

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

林 健二 氏
一般社団法人 TSUMUGI 代表理事

仙林 寛実 氏
地元大好き丹波篠山っ子

TRIGGER & STORY

誕生秘話

丹波篠山市では、丹波焼に代表される工芸や建築、農林業、祭礼など地域固有の文化や生活文化が持つ「創造性」に加えて、京阪神からの利便性や自然豊かな生活環境もあり、近年移住して工房を構える方々が目立つようになった。そうした中、訪れる観光客との交わりだけでなく、移住工芸家同士の交流、地域の人々との交流の必要性が高まっていった。

地域の人々に、どんな人が近所でものづくりをしているのかを知ってもらうとともに、現場の空気感や使い古された道具などを見てもらい、ものづくりの深さやおもしろさを知ってもらいたい。また、工房で作業する作家にも、自分の工房で販売する強みを理解してもらいたい。そんな思いがあり、「作り手」と「使い手」の思いが伝わるイベントとして 2021 年秋に「丹波篠山クラフトヴィレッジ」が企画・開催されることとなった。

TOPICS

コラボレーション商品「ワークエプロン」の製作

2022 年春、クラフトヴィレッジ製作委員会と 4 名の作家によるコラボレーション商品「ワークエプロン」の製作企画がスタートした。4 名の作家である agarito(デザイン・縫製担当)、居七十七（ボタン製作担当）、けせら工房（染色担当）、handmade shoes Nelio(レザーパーツ製作担当) の、それぞれの技術・強みを活かしたワークエプロンである。同年秋に完成し、10 月に開催された王地山クラフトマーケットにて 10 着限定で販売された。

（写真）開催の様子

2021 年〜

奈良県大和高田市、広陵町、葛城市、上牧町、香芝市、田原本町

SG ストリート NARA

CORE VALUE

ものづくりの新たな価値を創造する アトツギ達の一大フェスティバル

- EVENT DATA -

開始年　：2021 年
開催回数：1 回（2021 年）
開催期間：6 月頃
参加企業：21 社（2021 年）
来訪者数：40 人（2021 年）
主催　　：（一社）サスティナブルジェネレーション

FEATURES

地域に関わる人たちとつくりあげる進化形オープンファクトリー

奈良県内の幾多の場所で数多の人々の魂が込められて、ひとつの製品が生み出されている。奈良のそんなものづくりを、つくり手自らが伝える場が、奈良初のオープンファクトリー「SG（サスティナブル・ジェネレーション）ストリート NARA」である。その特徴は、単なる「工場見学」ではなく、つくり手たちの“経験”と“誇り”が詰まった魂の声を、奈良県の学生たちが若さならではの好奇心で映像化する点である。それを地域住民を含むステークホルダー、社員とその家族たち、異業種のつくり手たちと共有していく、進化形オープンファクトリーである。

FUTURE

強みを編み込むことで生まれるイノベーション

参画企業の多い大和高田市や広陵町には「靴下」の製造ブランド企業が多く所在し、近年その知名度は全国に広がっている。また近隣の大企業やスポーツチームとの交流を持つ機関・企業など、それぞれが保有する技術・チャネルの強みを掛け合わせ、訪れる人々の数だけに注目するのではなく、参画企業同士を繋げ、編み込むことで生まれるイノベーション創出を期待し、次回開催に向けて準備を進めている。

INNOVATION

業種を超えた企業が繋がり、新しい価値観に出会える場

SG ストリート NARA の活動のベースは、SG NARA のコアな取組である「ツキイチ SG」である。「ツキイチ SG」は月 1 回、SG NARA 発起人企業が用意する場であり、発起人と参加者 15 〜 30 人程度で実施する、2020 年度にスタートした小規模対話会である。

SG NARA には製造業・金融業・サービス業等様々な業種が集まり、ひとりでは思いつかないことや新しい価値観に出会えるきっかけの場になっている。

バックグラウンドも業種も異なる色々な人が、色々な角度から自分の考え方や想いに対して、意見を述べてくれる。時には悩み事も自由に話し合える場である。

例えばコロナ第一波時に、メンバーが受託した医療用ガウン 10 万枚の生産を、縫製業界関連メンバー 4 社が協力して納品した事例がある。

また、金融機関勤務のメンバーが、家族の起業にあたってツキイチ S G で相談したところ、何人ものメンバーから、マーケティングや資産調達等の実務のアドバイスや、起業の考え方、心の持ち方まで、様々な角度からの親身な助言を受け、新たなスタートをきることができた事例などがある。

コロナ禍等の影響を受け、2022 年秋頃まで活動を一時停止してきたが、関西のオープンファクトリー関係者が集まり、討論を繰り広げる会合への参加を機に、本格再開に向け再始動している。

●事務局連絡先
SG NARA 事務局
〒635-0834
住所　奈良県北葛城郡広陵町大塚 507（株式会社アクラム内）
E-mail　info@sg-nara.org

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KATSUYA KIMIHIKO

勝谷 仁彦 氏

株式会社アクラム 代表取締役
SG NARA 代表発起人

東京都出身、奈良県育ち。大学卒業後、会計事務所にて 10 年間のコンサルタント業務に従事した後、2010 年、家業、株式会社アクラムを継承。2012 年代表取締役に就任。ファクトリーチームウェアブランド「スクアドラ」を立ち上げ、チームのチカラを発揮させる社会の実現を目指しながら全国展開する。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

SG NARA 発起人

『SG NARA』は、Sustainable Generation（持続可能な世代交代）で成長を図ることを究極の目的に、奈良で生きる経営者そして経営者でない人も含め「変わりたい」「何とかしたい」という「思い」「意思」を持つ全ての人のつながりの場を作っていくプロジェクト。

吉田 佳代 氏
梅乃宿酒造株式会社
代表取締役社長

南島 忠男 氏
株式会社ミナミシマ自動車販売
代表取締役社長

高木 美香 氏
株式会社高木包装
代表取締役社長

谷 英希 氏
株式会社ヴァレイ
代表取締役社長

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

ディレクター
村松 葉子 氏
有限会社ゲイル
代表取締役

オープンファクトリー発案者
秋本 大輔 氏
株式会社新田
工場長

企画・運営
中﨑氏・水上氏
SG NARA 事務局

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

小杉 一人 氏
広陵高田ビジネスサポートセンター KoCo-Biz（ココビズ）
センター長

文化服装学院デザイン専攻科卒業後、イタリアプラダグループなどで営業・販促を担当。その後、LVMH（モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン）グループにて取締役を務め、2019 度までソニアリキエルジャポン株式会社の代表取締役を務める。約 23 年間にわたって世界的企業で事業の創業や再生に携わった経験を生かし、ブランドや物事の本質を常に見ながら、地域のものづくり企業が、新しい時代の事業を隆盛するためのサポートを献身的に行っている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

ツキイチ SG の参加者が、コロナ禍でも地元の結びつきを広げるマルシェを実施したことについて情報共有があったことがきっかけである。そして互いの経験を共有する価値は、企業人だけでなく、地域にも知ってもらいたいとの考えから、他地域でも潮流が生まれつつあったオープンファクトリーについての提案が生まれ、具体的な実施に向けて検討がスタート。取引先に対する工場見学ではなく、これまで関わりのなかった業界・市場、そして消費者との接点を持つことで地域に新たな刺激をもたらすことを期待し、市町村はもちろん、地域金融機関ともタッグを組んで進められた。

開催のタイミングは当初 2021 年 3 月を予定していたが、緊急事態宣言発出に伴い延期となり、6 月開催となるなど初回から多くの苦労も経験したが、生まれた時間で地域近隣大学との連携を進めるなど、進化に繋げる対応力は SG NARA が培った交流力の賜物と言える。

TOPICS

こたつ会議内マルシェへの出展

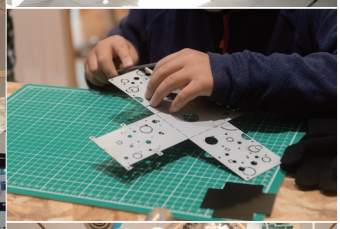
梅田のグランフロントナレッジキャピタルにて定期的に開催されている「こたつ会議」。その名のとおり、こたつを囲みながら、公開討論を繰り広げる場である。2022 年 10 月に開催された「こたつ会議」では、マルシェも開催され、関西のオープンファクトリー SG NARA、RENEW、DESIGN WEEK KYOTO、FactorISM から 30 社を超える企業が出展。SG NARA のメンバーからは 7 社出展し、ワークショップや実演を行った。

（写真）月イチ SG・参加企業等

2022 年〜

和歌山県和歌山市、海南市、橋本市、紀の川市

和歌山ものづくり文化祭



CORE VALUE

ものづくりの未来を創る、体験と学び

- EVENT DATA -

開始年　：2022 年
開催回数：1 回
開催期間：11 月
参加企業：20 社・事業者
来訪者数：延べ約 5,800 人（2022 年）
主催　　：和歌山オープンファクトリー推進委員会

FEATURES

ものづくり企業がつくる、体験参加型イベント

和歌山ものづくり文化祭は、「ものづくりの未来を創る、体験と学び」をテーマに、和歌山県北部の伝統産業等をはじめとする製造業が一堂に和歌山城ホールに集い、各社の技術をその場で体験し楽しめる、和歌山で初めての「ものづくり企業がつくる、体験参加型イベント」である。

体験型ワークショップや製作実演等全 16 ブース、うち 1 ブースは、和歌山大学ソーラーカープロジェクトであった。会場内には、参加事業者が提供する端材を使った巨大なアートオブジェも飾られた。

FUTURE

2023 年以降の持続的な運営を見据えて

2023 年以降も継続して取り組んでいきたいと考えているが、継続という観点では、勢いのあった初年度と同じものは作れないと考えている。様々な企業や機関に協力・支援してもらうとともに、出展者の善意で賄った部分も多くある。

運営面でも、行政を巻き込みながら事務局を設置するなど、体制を整えていく必要がある。イベント終了直後に行政と打合せを実施したが、行政支援が入った時に、「ものづくり企業が主体である」という形をとり続けられるのか等課題もあり、どのような体制で開催に向けて動いていくか、今後の検討事項である。

●事務局連絡先

和歌山ものづくり文化祭 事務局

〒 641-0007
和歌山県和歌山市小雑賀 2 丁目 2 番 31 号 菊井鋏製作所内
TEL 080-5331-4495（菊井）

INNOVATION

初回開催に向けた他地域や学生との連携

和歌山ものづくり文化祭では、初回開催に向け、様々な「連携」を推進してきた。

まず、他地域との連携がある。企画立ち上げとなる 2022 年 2 月に、泉州オープンファクトリーの仕掛け人である延生氏や南海電気鉄道（株）の協力を得て、運営メンバーや支援機関に向けた説明を行った。延生氏から「オープンファクトリーの意義・素晴らしさ」について話してもらうことで、趣旨・意義・狙い等スムーズな理解につなげることができた。出展企業が決定した 8 月頃には、DESIGN WEEK KYOTO の仕掛け人である北林氏を橋本市内の会社に招き勉強会を開催。さらに、文化祭直前の 11 月 3 日には千年未来工藝祭の仕掛け人である内田氏や参加企業を招き、近畿経済産業局の協力を得て「関西オープンファクトリーフォーラム」を開催した。初開催への準備のなかで、先行して取り組む他地域と積極的に連携・交流することで、出展企業や関係者の気運を高めた。

また、2022 年開催時には、同日開催とした黒江るるとスタンプラリー企画等で連携したが、今後もさらに工夫しながら連携の方法を検討していきたいと考えている。

もう一つ、学生との連携がある。和歌山ものづくり文化祭では、和歌山県の移住定住推進課が有するプラットフォームを活用して、学生ボランティアを募集した。「イベント全体の募集」ではなく「ブースごとの手伝い」という形で募集した点がポイントであった。学生にとっては、興味のある企業・分野に応募することで、学びを得るとともに、仕事内容を知ることができる。事業者にとっては、採用に向けた PR の機会とすることができる。

将来的には、近くに存在しながらも、きっかけがなく交流のなかった事業者同士が、和歌山ものづくり文化祭を通して生まれた繋がりをもとに、本業でも繋がっていくことを期待している。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KIKUI KENICHI

菊井 健一 氏

有限会社菊井鋏製作所　代表取締役
和歌山ものづくり文化祭
実行委員長（全体統括）

大学卒業後すぐ、祖父の代から続く有限会社菊井鋏製作所に入社し、ハサミづくりの基礎から学ぶ。2016 年、28 歳で 3 代目として事業承継を行なう。他地域のオープンファクトリーイベントに触発され、地元和歌山市での開催を志し、実行委員会を立ち上げる。実行委員長として、2022 年 11 月に「和歌山ものづくり文化祭」の開催に尽力。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
山家 優一 氏
株式会社やまが　代表
「黒江るるる」 実行委員長

運営ディレクション
辻岡 大樹　氏
合同会社 WAKAYAMA WOODYS 代表

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

行政の立場から出展企業のフォロー・
当日の本部運営 / サポート

吉田 圭吾 氏
和歌山県庁　企業振興課

各種広報物や会場の
デザイン / 制作・監修

大裕 神 氏
株式会社ハクシャ

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

きのくに信用金庫
地域支援部

- 蔦屋書店、和歌山市民図書館店でのポップアップストアの企画提案・協力
- デジタルサイネージ広告の掲出
- 当日の本部運営スタッフ支援　他

南海電気鉄道株式会社
まち共創本部

- 南海和歌山市駅直結の複合施設「キーノ和歌山」のクーポン券の発行
- 南海線駅構内やグループ会社、和歌山バスでの告知物掲示　他

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である菊井氏は、2021 年に開催された日本工芸産地博覧会（大阪府内万博記念公園にて開催）に出展。その時、各地のキーパーソンが参加しており、「和歌山でも産地を盛り上げていかなければいけない」と強く感じたことが大きなきっかけである。今、産地のイベントをできているかどうかで 2025 年以降の様相は変わってくる、そんな危機感を持った。

同博覧会への参加は、ものづくりの価値を再考するきっかけにもなった。ものづくりの場面のどこを切り取り、どうしたらワークショップ参加者に喜んでもらえるか等様々な学びがあった。そうして学び、吸収したものを、和歌山でも取り組みたいと考え、第 1 回開催に向けた活動がスタートした。

TOPICS

収集データから次年度の集客・企画へ

和歌山ものづくり文化祭では、入場口に設置した人流測定カメラで人流の計測するとともに、全てのブースで同じ端末、同じキャッシュレス決済方法を採用した。開催期間中の総売上額全体の約 1/3 がキャッシュレス決済による売上であった。こうして得られた人流の計測データやキャッシュレス決済の売上データは、次年度の事業の中で、和歌山大学に分析を依頼する予定である。分析結果をフィードバックしてもらい、集客や企画へ活用していく予定だ。

（写真）会場・ワークショップ体験の様子

2020 年〜

和歌山県海南市

黒江るるる

CORE VALUE

あるく*・みる*・つくる*
ものづくりの楽しさを体感！

- EVENT DATA -

開始年　：2020 年
開催回数：3 回
開催期間：11 月頃
参加企業：7 社
来訪者数：約 162 人（2022 年）
主催　　：黒江あるく・みる・つくる実行委員会

FEATURES

多様なものづくり体験やまち歩き提供の場

3 回目となる 2022 年開催では、たわし作り、手鏡蒔絵体験、べっこうあめ作り、木工スプーン作り、竹あかり作り、こぶな草染体験、提灯絵描き体験の、7 つのワークショップが開催された。また、コロナ禍で開催中止となっていた「紀州漆器まつり」が再開し、同日開催となり、多くの人が訪れた。

黒江るるるが開催される海南市黒江は、迷路のような家並みと職人の技が光る建物が今も残る町。町歩きも楽しめるようにと、謎を解きながら地域内をめぐるゲーム「るるる謎」も企画・開催されている。

FUTURE

他イベントとのタイアップで地域に賑わいを

2022 年はコロナ禍で開催中止となっていた「紀州漆器まつり」が再開。同日開催となり多くの人が訪れた。「紀州漆器まつり」は今年で 34 回目の開催であり、コロナ禍で中止となる中、再開を待ち望んでいたファンも多い。紀州漆器まつりは販売会などを通じた漆器そのものを提供、黒江るるるは黒江のまち歩きやものづくりの体験を提供することで、互いに相乗効果を狙っていきたい。

また 2022 年開始の「和歌山ものづくり文化祭」も同日開催であり、会場からバス 1 本でアクセス可能である。同イベントともタイアップしながら地域全体を盛り上げていきたい。

●事務局連絡先
山家漆器店
〒 642-0012　和歌山県海南市岡田 223
E-mail　yamagakinan@gmail.com

INNOVATION

刺激と触発を連鎖させるイノベーティブな地域

イベント開催をきっかけに、漆器産業と同様に和歌山の重要な伝統産業「棕櫚たわし」、隣町紀美野町で活躍する手漉き和紙、木製国産タンブリンのトップシェア企業、木製打楽器カホンなど、業界を超えた新しい繋がりができたことが、1 つの大きな効果である。

加えて、企業同士、また住民が企業について知ることができ、ローカルインナーブランディング形成に大きく寄与したことは、地域にとっては大きなイノベーションであった。実際、参加企業が知らなかった事業者等もあり、黒江の町の魅力再発見に、大いに期待できる取り組みである。

また日頃行っているものづくりについても、お客様に喜んでいただける大きなコンテンツの一つであるということを知るきっかけとなった。「こんなもので喜んでくれるのか?」といった疑念から、自分たちの技をもっと知って欲しいという意欲につながっている。

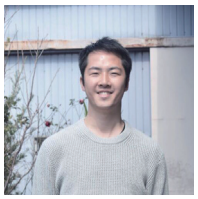
2021 年の「黒江るるる」の実施に際して活用した「クラウドファンディング」は、地域に新たな学びを与えた。クラウドファンディング実施後、古民家を修繕、保全に取組み、コミュニティスペースを作るために、クラウドファンディングに取り組むメンバーが生まれている。

業種を超えて、互いに「あるく・みる・つくる」を共有し、様々なチャレンジをすることで刺激と触発を連鎖させ、イノベーティブな地域へと着実に進化を遂げている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



YAMAGA YUICHI

山家 優一 氏

山家漆器店　営業

株式会社やまが　代表取締役

黒江るるる　代表

日本四大漆器の１つである紀州漆器を中心に工芸品を取り扱う山家漆器店の三代目。紀州漆器の新たな可能性を模索するインテリア製品ブランド「KISHU ＋」の運営にも参加しており、「海外に紀州漆器の販路を拓こう」を合い言葉に地域のリブランディングに取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

発起人

池原 弘貴 氏

池庄漆器店　五代目店主

創業明治９年の漆器問屋で店舗は築 220 年の国の登録有形文化財に指定されている。7 年間町づくり団体 " 黒江の町並みを活かした景観づくり協定（通称：黒江 japan）" で代表を務め、地元住民とサポーターを巻き込みながら古民家や景観を活かした様々なイベント企画や活性化に尽力。

黒江ぬりもの館　代表

瀬戸山 江理　氏

まちづくり会社 株式会社楽善舎 代表

古民家カフェ黒江ぬりもの館 店主

和歌山市から海南市黒江に移住。海南市地域おこし協力隊（2018 年 10 月 - 2021 年 9 月）広報担当。仲間たちとともに『黒江』の魅力を発信すべく『黒江めった祭り』『こみちあるき』等の地域イベントを手がける。地域にある遊休不動産を活用したコミュニティスペース『黒江 tettote ～旧岩崎邸』を創造中。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

黒江 japan

黒江の町並みを活かした景観づくり協定（通称「黒江 japan」）は、2011 年に和歌山県景観条例知事認定第 1 号として認定された。紀州漆器で栄えた黒江の町並みを守り、育て、次世代に引き継いでいくことを目的に、空家の有効活用・町並み保全・地元住民を巻き込んだ様々なイベント開催など、地域に根付いた活動をしている。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

協賛パートナー

池庄漆器店、黒江ぬりもの館、ケアチーム大河、株式会社小久保工業所、株式会社サンコー、株式会社仕事旅行社、タカラ製菓株式会社、東京医療保健大学ボランティアサークル Leverage:)、有限会社なかにし、早川工業株式会社、有限会社原見段ボール、古田組、株式会社星田建設、株式会社やまが

後援パートナー

近畿経済産業局、海南商工会議所、海南市教育委員会、海南市観光協会、和歌山県、海南市

コラボレーションパートナー

和歌山ものづくり文化祭

TRIGGER & STORY

誕生秘話

これまで 31 年間続けられてきた黒江地区で開催される大型イベント「紀州漆器まつり」が新型コロナ禍により中止に。これは漆器業者だけでなく、周辺飲食店においても深刻なダメージを経済・精神面共に与えることとなった。そのため、漆器業界やまちづくりに関わるメンバーが「出来ること」を考えたいと「黒江あるく・みる・つくるプロジェクト」を企画。参加者を限定する予約型ワークショップの形とすることで、感染リスクを抑えながらも、黒江の魅力を知ってもらう取組として企画されたのが始まりである。資金もクラウドファンディングで集め、目標金額を達成。

TOPICS

和歌山ものづくり文化祭とのスタンプラリー企画

同日開催された「和歌山ものづくり文化祭」はコラボレーションパートナーである。同イベントとタイアップして、スタンプラリーを開催。両方のイベントに参加し、スタンプを入手した人には、和歌山市駅直結の商業施設キーノで使えるクーポン券をプレゼントすることで、両方のイベントを楽しんでもらう工夫を行った。

（写真）イベント・ワークショップ体験の様子

2018 年～

岡山県津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町

つやまエリアオープンファクトリー

つやまエリア
オープン
ファクトリー

CORE VALUE

工場・会社の魅力を発見！！

- EVENT DATA -

開始年　：　2018 年
開催回数：　3 回
開催期間：　例年 7 月中・下旬 / 2 日間
参加企業：　33 社（2022 年）
来訪者数：　1,149 人（2022 年）
主催　　：　つやま産業支援センター

FEATURES

地域の子どもたち向けプログラム

人材確保に苦慮している状況が続く中、地域の子どもたちに地元の中小企業（製造業）を知ってもらうことで、将来の地元就職につなげることを目的に、つやま産業支援センターと岡山県美作県民局が企画・開催。2018 年の初開催では合計 45 社・47 ヵ所の工場等を公開。モノづくり体験＋工場見学、市教育委員会と連携したバスツアー、金属加工企業体によるモノづくり企画ツアー、スタンプラリー、ノベルティグッズ等、充実したプログラムを開催した。

FUTURE

参画企業の多様化でさらに魅力あるイベントに

今後も小学生とそのお父さんやお母さんをメインターゲットとして開催し、親御さんも含めて地元企業の取組や魅力を知ってもらうことで、将来の就業につなげたい。2022 年はコロナ禍での開催であったため、規模を縮小しての開催となったが、開催できたことは非常に意義があると感じている。来年の開催時には、さらに参加者を増やしていきたい。そのため、これまで主に参画されてきた製造業の企業に加えて、サービス業、農業、林業等他の業種の事業者にも参画いただきたいと考えている。

受賞アワード

2020 年　第 9 回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード 2020）一般財団法人日本立地センター理事長賞　受賞

INNOVATION

企業間連携と職場環境の改善

つやまエリアオープンファクトリーの体験プログラムの 1 つに、3 企業がコラボレーションする体験プログラムを企画した。1 つ目の企業で素材をつくり、2 つ目の企業で加工し、3 つ目の企業で仕上げをする形で、企業同士が連携した体験プログラムである。元々高いステンレス加工技術により共同受注している企業グループがあり、どの会社にどのような技術・機械があるというのをお互い知っている。そうした背景もあり、このような画期的な体験プログラムの開催が実現した。

個々の企業の動きでは、参画企業の内、それまで外部との交流がなかった企業が、オープンファクトリーをきっかけに、外部交流への参加を従業員に積極的に促すというような変化も生まれている。

また、夏場に開催するため、工場を訪れた小学生が汗びっしょりになっている姿を見た経営者が、「子どもたちに快適な環境で見学して欲しい」と工場内の環境改善を痛感。翌年度には空調設備を導入するなど、職場環境の改善にも役立っている。

●事務局連絡先

つやま産業支援センター（津山市みらい産業課）

〒 708-0004
岡山県津山市山北 663 津山市役所東庁舎 1 階
TEL 0868-24-0740

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NUMA YASUHIRO

沼　泰弘 氏

津山市産業経済部 みらい産業課 課長
つやま産業支援センター 事務局長

津山工業高等専門学校卒業後、IT 企業を経て 1996 年津山市役所に入庁。商工観光課、企業立地課、産業政策課など経て、2014 年に新産業創出課でつやま産業支援センターの設立に尽力。多年に渡り地域産業の振興、地方創生に関わる業務に邁進。

私自身を振り返ると、津山高専在学時も津山市の企業についてはほとんど知らないまま過ごし、同級生の 9 割は都市圏に就職しました。IT 企業から転職する際にも、企業情報がわからず民間企業ではなく公務員を選びました。だから、若い人たちが津山を出ていく、津山に根づかない、津山に戻ってこない、という事情もわかるのです。
自分の経験も踏まえ、人財育成の第一歩は地元の産業を知り、興味を持つことだと思い「つやまエリアオープンファクトリー」を企画しました。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

津山市副市長
乗村 功士 氏

岡山県美作県民局の課長職であった当時、沼氏とともにつやまエリアオープンファクトリーの企画構想を検討。圏域での開催を主導し、関係者への説明・調整、予算獲得にも尽力した。

つやまエリアオープンファクトリー主催
つやま産業支援センター

つやま産業支援センターは 2015 年設立。地域企業のチャレンジを応援し、魅力的な雇用の創出、地域経済の活性化を目的に活動。企業との密接なネットワークを基に、つやまエリアオープンファクトリーへの参加企業を集めている。

つやまエリアオープンファクトリー共催
岡山県美作県民局

高校生を対象としたバスツアーを共同企画。津山市・真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町及び美咲町を所管しており、つやまエリアオープンファクトリーの開催をサポートしている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

株式会社 RELATION

市内ＩＴ企業。つやまエリアオープンファクトリー HP 製作担当。市内ＩＴ企業グループ「つやまＩＣＴコネクト」、市内クリエイター連携グループ「津山クリエイティブ人材ネットワーク（Ｃ‘ｓｎｅｔ）」会員。WEB による参加企業・参加者申込やリアルタイムでのイベント情報発信を実現。

kosael

市内のデザイナー。市内クリエイター連携グループ「津山クリエイティブ人材ネットワーク（Ｃ‘ｓｎｅｔ）」会員。2018 年のつやまエリアオープンファクトリースタート時に行ったデザイン公募でデザイン案が採用され、以降デザインを担当。

中鉄北部バス

津山を中心に市内巡回バス、路線バスを運行している。つやまエリアオープンファクトリー開催日は参加者が無料で路線バスを利用できる。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

津山ステンレスネット

ステンレス加工技術と最先端のロボット技術により、設計からメンテナンスまで一貫対応できる地域企業 11 社による連携グループ。
オープンファクトリーバスツアーに携わる。

バスツアー

津山ステンレスネット会員企業複数社をバスで回り、1 つの製品を完成させるバスツアー。

TRIGGER & STORY
誕生秘話

地域には製造業が多いにも関わらず、少子化の影響により、若い人材が不足していることが課題の認識にあった。地域の特に若年層に地元企業の存在・魅力を知ってもらい、就職時の選択肢の中に地元企業が入るきっかけとなるべく、津山市職員の沼氏がオープンファクトリーを企画した。初回開催にあたっては、ネットワークのあった企業を 1 社 1 社直接訪問し、趣旨やその想いを語り参加を呼びかけた。その結果、初年度でありながら、合計 45 社から賛同を得て開催することができた。

TOPICS
「Youtuber セミナー」企画とのコラボ

子ども向けリカレント教育を「津山まちなかカレッジ」で行っている。その取組の一環で 2019 年開催時には、子どもたち自身が youtuber になる「Youtuber セミナー」の企画を行った。オープンファクトリーに参加し工場を見てもらい、撮影した動画で YouTube 動画を制作するものである。今の子どもたちは YouTube が身近なので、当日参加できなかった子どもたちにもアーカイブの形で内容を届けることができる。動画を撮影した子どもたちにとっては、印象深い経験になったはずである。2020 年以降は実施できていないが、次回開催時には、また企画検討していきたい。

（写真）工場見学、製作体験ワークショップの様子

2019 年〜

広島県府中市、福山市

瀬戸内ファクトリービュー

CORE VALUE

山海にとけこむ、産地に触れる。

- EVENT DATA -

開始年　：2019 年
開催回数：1 回（2019 年）
開催期間：11 月（2019 年実績）
参加企業：17 社（2019 年）
来訪者数：延べ 2,000 人弱（2019 年実績）
主催　　：SETOUCHI FACTORY VIEW 実行委員会

FEATURES

多様で特色あるものづくり現場の見学・体験

広島県南東部の備後地方にある府中市と福山市で開催するオープンファクトリーイベント。地元産業の 1 つである木工・家具を中心に繊維や鉄鋼、味噌なども含め、多様で特色あるものづくりの現場を見学、体験することができる。

2020・2021 年はコロナ禍で全体での開催は中止となったが、一部の参加企業が手を挙げ、マルシェや工場見学、オンライン配信などを実施。2022 年も全体でのイベントは実施は行わなかった。

FUTURE

「瀬戸内ファクトリービュー」名義でのコンテンツ拡大へ

活動の主体が NPO 法人であるため、運営に割ける人員は限られる。そのためイベントの規模を大きくするには限界がある。こうした事情もあり、オンライン配信等を取り入れていった。ただ、コロナ禍においてオンライン開催のオープンファクトリーも全国に広がってきており、ただオンラインというだけでは特色が出ない。大学のインターンプロジェクトと絡める等他にはない強みを活かしながら、様々な媒体に「瀬戸内ファクトリービュー」の名義でコンテンツを今後広げていくことを検討している。

INNOVATION

開催をきっかけとする活動・取組の発展

2019 年に実施した第一回 SFV（瀬戸内ファクトリービュー）を通して参画企業間の連携が強まり、共同で製品開発を実施した事例も出てきている。錨の製造をしている鉄鋼企業が家具メーカーとコラボレーションし、家具の部品製造に参入に至ったケースである。以前も実験的にはコラボレーションに取り組んだが、本イベントの活動を通じて、互いの事業について認識を深めるとともに信頼関係が構築され、実現に至った。

2021 年には、広島県福山市主催による「びんごデジタルラボ」に、SFV（瀬戸内ファクトリービュー）実行委員会もメンバーとして参加した。オンライン技術を使った工場見学がソフトバンクグループの「せとうち Tech LAB」から声がかかり、実施に至った。

コロナ禍で全体開催ができなかった時期にも、オンライン配信等で IT やデジタルテック を活用しながら活動を続けてきた。参画企業の中には、これまで職人の経験と技で製造していた分野に、IT を上手く活用し製品開発に取り組む企業もあり、参加企業同士で意見交換しながら、未来のものづくりの在り方も模索している。

その他の動きとしては、観光ツアーの企画会社と製造企業とのつながりが強化されたことにより、オープンファクトリーを観光と絡めていくべく、参加企業数社が活発に取り組んでいる。

●事務局連絡先
SETOUCHI FACTORY VIEW 実行委員会
〒 726-0005
広島県府中市府中町 754-2
https://fuchu-antenna.jp/

SETOUCHI FACTORY RADIO 山と海と工場 BINGO : JAPAN

瀬戸内ファクトリーレイディオ

地方の産地に残る技と知恵をアーカイブ化するインターネットラジオ「瀬戸内ファクトリーレイディオ」を配信中

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KOTANI NAOMASA

小谷 直正 氏

NPO 法人府中ノアンテナ 副理事長

NPO 法人府中ノアンテナ副理事長

広島県府中市出身。東京にあるメーカーに就職後、U ターンして地元府中市で、行政機関や地元プレイヤーとともに、公園づくりの実証実験、子育て支援、移住促進事業の企画・運営などを担当。ものづくりの家系で生まれ育った背景から、地域の魅力として地元のものづくりを発信できないかと日頃から考えている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

若葉家具株式会社 社長

井上 隆雄 氏

若葉家具株式会社（1947 年創業）3 代目。広島県府中市にて家具を製造。箪笥造りから始まり、デザイナー家具・オリジナル家具・オーダー家具・家具調仏壇などの製造・販売を行う。

株式会社心石工芸 代表取締役社長

心石 拓男 氏

株式会社心石工芸（1969 年創業）2 代目。福山市柳津町の自社工場でソファの製造・販売・卸、張替修理を行う。

伝統工芸株式会社 代表取締役

服巻 年彦 氏

2014 年、伝統工芸株式会社 (1983 年創業) 代表取締役就任。オリジナル木製家具・木製フレーム（額縁）の製造 / 卸販売を行う。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

総務担当

安田 剛 氏

NPO 法人府中ノアンテナ

配信担当

中西 充彦 氏

NPO 法人府中ノアンテナ

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

株式会社タテイシ広美社 会長

立石 克昭 氏

瀬戸内ファクトリービュー 実行委員長
広島県中小企業家同友会 代表理事
府中市立府中明郷学園 学校運営協議会会長

1977 年創業、屋内外サイン・電光掲示板の企画・設計・制作・施工・メンテナンスを行う。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

展示会やイベントなどで府中市および備後圏域の方々と関わる中で、仕掛け人である小谷氏は、府中市の企業が一般向けの発信に弱いところがあるという点を感じていた。そこで、職人の技術継承と地域活性化の好事例として挙がっていた福井県鯖江市の『RENEW』を訪問。現場の規模感や景色など、自分たちの地域に通じるものもあり、大きな影響を受けた。一方で、府中市には木工業者が多いが外部との交流が少なく、メーカー間のコラボ等の連携もなかった。そうした中、横の連携を深める方法を、若葉家具の井上社長をはじめとした府中家具組合の青年部が模索していた。そんな時、NPO 府中ノアンテナと府中家具組合の中心メンバーが話す機会があり、2 団体の意見が一致。会議を重ね、「瀬戸内ファクトリービュー」の開催を決定するに至った。

TOPICS

瀬戸内ファクトリービュー RELAY ！

2020 年、コロナ禍で全体開催が難しい中、地域の伝統産業である木工事業者と味噌事業者の 5 社が手を挙げ、「リレー（RELAY）」の形で、月替わりで工場見学やワークショップを行う「瀬戸内ファクトリービュー RELAY !」を開催した。コロナ禍の社会情勢下においては、オンラインでの情報発信の重要度が増していたものの、参加企業内でも温度差があった。そのため、参加企業がこのリレーイベントでオンライン配信にチャレンジすること自体が大きな目的でもあった。最初に配信した DENTO（伝統工芸株式会社）のオンラインイベントにも、次の順番の松葉製作所さんに来てもらい、開催の様子を見ながら学ぶ場としても機能していた。

（写真）工場見学、ワークショップ、瀬戸内ファクトリービュー RELAY ！の様子

2019 年〜

愛媛県新居浜市、西条市、四国中央市

えひめさんさん物語

CORE VALUE

三都を巡る、きらめくモノ・コトさがし

- EVENT DATA -

開始年　：2019 年
開催回数：1 回
開催期間：2019 年 4 月 20 日〜 11 月 24 日
参加企業：第 1 話　ものづくり物語
　3 社（工場のおしばい）
　13 社（アーティスト in ファクトリー）
　18 社（オープンファクトリー）
来訪者数：延べ 80 万 8,093 人（2019 年）
　※オープンファクトリー以外も含めたイベント全体での人数
主催　：東予東部圏域振興イベント実行委員会

FEATURES

東予東部圏域のものづくりの現場を体感

「えひめさんさん物語」は、愛媛県の東予地域の東部に位置する「新居浜市」、「西条市」、「四国中央市」を舞台に開催された、エリア初の地域振興イベント。第 1 話〜第 6 話の物語形式で東予地域の魅力を発信していく取組であり、オープンファクトリー関連では、第 1 話「ものづくり物語」がある。普段見ることのできない工場内の見学やワークショップなど、東予東部圏域のものづくりの現場を体感できるとともに、アーティストとのコラボレーションも組み込まれた魅力あふれるプログラムであった。

FUTURE

次の物語「ネクスト・さんさん」へ

2019 年に開催されたえひめさんさん物語では、地域の資産に新しい風を吹き込み、未来に向かう新しい価値創造に向けた挑戦として、ものづくり、水、連なる山々、別子銅山の歴史や製造品出荷額日本一を誇る紙産業など、地域の資産とアートやアクティビティを大胆に融合させた。イベント終了後は、開催を通じて新たに発見・創造された価値を、引き続き磨き上げ、発信していく次の物語として「ネクスト・さんさん」が始まっている。今後も、取組の成果が途絶えないよう、えひめさんさん物語のマインドを継承し、地域主体で自発的に生まれる活動の支援を続けていく。

INNOVATION

アーティストと協働した、「ものづくり物語」とその後

第 1 話「ものづくり物語」の象徴的イベントとして開催されたのが、「工場のおしばい」である。5/3 は西条市、5/4 は新居浜市、5/5 は四国中央市にて開催した。工場の煙突や建物に人の顔の映像をプロジェクションマッピングで投影し、その顔が話し、お芝居を繰り広げるというユニークな取組。（来場者数 6,700 人）

また、期間中に「アーティスト in ファクトリー」も開催された（5/4、5/5、5/18）。普段はなかなか接点のないアーティストたちと工場が取り組む異業種コラボレーションイベント。アーティストの視点から、それぞれの工場の新たな価値の発見となる作品を作り上げ展示した。（来場者数 6,100 人）

さらに、4 月〜 11 月の期間を通じて、3 市それぞれ 6 社ずつ、計 18 社が「オープンファクトリー」を開催した。（来場者数 70,064 人）

2019 年当時の活動主体であった東予東部圏域振興イベント実行委員会はイベント終了後解散したが、取組の一部は、えひめさんさん物語フォローアップ協議会（事務局：愛媛県東予地方局商工観光課）が受け継ぎ、オンラインを活用した工場見学やアーティスト in ファクトリーなどに引き続き取り組んでいる。

受賞アワード

2020 年　第 6 回 JACE イベントアワード
イベントプロフェッショナル賞　受賞

●事務局連絡先
えひめさんさん物語フォローアップ協議会 事務局
〒 793-8516　愛媛県西条市喜多川 796-1
TEL 0897-56-1300　FAX 0897-56-1308
email tou-syoko@pref.ehime.lg.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NAKAMURA TOKIHIRO

中村 時広 氏

東予東部圏域振興イベント実行委員会
会長
愛媛県知事

東予東部圏域の各市で発達した産業や地域資産を活かして、圏域の魅力を県内外に発信し、交流人口の拡大と観光振興、定住・移住の促進による産業を支える人材の確保につなげ、圏域の一体的かつ持続的な発展を目指して開催。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

えひめさんさん物語総合プロデューサー
澤田 裕二 氏
UG WORK合同会社 代表

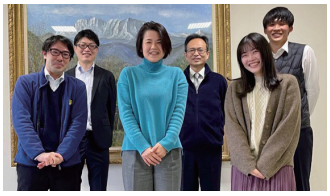
愛知万博やサラゴサ万博日本館のほか、2025年日本国際博覧会ではテーマ事業ディレクターを務めるなど、多くの博覧会や大型イベントの企画・プロデュース等を手がける。

えひめさんさん物語アートプロデューサー
松田 朋春 氏
グッドアイデア株式会社 代表取締役

プランナーとして企業とクリエイターのコラボレーション事業を幅広くプロデュースし、愛媛県下では「道後オンセナート」や「Imabari Color Show」などを手がける。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



東予東部圏域振興イベント実行委員会事務局
（現在は、えひめさんさん物語フォローアップ協議会事務局
（愛媛県東予地方局商工観光課））

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

地元を中心とした企業のみなさま

えひめさんさん物語では、イベントの成功のために約 150 もの企業等が協賛・後援したほか、企業と連携して、えひめさんさん物語を盛り上げる商品の開発や販売を行った。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

企業が単独で実施してきた工場見学を、地域ぐるみのオープンファクトリーとして一体的に実施するのは県内初の試みであり、企業ごとの繁閑に応じた細かい調整、関係者間の意見のすり合わせはもとより、ものづくりの魅力をいかにして「物語」として伝えることができるかに苦心した。実現までには多くのハードルを乗り越える必要があったが、各企業が地域や業種の垣根を越えて、オープンファクトリーという目的のために一丸となることで成功に導くことができた。

TOPICS

アーティスト in ファクトリー

ユニークな取組のひとつに「アーティスト in ファクトリー」がある。

12 組の様々なアーティストが一定期間ものづくり企業に滞在し、工場の新たな価値の発見となるアート作品を制作・展示するというもので、全国でも類のない取組である。アート作品や子供向けのワークショップが契機となり、地域住民と地元工場との新たな交流が生まれたことが評価され、第 6 回 JACE イベントアワードにおいてイベントプロフェッショナル賞（2020 年）を受賞。

（写真）工場のおしばい、オープンファクトリー、アーティスト in ファクトリーの様子。

2021 年〜

佐賀県伊万里市周辺、西松浦郡有田町周辺

NEXTRAD

CORE VALUE

磁器のものづくりに挑む

- EVENT DATA -

開始年　：2021 年
開催回数：2 回
開催期間：10 月下旬、11 月上旬に 2 〜 3 日間
参加企業：14 社（2022 年）
来訪者数：40 〜 50 人（2022 年）
主催　　：NEXTRAD

FEATURES

有田焼窯元若手有志による企画イベント

日本初の磁器として誕生以来、400 年の歴史を誇る有田焼。その窯元若手有志 14 社の集まりである NEXTRAD の展示・体験イベントである。初年度の 2021 年は、工房見学（2 ヶ所、2022 年は 5 ヶ所）と有田焼の製造工程の展示をメインプログラムとして開催。展示会場では、それぞれの窯元が得意とする技術や製造工程を展示している。展示会場で基本的な製造工程の展示を見てから、工房に誘導するスタイルとした。さらに産業の持続可能性を広く伝えるため、産地の抱える課題や廃棄物問題など、SDGs への取り組みについてもパネル展示を行ない、作り手自らが積極的に発信している。

FUTURE

より深化した NEXTRAD へ

今後も継続して、NEXTRAD のイベントを開催していきたい。プログラム構成は大きく変えないものの、より深化した内容で見せていきたいと考えている。

また、この地域では、半径 5km 以内に原材料から最終製品まで製造する工房が揃うという特長を活かして、クラフトツーリズムのツアー先としての可能性にも取り組んでいきたい。少ない移動距離で全ての生産工程を見せることができる点は、他の地域にはない強みであり、ポテンシャルがあると考えている。

●事務局連絡先
NEXTRAD
〒 844-0026
佐賀県西松浦郡有田町外尾町丙 1217 番地　佐賀県陶磁器工業組合内
TEL 0955-42-3164
公式サイト　https://nextrad.jp/

INNOVATION

オープンにすることで生まれる新たな可能性

2017 年から、有田町クリエイティブアドバイザーでもある浜野氏参加のもと、月 1 回のペースで継続的に勉強会を開催している。メンバーは窯元の若手経営者および後継者で構成され、当初は勉強会ごとに座長を持ち回り、各社の取り組みや課題について議論してきた。個々の技術的・経営的な課題をオープンにすることで連帯感や結束力が生まれ、さらに議論を深める中で産地全体が抱える課題や方向性について皆で考えるようになった。

その解決方法として有田のものづくりの魅力を広く伝えるために、磁器の生産現場を紹介する展示・体験イベントを企画。オープンファクトリーも期間中複数回実施した。作り手であるメンバーそれぞれが有田焼のものづくりについて説明することで、参加者と作り手が産地の現状や課題を共有し、これからの磁器のものづくりを一緒になって考えていくことを目指した。

メイン会場には磁器の製造工程を実際に使用する材料や道具とともに順を追って展示。普段は公開していない製造現場を見学できるオープンファクトリーも作り手自らが案内した。製造工程の体験を実施した窯元もあり、機械を使った量産体制でありながら人の手による技術も多くあるということを参加者に実感してもらった。会場内には SDGs への取り組みを紹介・実践するエリアも設けた。廃棄物問題や二酸化炭素排出量の見える化、商品の検品基準に関する提案を行ったところ、産地の現状を知ることで人々の検品基準に対する許容範囲が拡大するというアンケート結果も得られた。

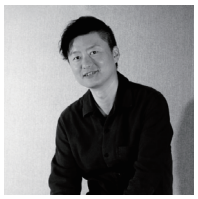
2022 年のイベント終了後、会場を提供頂いた佐賀県陶磁器工業協同組合からの依頼を受け、同組合ギャラリーにイベントで企画した製造工程の展示を常設することになった。若手からの問題提起が産地を少しずつ動かしつつある。

個々の課題や産地の現状をオープンにし、様々な人達と問題意識を共有することによって、持続可能な産業の構築に向けて産地をよい方向へ導けるものと考えている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



FUJIMOTO KOUSUKE

藤本 浩輔 氏

有限会社藤巻製陶 代表

NEXTRAD 初代代表

大学卒業後、京都の窯元・有田の陶芸作家の下での修業を経て実家である有限会社藤巻製陶で家業に従事する傍ら、個人での作陶活動の中で産地外の様々な人達との出会いを通して、post crafts（仮）とでも言うべき次代の伝統産業の在り方に深く想いを巡らす様になる。また、地元の高校で教壇に立ち地場産業・伝統産業の啓蒙・PR 活動にも取り組む。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

NEXTRAD 現リーダー

前田 洋介 氏

有限会社皓洋窯 窯主

熟練した職人と共に、どこか、ほっとするような器づくりに励んでいる。

NEXTRAD 2代目リーダー

徳永 弘幸 氏

株式会社徳幸 代表取締役社長

産地のデザイン力を向上させるべく様々なものづくりの案件に取り組んでいる。

NEXTRAD ファウンダー / アドバイザー

浜野 貴晴 氏

promoduction 代表

佐賀県窯業技術センター外部アドバイザー

有田町 クリエイティブアドバイザー

佐賀大学客員研究員

商品開発やブランディングなどの事業化支援や産地活性化事業に取り組んでいる。

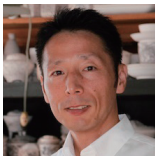
取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局

諸隈 直美 氏

佐賀県陶磁器工業協同組合



運営サポート

前田 真一 氏

有田商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS

佐賀県陶磁器工業協同組合

メインプログラムの１つである、有田焼の製造工程の展示は、佐賀県陶磁器工業協同組合が所有する「有田窯元ギャラリー」にて行った。
NEXTRAD の親組合にあたる佐賀県陶磁器工業協同組合は、新しい取り組みにも非常に寛容。
NEXTRAD メンバーも、次の若手にそうした雰囲気を継承していきたい想いをもっている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

事業規模や形態の異なる、13 名の伊万里・有田の窯元の若手経営者や後継者等で結成された「NEXTRAD」（現在は 14 名：2022 年 7 月時点）。その名には、次代（NEXT）の伝統（TRADITION）を考え、若手集団であるからこそ革新的（RADICAL）に取り組もうという想いが込められている。NEXTRAD の活動として、若手が集まり定期的な自主勉強会を開催していた。その中で、色々な人に産地に来てもらうためにはどうすればよいかという議論になった。現場を見てもらい、知ってもらいたいという思いがメンバーにあった。企画を練っていたところ、新型コロナ感染症が拡大し、企画は一時中断。それでも開催する構想は持ち続け、2021 年に開催に向けて本格的に活動を開始、初回開催に至った。

TOPICS

磁器のものづくりに関わる "13P" の挑戦

2021 年開催時には、“ P ” を頭文字とする 13 のキーワード（Porcelain 磁器 /Process 工程 /Polyethism 分業制 /Professionalism 専門性 /Peculiarity 独自性 /Planning 企画 /Prototype 試作 / Production 生産 /Pricing 価格設定 /Path 流通 /Promotion 販売促進 /Purchaser 顧客 /Partnership 協働）から有田焼について学んでいただける展示にも取り組んだ。有田焼の製造工程や各窯元の得意技術など、産地での磁器のものづくりを作り手自らが創意工夫しながら、紹介した。

（写真）展示会、オープンファクトリーの様子。

II. その他 各地の取組について

本紙においては、「はじめに」に掲載しているとおり、３つの要件を満たすものを「地域一体型オープンファクトリー」として紹介してきたが、調査事業を進める中で、地域や企業が群となって推進するイノベーティブな取組も発掘してきた。
次ページ以降においては、そうした取組の中から、以下３事例を紹介する。

遠野しごと展（岩手県遠野市）

～職人探訪～十日町きもの GOTTAKU（新潟県十日町市）

OSAKA 町工場 EXPO（大阪府東大阪市ほか）

岩手県遠野市

遠野しごと展

遠野しごと展
TONO WORK GUIDE

仕掛け人

TREND SETTER

TOMIKAWA GAKU
富川 岳 氏

株式会社富川屋　代表
ローカルプロデューサー

1987 年新潟県長岡市生まれ。都内の広告会社を経て 2016 年に岩手県遠野市に移住。Next Commons Lab 立ち上げを経て 2017 年に独立。『遠野物語』や郷土芸能など豊かな地域文化に傾倒し、民俗学の視点からその土地の物語を編み直し、いまを生きる人々の糧とするべく様々なクリエーション、プロデュースワークを行う。遠野の文化をテーマにしたデザイン、商品開発、スタディツアー、オリジナル作品づくり、現地でのアーティスト / クリエイターの制作支援など。遠野文化友の会副会長。遠野市観光協会理事。

CORE VALUE

遠野の企業と仕事に出会う

FEATURES

遠野の仕事を知ることができるイベント

製造業を中心とした遠野の“求人中”の企業が集まり、トークイベント、ワークショップ等を通じて遠野の仕事を知ることができるイベント。トークイベントの一部では著名人を招いたゲストトークなども開催。遠野市役所を会場とし、対象者は求職者だけでなく、子どもから高校生、地元の地域市民までと、誰もが楽しめる内容となっている。

遠野市の企業では、人材不足が大きな課題となっており、まちを挙げて発信力と集客力のあるイベントを開催することで、市内企業の認知度向上から求職者の母数拡大を目指した。また、若手人材の成長も意図し、企画が進められた。

FUTURE

オープンファクトリー等様々な活動の広がりへ

初開催となった 2022 年の遠野しごと展は、オープンファクトリーの要素を取り入れた、人材採用・育成の課題解決に向けたプロジェクトである。

2 年目となる 2023 年からは工場を開放するオープンファクトリーの企画や仕事の体験ができるツアーも予定している。過去に高校生向けに工場見学会を開催したこともあるため、その経験も活かしながら各企業では見学者を受入する。その他、出張オープンファクトリーとして、参加企業が盛岡市のマッチングイベントへ参加することも検討するなど、遠野しごと展を軸に、今後様々な活動への広がりが期待される。

- EVENT DATA -

開始年　：2022 年	参加企業：19 社・団体
開催回数：1 回	来訪者数：約 570 人
開催期間：11 月上旬 / 2 日間	主催　　：遠野市

INNOVATION

若手人材の成長・シビックプライドの醸成へ

遠野しごと展開催に向けて、計 4 回の研修を開催。各社から若手を中心に 3~5 人ずつ参加してもらった。参加企業が集合して研修を開催することで、他社がどこをターゲットに、何を PR しているか等、お互いに学び合う場とすることで、全体の底上げを目指した。

トークイベントにも企業の若手社員に出演してもらい、ご当地芸人と掛け合いながら、自社のことを大勢の人前で話す経験を積んでもらった。

こうして、若手社員が前面に登場する場を設けることで、当初から目標とされていた「若手人材の成長」が大きな成果の 1 つとなっている。様々な気付きや、「やらなきゃ・変わらなければ」という気持ちを起こすためには、外的な圧力が必要となる。そのためクローズドな説明会ではなく“たくさんの人に対して説明する、その必要に迫られる舞台”を用意した。そこで得た経験・反省点が前向きな改善につながっている。

他の成果として、参加企業間で既に取引があるケースも多かったが、研修への参加や協業する中で、取引面以外でお互いをより深く知ることにもつながった。福利厚生など、互いの企業の良い取組を知り、社内に取り入れることを検討するなど互いに刺激し合っている。

イベントに参加した地域の方々からも、「遠野に誇りを持てた」「親が働いている企業がこんなにすごい企業だったんだ」「来年は孫を連れてくる」等の声が上がっており、シビックプライド醸成にも繋がっている。

●事務局連絡先

株式会社 富川屋
〒 028-0523　岩手県遠野市中央通り 10-1
info@tomikawaya.com
https://www.tomikawaya.com/

2018 年〜

新潟県十日町市

〜職人探訪〜十日町きもの GOTTAKU

CORE VALUE

知るともっと好きになる。

FEATURES

「きものの総合産地」を楽しむ。

新潟県十日町市は、糸撚り、染め、織り、加工、メンテナンスなどのきもの工場が揃う「きものの総合産地」。「十日町きもの GOTTAKU」は、普段は非公開のきもの工場の見学や、製造工程の一部を体験できる全国唯一のきものに特化したオープンファクトリー。全国でも珍しい一貫体制で製造する企業が存在し、きものづくりの工程を一気に見学できる。3 年ぶりの開催となった 2022 年は、8 社のきもの関連企業が参加。生地からきもの完成までの各工程で伝統を引き継ぐ職人の技を存分に楽しむことができるほか、金彩加工体験等のワークショップも評判が高く、多数の女性来場者で賑わいをみせた。

FUTURE

着物ファンづくりと持続可能な自走に向けて

コロナ禍により中断しブランクが生じたため、感染対策にも配慮しながら、2022 年は規模をおさえて再スタートした。参加企業からは、各社の製品を一同に展示し、来場者同士が交流できるコミュニティスペースの設置など、次の開催に向けたアイデアとして出てきている。

民間の力を束ねつつ、企業と来場者、また来場者同士をつなげ「きものファン」との輪をひろげ、産地の活性化を図る狙いだ。

INNOVATION

訪れるユーザーのナマの声が、職人を刺激。

きもの産業が停滞するなかで、「職人」にスポットを当て、伝統産業であるきものをソトへ向けて PR することを目指して開催されている「十日町きもの GOTTAKU」。

これまで着物に触れてこなかった若い世代は、新鮮な感想を伝えてくれることも少なくない。それは職人にとっての新しい発見や誇りを生むことにもつながっている。十日町市民も普段、実際の工場を見ることが少ないなかで、きもの産業も「つくるもの」から「みせるもの」へと、その可能性が拡がったと捉えられている。

また、若い人に向けたアピールは、GOTTAKU に参加した方が、きもの企業への就職を促す機会にもつながっている。

企業個社では、業界として先駆的な取組を積み重ねてきた十日町。オープンファクトリーを通じて、産業観光、次のビジネスへとつなげていく、新たな可能性を見出すことを目指している。

- EVENT DATA -

開始年　：2018 年　　参加企業：8 社（2022 年）
開催回数：3 回　　来訪者数：273 人（2022 年）
開催期間：5 〜 6 月頃
主催　：十日町きもの GOTTAKU 実行委員会

●事務局連絡先

十日町きもの GOTTAKU 実行委員会
十日町市役所 産業観光部 産業政策課
〒948-8501 新潟県十日町市千歳町 3 丁目 3 番地
TEL 025-757-3139

2020 年～

大阪府東大阪市ほか

OSAKA 町工場 EXPO

VR EXPO

仕掛け人

TRENDSETTER

MEGURO MITSUAKI

目黒 充明 氏

MP-Strategy 合同会社
代表

目黒氏は東大阪市出身。社会人としてのキャリアは、より豊かなビジネス・チャンスを求めて東京でスタートした。IT に強いコンサルタントとして外資系企業、ベンチャー企業、製造業などさまざまな職場を体験。

「東大阪は昔と全然変わっていない」

慢性的な人手不足で営業員不在の町工場に対して、DX の必要性を伝えながら、オンラインで手軽に工場見学ができる VR バーチャルツアー制作サービスを展開すべく、本取組を開始した。

CORE VALUE

バーチャル・オンライン・リアルで未来を切り開く、DX でモノづくりを世界に発信

FEATURES

普段見ることのできない世界を気軽に体感。

普段見ることができない町工場の空間を 360°バーチャルツアーや映像を使って、実際工場見学に来ているかのような体験を来場者の皆様に楽しんでいただくことで、「ものづくりのまち」を離れた場所でも体感してもらう取組。

バーチャル工場見学以外でも、VR クイズの用意など、町工場の魅力を大人から子供まで楽しく知ることができるコンテンツを提供している。

「未来の技術を体感できる」「最先端の技術を知れる」をテーマに、2022 年においては東大阪市が主催する「HANAZONO EXPO」の一環として取り組むことで地域を盛り上げた。約 2,500 人の子供、学生、大人の方に工場見学を VR で体験いただいた。

FUTURE

ものづくりの祭典へ

OSAKA 町工場 EXPO は、「バーチャル・オンライン・リアルで未来を切り開く、DX でモノづくりを世界に発信」をビジョンに掲げ、2025 年大阪・関西万博に向けて、町工場の技術をバーチャルツアーで世界に発信し、世界中の人達とモノづくりの素晴らしことを体現できる祭典にするプロジェクトを目指している。2023 年からは、リアルの工場見学・体験を実施予定。2025 年には、外国人をリアルの工場見学で 1,000 人を目標としている。

INNOVATION

互いに学び合い・刺激合う先に。

チームとしての活動意義は以下の５つを設定しており、この想いを成すために２ヶ月に１度の定例ミーティングを実施。

【活動意義】

・小さな企業でも世界にアピールできる基盤をつくる。
・小さな企業が自社の思い、自社の技術力、自社の社員の素晴らしさを DX で伝える。
・世界のいろんな方と繋がる。
・新たな文化が生まれ、新しい未来をデザインするための実証実験を実践していきます。
・いのち輝く世界を目指していきます。

そうした活動を通して、企業間交流が促進され、様々なイノベーションが創出されている。例えば、キッチントレーラーの開発案件を参画企業共同でチャレンジしたり、新事業としてアウトドア製品の開発、また時勢に合わせた抗菌高機能マスクケースの開発など、一社では踏み切れなかった取組が互いの刺激と触発から生まれている。

また取組を継続することで様々な行政やメディアから取材をいただくことが増え、「日本一明るい経済電波新聞 _MBS ラジオ」への出演や近畿経済産業局が主催する万博活用セミナーへの登壇、近隣大学（大阪商業大学）での授業など様々なご縁を紡ぐ機会へと繋がっている。

今後ものづくりの新たな可能性を見つけるべく、未来実証実験を行ったり、産学官連携の促進など、幅広い活動を通したイノベーションの創出が期待される。

- EVENT DATA -

開始年　：2020 年
開催回数：3 回 / 年
開催期間：例年 4 月・7 月・11 月 90 日間
参加企業：23 社
来訪者数：WEB サイト VR 体験 延べ 14,000 人
　　リアル VR ゴーグル・VR メガネ体験 3,000 人
主催　：OSAKA 町工場 EXPO チーム

●事務局連絡先

MP-Strategy 合同会社
〒 501-3894　大阪府大阪市中央区難波 5-1-60 なんばスカイオ 27F
代表：目黒 充明

Ⅲ.「ナレッジシェア・ポート」開催結果

ナレッジシェア・ポートとは

令和３年度調査「関西の地域一体型オープンファクトリーを発展させる テクニカル･ビジット及びグッド･イミテーション実証調査」では､各地の地域一体型オープンファクトリーの「産地の顔」と呼ばれるキープレイヤー達が共鳴し合う「場」が、互いに新たなグッドプラクティスを生み出す源泉となり、新たな気づきと成長を促し、また互いに共鳴を繰り返す「イノベーション･エコシステムの場」となっていることが明らかとなった。

同時に､「交流」を起点とした「産地の顔」×「産地の顔」がフラットに出会える場､すなわち**「ナレッジシェア･ポート」**を積極的に創り出すことがこのエコシステムを加速させるアクセルポイントになることが示唆された。

そこで､今年度は､関西各地を中心とし､国内各地で躍動する「企業群」における「越境人材」(※)を集め､それぞれが取り組むアクションや、保持するリソースの活かし方を共有し、どのような情報の共有が有意義であるか、どのような共有の仕方が互いに有意義であるかなど、共鳴する要素について公開の場で議論し、参加者も含めた気付きの共有を目的とした**「ナレッジシェア･ポート」実証の場としての関西オープンファクトリーフォーラム**を開催した。

(※) 本事業における「越境人材」の定義
①商流、業種の壁を越えた企業同士を繋ぐ人脈と活動を行っている者
※関連業種同士での繋がりだけでなく､「越境人材」の活動により、通常の商習慣では出会わない者同士を繋ぐ「企業群」を作り出す者
②「企業群」に対して、通常の商習慣では触れることのない、知識・刺激をもたらす者
③「企業群」の内部での交流を活性化させるだけでなく、外部との交流を生み出す者
④「企業群」において、「誰」が「どのような技術・魅力」を持つのかなど、俯瞰力を持つ者

関西オープンファクトリーフォーラムVol.11
触発を生み出す "オープンファクトリー"

開催日時：2022 年 10 月 28 日（金）13:30 ～ 16:30
会場：みせるばやお
主催：経済産業省近畿経済産業局
共催：FactorISM 実行委員会

台東デザイナーズビレッジ村長鈴木淳氏より、地域一体型オープンファクトリーの国内での始まりと言われる、2011 年にスタートした「台東モノマチ」について設立経緯、想いとともに苦労された経験も含めてご紹介。その後、中部地域・関西地域で躍動する地域一体型オープンファクトリー「関の工場参観日」､「FactorISM」について事例紹介。

台東モノマチ
鈴木 淳 氏

FactorISM
松尾 泰貴 氏

関の工場参観日
杉田 映理子 氏

トークセッション

関西オープンファクトリーフォーラムVol.13
取組が生み出す "内発的変化の意義と力"

開催日時：2023 年 2 月 21 日（火）14:00 ～ 17:00
会場：ナレッジキャピタルコングレ コンベンションセンター
主催：経済産業省近畿経済産業局
共催：南海電気鉄道株式会社
（#BIZ TAG NANKAI（ 沿線企業魅力共創プロジェクト））

地域一体型オープンファクトリーは、地域社会と新しい接点を持つことで、地域の企業としての意識（ローカル・カンパニー・プライド）の芽生えやイノベーティブな着想を得る機会につながっている。こうした取組を通して「内発的変化」を実際の事例からご紹介いただき、どのようにイノベーションに繋がっているかを議論した。

FactorISM
松尾 泰貴 氏

泉州オープンファクトリー
延生 康二 氏

和歌山ものづくり文化祭
菊井 健一 氏

トークセッション

関西オープンファクトリーフォーラムVol.14

地域一体型OF × EXPO2025 大阪・関西万博の可能性

開催日時：2023 年 3 月 13 日（月）14:00 ～ 17:00
会場：QUINTBRIDGE(クイントブリッジ)
主催：経済産業省近畿経済産業局
協力：NTT 西日本　QUINTBRIDGE

国内でも最大級の地域一体型オープンファクトリーである新潟県燕三条の「工場の祭典」と福井県越前・鯖江エリアで躍動する「RENEW」のキーパーソンを交え、「大阪・関西万博」というテーマで「× 万博で何が出来るか」を議論。

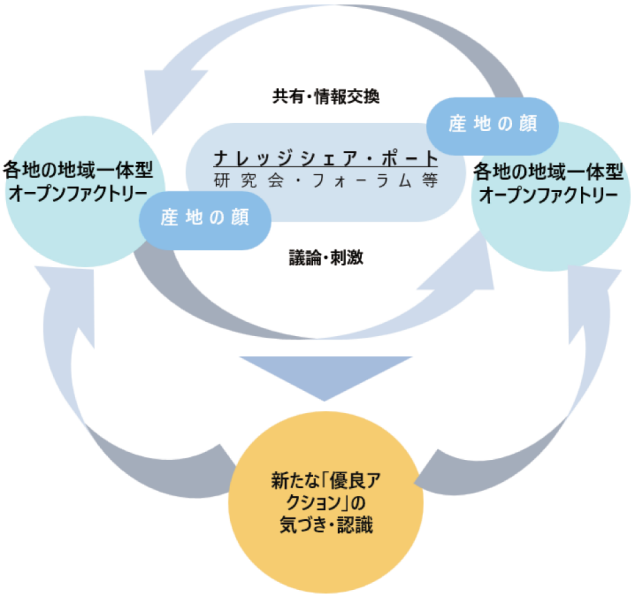
どのような「万博プラスワン」の可能性があるか、それぞれのこれまでの経験・知見、これからの取組の方向性を互いに紹介し合いながら議論を展開。

各地のキープレイヤー同士が公開の場で議論し、得られた考察

フォーラムの開催は、オープンファクトリーの可能性・意義・魅力への気づき 、また他地域の取組を学ぶ場となることで、互いの触発を生み出していることは、昨年度調査でも右図（ナレッジシェア・エコシステム）として紹介されている。

今年度においてはフォーラム開催が互いの触発を生み出す以外の効果として、大きく２つの考察結果が得られた。

また、フォーラムでの議論を通して共有が有意義な（互いに必要とする）情報のポイントも紹介する。



◆　共鳴効果

これまで開催してきたフォーラムイベントに聴講者として参加したことがきっかけで、「**①新たに地域一体型オープンファクトリーを立ち上げた。**」といった効果や、「**②フォーラムで各地の取組の想いを知り、目的意識が共有できそうな地域一体型オープンファクトリーと知り合えたことで、コラボレーションイベントやプロジェクトに発展した。**」といった効果が顕著に表れてきた。

◆　顧みる（かえりみる）効果

各地で繰り広げられる地域一体型オープンファクトリーは、メディアに取り上げられたり、様々な成果が生まれる一方で、「継続すること」が目的となってしまったり、継続しているうちに、様々な方面から定量的な成果に注目が集まってしまうことで、「集客すること」が目的となってしまうことが少なくない。

そうした中、異なる地域のキーパーソン同士がそれぞれの取組への想いや工夫をシェアする機会は、**それぞれが自身を俯瞰する時間となり、「何のためにオープンファクトリーを始めたのか」「オープンファクトリーは『目的』ではなく、『手段の一つ』でしかない」という「初心に立ち返る場」として機能**していた。

◆　共有が有意義な（互いに必要とする）情報のポイント

- 運営体制の構築について　（事務局機能の在り方や負担感の軽減方法など）
- 行政との関わり方について　（補助金、広報、人的支援など様々な協力手法の事例共有など）
- 継続にあたっての課題対応について　（資金の調達方法、法人化対応、マンネリ化の防止など）
- 企業間の意識共有手法について　（連絡手段、目的意識の共有化、定例会・事前勉強会の開催手法など）
- 告知、集客方法について　（SNS の活用手法、スポンサー企業や教育委員会の活用方法など）
- 参加企業社員の巻き込み方について　（経営層以外の社員同士の交流、学びの機会の設定など）
- 成果の可視化について　（対外的に意義が理解されやすい定性的・定量的効果の可視化手法など）

Ⅳ.「知見融合会議」開催結果

知見融合会議とは

令和３年度調査「関西の地域一体型オープンファクトリーを発展させる テクニカル・ビジット及びグッド・イミテーション実証調査」において示唆された「イノベーション・エコシステムの場」をさらに加速させるための、アクセル・ポイントを抽出すべく、各地方経済産業局の知見を掛け合わせる場。当日は、グラフィックレコーディングを活用して議論を展開。

PROGRAM

開催日時：2023 年 1 月 27 日（金）13:00 ～ 17:00
会場：台東デザイナーズビレッジ

1

▶ 鈴木村長による「オープンファクトリー　はじまりと課題と次に向けて」をテーマにした講演、続いて会場である台東デザイナーズビレッジ内を見学。
▶ 各地方経済産業局からの今年度の取組や気づきの発表 (東北→四国→中部→関東→近畿)
▶ 鈴木村長の講演内容を含め、可視化したグラフィックを通した意見交換

2

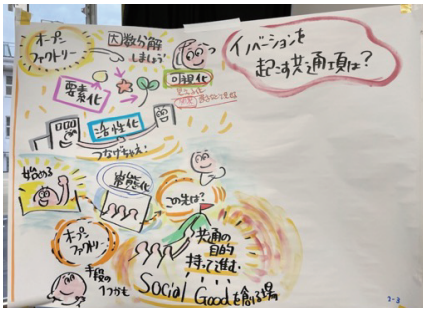
▶ グループに分かれ、互いの業務経験を通したナレッジをシェア、「変化が生まれるポイント」の抽出作業。

3

▶ グラフィックで可視化された、他のグループのディスカッション内容を互いに共有、意見交換。
▶「あなたにとってのオープンファクトリーとは」という問いに対して、全国のオープンファクトリーのプレイヤーが答えたワードとディスカッションで抽出したワードをクロスして、オープンファクトリーを通してイノベーションが生まれる「要素」について検討。

グラフィックレコーディングでの議論の結果

協力：出村沙代氏 / 友澤里子氏 (株式会社たがやす)



◆　会議から考察したイノベーションを生み出すためのアクセルポイント

- 自分たち (地域) の等身大の魅力を、自分たち（地域）自身がリスペクトし、好き（ファン）になること。
- 自分たちだけで考えるのではなく、外の視点も受け入れる「寛容性」と「柔軟性」をもち、多様に翻訳する。
  そして小さく磨き (翻訳) 続けることで、地域の魅力を内外から可視化する。
- 目先の結果を求めるのでは無く、理解者が増え、まち全体が語り部になり、文化となり、さらにサポーターが増え、外のファンが増え、結果としてビジネスに繋がる。すなわち、遠回りのような地固めが、地域が自立し成長するプロセスのステップであり、「未来の成果」への無限の樹形図として受け入れること。

◆　これから始めたい方々が留意すべきポイント

●「してもらう」（受け身）ではなく「一緒にする」（主体的）

・行政が予算を用意して「誰かにやってもらう」、誰かに頼まれたから「企画してあげる」では継続が難しい。

● 求める「結果」が、得られる「結果」とは限らない

・「結果」は「行政と企業と市民」が「志」を持って「行動」した先に生まれるものであり、その因数の掛け合わせで「多様な結果」が発生しうることを許容すること。
・失敗はプロセスとして「未来の成果」に繋がる可能性もあることから、「失敗を許容」し、「継続」する姿勢を有すること。

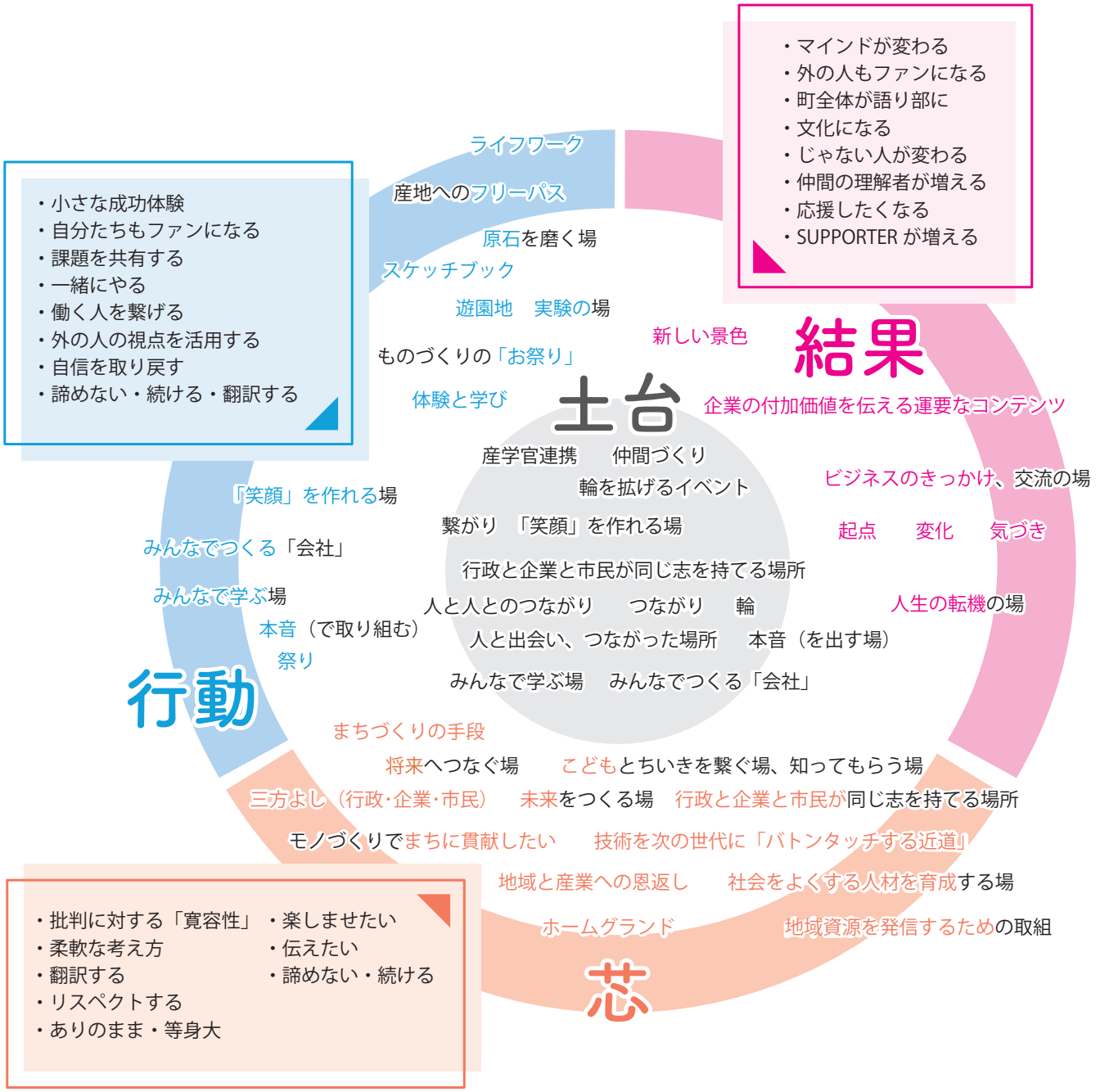
● 多様な参加者がイーブンな「サードプレイス」として

・ これまでの商習慣での関係や、それぞれの立場・役職に影響されない、「同じ目的」に向かう仲間として互いに尊重し合える「サードプレイス」となること。
・ 参加者がそれぞれに「役割」を持って、取組に対するナラティブ (物語) を実感できること。
・ 組織化することを目的とせず、離合が比較的自由なコミュニティであること。

Ⅴ. 今年度調査のまとめ

「オープンファクトリー」とは

全国の地域一体型オープンファクトリー事例調査の際に、**キーパーソンにとっての「オープンファクトリーとは？」**を一言で表現してもらった。その結果をまとめたところ、「**芯**」、「**行動**」、「**結果**」、「**土台**」の 4 つに分類することができた。そして、これらに知見融合会議（「Ⅳ.「知見融合会議」開催結果」参照）で抽出されたワード**（俯瞰した立場から観た継続や活性化に資する要素）**を重ね合わせると、以下の図のように示すことができる。



◆　イノベーションを生み出す地域一体型オープンファクトリーとは

①従来の商習慣や業種の枠に囚われず、「同じ目的 (コア・バリュー)」を持った多様な仲間が集まる「場：コミュニティ」
②目的の根幹に「地域の未来（ソーシャル・グッド※）」を持ち、自分たちの力で実現を目指し、継続させる取組
③「能動的」に「地域に根付く魅力・ストーリー」について「現場体感」を通して伝える取組
※ソーシャル・グッド･･･地球環境や地域コミュニティなどの「社会」に対して良いインパクトを与える活動や製品、サービスの総称を指す

ローカル・イノベーションを生み出す「手法」としての可能性

近年、企業には利益を追求するだけではなく、社会的責任（CSR）を果たすことが求められるようになり、また企業が経済的価値を創出する過程で社会的な価値を創出する、共通価値の創造（CSV）が重要視され、こうした社会的変化は企業の経済的利益だけを目的としたオープンイノベーションの在り方にも変化をもたらしてきた。特に欧州では、「企業、大学、研究機関等による従来の連携の中に、市民や顧客、ユーザーをも巻き込み連携・共創しあうビジネスエコシステムの形成を目指す動き」=「オープンイノベーション 2.0」として進んでおり、イノベーションを経済的利益追求の手段としてだけでなく、雇用創出や生産性向上といった**社会的な共通課題の解決（ソーシャル・グッドの実現）に活用するために「目的」を一にする集合体・コミュニティがイノベーションの苗床**として注目されている。

前頁において言及した場や取組をはじめ、本調査からは「地域一体型オープンファクトリー」が上述のオープンイノベーション 2.0 を体現する実例と考察できる一方で、目指すべき「ソーシャル・グッド」は、「ものづくり」の観点に限らず、多様な観点が想定されうる。

すなわち、「地域の特性・個性を活かした 多様性のある集団が群となってソーシャル・グッドに取り組むコミュニティ」がオープンイノベーション 2.0 を体現するということであり、本調査の題材とした「地域一体型オープンファクトリー」の上位概念を導き出すことができる。本調査では、これを『**Local X Lab.**』という名称で示唆したい。

※「X」は、活用できる資源・地域の特性に応じて自由に設定できることを意味する。

変化の認知とさらなるオープンイノベーションの促進に向けて

◆ 集積の在り方における選択肢の増加

1. 情報が集まる行政と実行力のある企業群で産業を創り出す

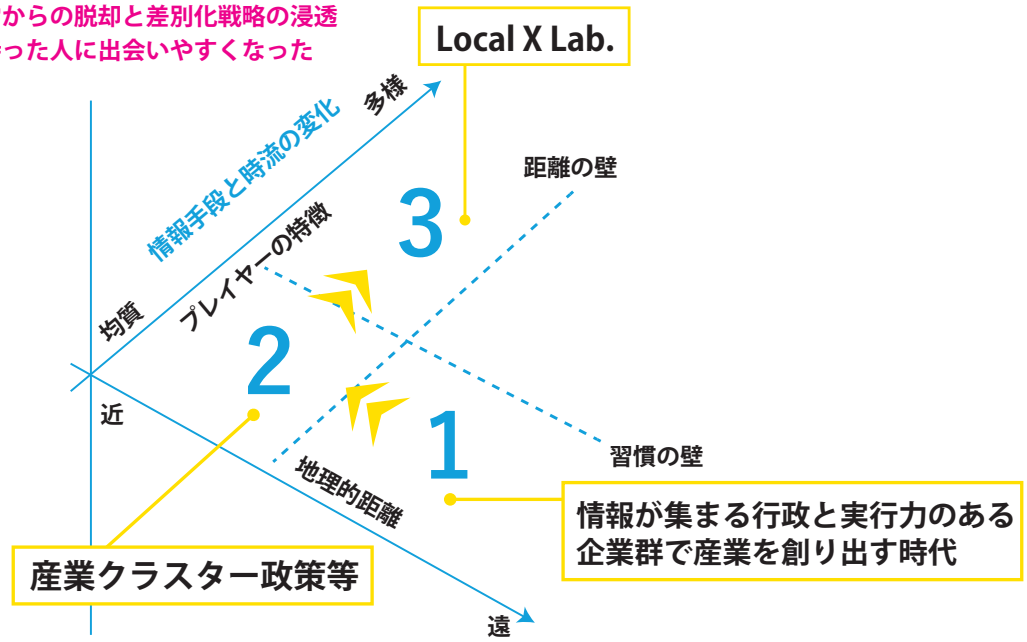
2. 地域産業集積を活かした効率化と産学官連携の浸透による均質性・類似性を活かしたオープンイノベーション

（産業クラスター政策等）

3. 市民や「生活者」の産業への参画（発信手法の変化(SNS等)）により多様なプレイヤーが同じ目的（パーパス）を持って集い、

”多：多”のオープンイノベーションを生み出す時代へと、「情報流量、情報チャネルの進化・多様化」と共に、産業集積の在り方にも新たな選択肢が生まれている。

- **一社依存経営からの脱却と差別化戦略の浸透**
- **同じ想いを持った人に出会いやすくなった**



◆ 今後のオープンイノベーションの促進に向けた示唆

地域によって上述の『**Local X Lab.**』における「X」に該当する可能性のある要素は多様にあると想定される。そこで、**VUCA 時代における次代の産業クラスター政策としての「Local Lab.」の多様な可能性について見いだすべく**、前頁の場・取組を前提として、どのような「要素」が「X」になりうるのか、地域の実例を探りながら抽出し、ロールモデルを可視化することが、既存の業種や商習慣の枠組みにとらわれない国内における「オープンイノベーション 2.0」の加速化に繋がるものと考察する。

（上図）目的のもとに人々が集まり、イノベーションが生まれる様を、「関わる多様な人々が色どり、その地域だからこそ育つ樹木」として、今年度の調査事業を通して表現したマーク。

＜制作・編集＞
事業名：令和 4 年度地方経済産業局連携による地域一体型オープンファクトリー等を中心とした地域企業群の
「予定調和のない共創」を繋ぐ「ナレッジシェア・ポート (知識移転の場) 創出」実証事業
委託事業者：株式会社ダン計画研究所

OPEN FACTORY REPORT 1.0

経済産業省近畿経済産業局　総務企画部中小企業政策調査課

〒540-8535　大阪市中央区大手前1-5-44

TEL: 06-6966-6057 ｜ MAIL: bzl-kin-chushokigyoseisaku@meti.go.jp

HP: https://www.kansai.meti.go.jp/chushoresearch.html

2023年3月 発行　※掲載内容・画像の無断転載・複製を一切禁じます